ONKYO

AVレシーバー

TX-NR818

取扱説明書

Made for iPod iPhone

特長

アンプ

- 各種サラウンド方式に対応した7チャンネルアンプ
- 再生周波数の広帯域化を図るWRAT（Wide Range Amplifier Technology）搭載
- 信号とノイズ領域との近接を回避して、聴感上のS/Nを向上させる、リニア・オプティマム・ゲイン・ボリューム回路
- 3段インバーテッドダーリントン回路搭載

処理

- THX Select2 Plus規格に準拠
- 高性能ビデオフォーマットコンバーター「Qdeo™」搭載
- HDMI経由で入力された映像信号をより上位の解像度にアップスケーリングするHQV®-Vidaビデオプロセッサ搭載
- ビデオコンバーター搭載〔ビデオ（コンポジット）/D4/コンポーネント信号をHDMI出力端子に出力〕
- HDMI（Audio Return Channel、3D、DeepColor、x.v.Color、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCMに対応）
- Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audioリスニングモード搭載
- Dolby Pro Logic IIz Height（フロントハイスピーカー対応）リスニングモード搭載
- DTS Neo:Xリスニングモード搭載
- Audyssey DSX®（フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカー対応）リスニングモード搭載
- ダウンミックスによる、フロントL/Rチャンネルのダイナミックレンジの減少や、S/N劣化を防ぐ技術「ノン・スケーリング・コンフィグレーション」採用の回路
- もともとの音源のまま、ピュアな音を楽しむDirectリスニングモードと、ノイズを最小限におさえ、本来の音を楽しむことのできるPure Audioリスニングモード搭載
- 圧縮された音楽ファイルを、より良い音で楽しむMusic Optimizer™機能搭載
- 192 kHz /24bit D/Aコンバーター搭載
- 極めて高い演算能力を持つ、32bit DSP（Digital Signal Processor）搭載
- LFEチャンネルを持たないソースでも、サブウーファーを効果的に動作させるダブルバス機能搭載
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、レイトナイト機能搭載（Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD時のみ）
- Ethernet、USB経由でMP3、WAV、WMA、MPEG4、AAC、FLAC、OggVorbis、Apple Lossless、DSD、Dolby TrueHDフォーマットの音楽ファイルを再生可能
- 新たに正確な信号を作り出し、デジタル信号のゆらぎを排除するPLL（Phase Locked Loop）方式ジッタークリーナー搭載
- Digital Processing Crossover Network機能搭載

接続

- デジタル映像/音声信号を、1本のケーブルで伝送可能なHDMI入力8系統（フロント1系統）、出力2系統装備
- D4/コンポーネント映像入力端子各2系統、出力端子各1系統装備
- システムを制御するオンキヨー RIHD（Remote Interactive over HDMI）搭載
- デジタル音声入力端子として、光3系統（フロント1系統）/同軸3系統装備
- iPod®/iPhone®、USBストレージ、オンキヨー製ワイヤレスUSB LANアダプター UWF-1を接続できるフロント、およびリアUSB端子装備

* iPod/iPhoneはフロントのみ対応

- MHL対応モバイル機器対応のAUX端子を装備
- フロントハイスピーカー接続端子、およびフロントワイドスピーカー接続端子装備
- 9チャンネルプリアウト端子装備
- パソコンとの接続にアナログRGB入力端子装備
- 精度の高い高音域、低音域を実現するバイアンプ接続が可能
- インターネットラジオ受信可能

その他

- AM/FM合わせて最大40局までプリセット可能
- 付属の測定用マイクで自動スピーカー設定可能（Audyssey MultEQ® XT32）
- 小音量でもサラウンドを楽しめる、Audyssey Dynamic EQ®機能搭載
- 音量の大小を即時に調整する、Audyssey Dynamic Volume®機能搭載
- 音量レベル差を自動調整するDolby Volume機能搭載
- 2つまたは3つのスピーカーでも、バーチャル5.1サラウンドが楽しめるT-D（Theater-Dimensional）リスニングモード搭載
- AACデコーダー搭載
- 高音域が強調された劇場用サウンドを、ご家庭で適切なバランスに補正するRe-EQ機能搭載
- 飛躍的な音質向上、デジタル信号からピュアなアナログ信号を生成する、VLSC（Vector Linear Shaping Circuitry）をフロントL/Rチャンネルに搭載
- 音声と映像のズレを補正する、AVシンクコントロール機能搭載
- 映像/音声入力が無く、無操作の状態で一定時間経つと、本機が自動的にスタンバイ状態に移行する、自動スタンバイ機能搭載
- モニターを見ながら、簡単設定ができるOSD（On Screen Display）機能搭載
- 他機の操作を可能にするマクロ機能およびプリプログラム機能（OSD機能によるコード検索が可能）搭載のリモコン付属
- ISFビデオ・キャリブレーション機能搭載
- メインルームで再生しながら別室で異なるソースを楽しめるゾーン2/ゾーン3機能

目次

基本的な接続・設定や操作については、同梱の「スタートアップガイド」と一緒に本書をご覧ください。本書では、それぞれの詳細や応用設定について詳しく説明しています。

はじめに

接続をする

電源のオン・オフと基本操作をする

設定をする

他の製品を操作する

その他

修理を依頼する前に

本機をリセットしてすべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことでトラブルが解消されることがあります。電源を入れた状態で本体の**CBL/SAT**ボタンを押したまま、⏻**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押してリセットしてください（➔ **P.95**）。

安全上のご注意

安全にお使いいただくため、ご使用の前に必ずお読みください。

電気製品は、誤った使いかたをすると大変危険です。
あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、「安全上のご注意」を必ずお守りください。

「警告」と「注意」の見かた

間違った使いかたをしたときに生じることが想定される危険度や損害の程度によって、「警告」と「注意」に区分して説明しています。

誤った使いかたをすると、火災・感電などにより死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容です。

誤った使いかたをすると、けがをしたり周辺の家財に損害を与える可能性が想定される内容です。

絵表示の見かた

△ 記号は「ご注意ください」という内容を表しています。

高温注意

感電注意

⦸ 記号は「～してはいけない」という禁止の内容を表しています。

分解禁止

ぬれ手禁止

● 記号は「必ずしてください」という強制内容を表しています。

電源プラグをコンセントから抜く

必ずする

警告

故障したまま使用しない、異常が起きたらすぐに電源プラグを抜く

電源プラグをコンセントから抜く

- 煙が出ている、変なにおいや音がする
- 本機を落としてしまった
- 本機内部に水や金属が入ってしまった

このような異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源プラグをコンセントから抜いて販売店に修理・点検を依頼してください。

カバーははずさない、分解、改造しない

分解禁止

火災・感電の原因となります。
内部の点検・整備・修理は販売店に依頼してください。

接続、設置に関するご注意

■通風孔をふさがない、放熱を妨げない

禁止

本機には内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災ややけどの原因となることがあります。

- 押し入れや本箱など通気性の悪い狭い所に設置して使用しない
  （本機の天面、横から20cm以上、背面から10cm以上のスペースをあける）
- 逆さまや横倒しにして使用しない
- 布やテーブルクロスをかけない
- じゅうたんやふとんの上に置いて使用しない

■水蒸気や水のかかる所に置かない、本機の上に液体の入った容器を置かない

水場での使用禁止

水濡れ禁止

本機に水滴や液体が入った場合、火災・感電の原因となります。

- 風呂場など湿度の高い場所では使用しない
- 調理台や加湿器のそばには置かない
- 雨や雪などがかかるところで使用しない
- 本機の上に花びん、コップ、化粧品、ろうそくなどを置かない

■ETHERNET ポートには電話回線を接続しない

禁止

本機のETHERNET ポートに以下のネットワークや回線を接続すると、必要以上の電流が流れ、故障や火災の原因となります。

- 一般電話回線
- デジタル式構内交換機（PBX）回線
- ホームテレホンやビジネスホンの回線
- 上記以外の電話回線など

電源コード・電源プラグに関するご注意

■電源コードを傷つけない

禁止

- 電源コードの上に重い物をのせたり、電源コードが本機の下敷にならないようにする
- 傷つけたり、加工したりしない
- 無理にねじったり、引っ張ったりしない
- 熱器具などに近づけない、加熱しない

電源コードが傷んだら（芯線の露出・断線など）販売店に交換をご依頼ください。
そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

⚠ 警告

■ 電源プラグは定期的に掃除する

必ずする

電源プラグにほこりなどがたまっていると、火災の原因となります。電源プラグを抜いて、乾いた布でほこりを取り除いてください。

使用上のご注意

■ 本機内部に金属、燃えやすいものなど異物を入れない

禁止

火災・感電の原因となります。特に小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。
- 本機の通風孔から異物を入れない
- 本機の上に通風孔に入りそうな小さな金属物を置かない

■ 長時間音がひずんだ状態で使わない

禁止

アンプ、スピーカーなどが発熱し、火災の原因となることがあります。

■ 雷が鳴りだしたら本機、接続機器、接続コード、アンテナ、電源プラグに触れない

接触禁止

感電の原因となります。

■ 長時間大きな音で使用しない

禁止

本機をご使用になる時は、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長期間続けて使用すると、聴力が大きく損なわれる恐れがあります。

電池に関するご注意

■ 乾電池を充電しない、加熱・分解しない、火や水の中に入れない

禁止

電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。
- 指定以外の電池は使用しない
- 新しい電池と古い電池を混ぜて使用しない
- 電池を使い切ったときや長時間リモコンを使用しないときは電池を取り出す
- コインやネックレスなどの金属物と一緒に保管しない
- 極性表示（プラス⊕とマイナス⊖の向き）に注意し、表示通りに入れる

■ 電池から漏れ出た液にはさわらない

接触禁止

万一、液が目や口に入ったり皮膚に付いた場合は、すぐにきれいな水で充分洗い流し、医師にご相談ください。

⚠ 注意

接続、設置に関するご注意

■ 不安定な場所や振動する場所には設置しない

禁止

強度の足りないぐらついた台や振動する場所に置かないでください。
本機が落下したり倒れたりして、けがの原因となることがあります。

■ 本機の上に10kg以上の重いものや外枠からはみ出るような大きなものを置かない

禁止

バランスがくずれて倒れたり落下して、けがの原因となることがあります。また、本機に乗ったりしないでください。

■ 配線コードに気をつける

注意

配線された位置によっては、つまずいたり引っかかったりして、落下や転倒など事故の原因となることがあります。

■ 屋外アンテナ工事は販売店に依頼する

必ずする

アンテナ工事には技術と経験が必要です。

電源コード・電源プラグに関するご注意

■ 表示された電源電圧（交流100ボルト）で使用する

必ずする

本機を使用できるのは日本国内のみです。
表示された電源電圧以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意

■ **電源コードを束ねた状態で使用しない**

禁止

発熱し、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らない**

禁止

コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
プラグを持って抜いてください。

■ **長期間使用しないときは電源プラグをコンセントから抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

絶縁劣化やろう電などにより、火災の原因となることがあります。

■ **電源プラグは、コンセントに根元まで確実に差し込む**

禁止

差し込みが不完全のまま使用すると、感電、発熱による火災の原因となります。
プラグが簡単に抜けてしまうようなコンセントは使用しないでください。

■ **ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない**

ぬれ手禁止

感電の原因になることがあります。

■ **お手入れの際は電源プラグを抜く**

電源プラグをコンセントから抜く

お手入れの際は、安全のため電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

使用上のご注意

■ **通風孔の温度上昇に注意**

高温注意

本機の通風孔付近は放熱のため高温になることがあります。
電源が入っているときや、電源を切った後しばらくは通風孔付近にご注意ください。

■ **音量を上げすぎない**

禁止

- 突然大きな音が出てスピーカーやヘッドホンを破損したり、聴力障害などの原因となることがあります。
- 始めから音量を上げ過ぎると、突然大きな音が出て耳を傷めることがあります。音量は少しずつ上げてご使用ください。

移動時のご注意

■ **移動時は電源プラグや接続コードをはずす**

電源プラグをコンセントから抜く

コードが傷つき火災や感電の原因になります。

■ **本機の上にものを乗せたまま移動しない**

禁止

本機の上に他の機器を乗せたまま移動しないでください。
落下や転倒してけがの原因になります。

■ **機器内部の点検について**

お客様のご使用状況によって、定期的に機器内部の掃除をおすすめします。
本機の内部にほこりがたまったまま使用していると火災や故障の原因となることがあります。
特に湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。内部清掃については、販売店にご相談ください。

■ **本機のお手入れについて**

- 表面の汚れは、中性洗剤をうすめた液に布を浸し、固く絞って拭き取ったあと乾いた布で拭いてください。化学ぞうきんなどをお使いになる場合は、それに添付の注意書きなどに従ってください。
- シンナー、アルコールやスプレー式殺虫剤を本機にかけないでください。塗装が落ちたり変形することがあります。

付属品

ご使用の前に、次の付属品がそろっていることをお確かめください。
（　）内の数字は数量を表しています。

リモコン（RC-840M）…（1）
乾電池（単3形、R6）…（2）

スピーカーコード用ラベル…（1）（➔ P.16）

電源コード…（1）（➔ P.24）

測定用マイク…（1）（➔ P.39）

AM室内アンテナ…（1）（➔ P.24）

FM室内アンテナ…（1）（➔ P.24）

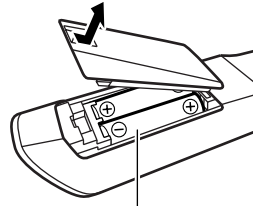
取扱説明書（本書）…（1）

スタートアップガイド…（1）

保証書…（1）

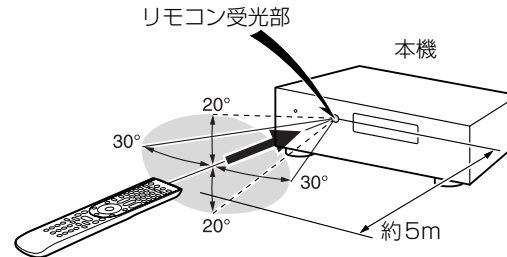
ユーザー登録カード…（1）

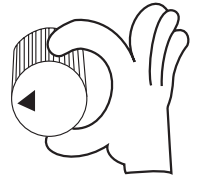
カタログおよび包装箱などに表示されている、型名の最後にあるアルファベットは、製品の色を表す記号です。色は異なっても操作方法は同じです。

■ 乾電池を入れる

ご注意

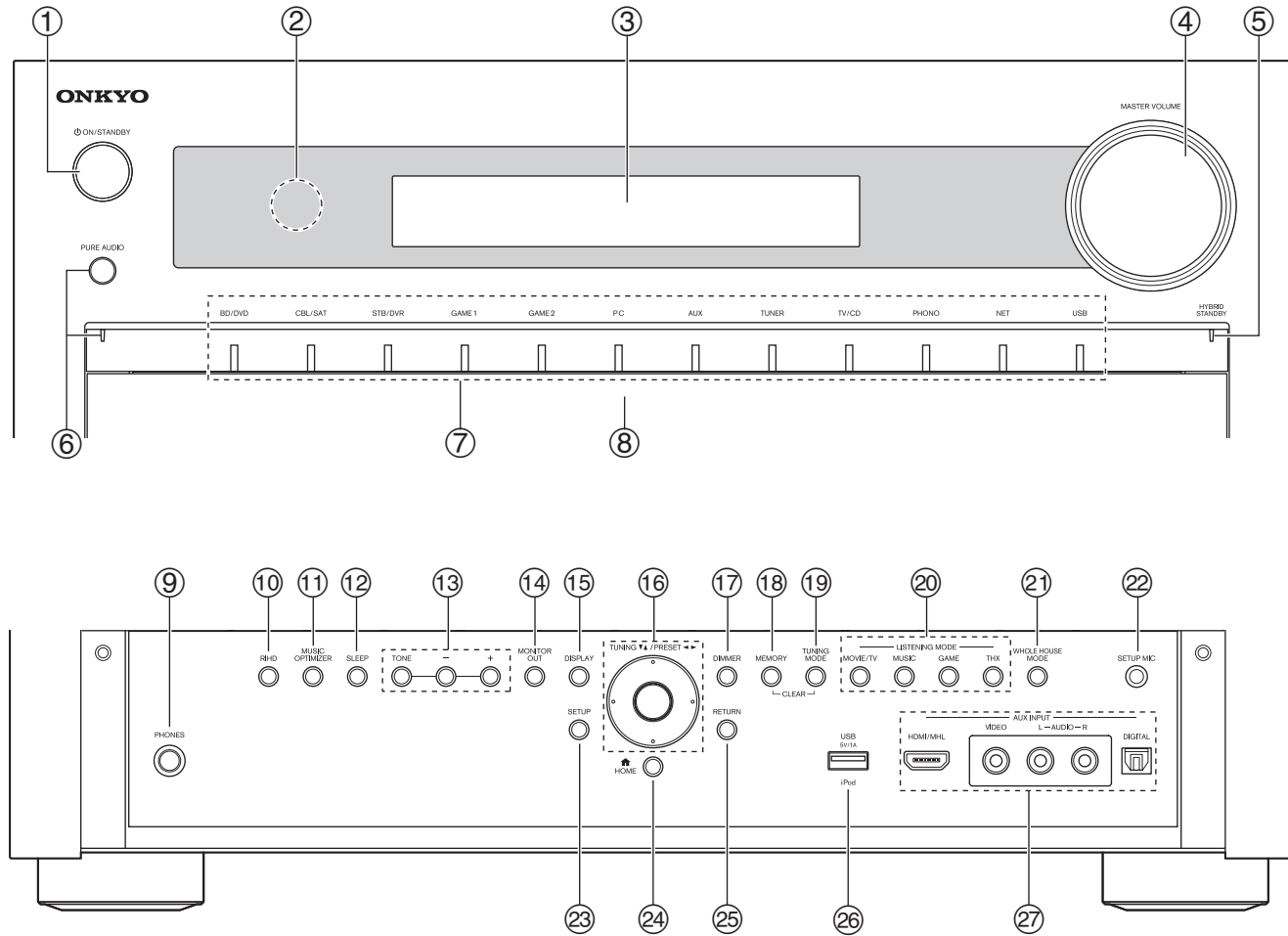
- 種類の異なる電池や、新しい電池と古い電池を混用しないでください。
- 長期間リモコンを使用しないときは、電池の液漏れを防ぐために、電池を取り出しておいてください。
- 消耗した電池を入れたままにしておきますと、腐食によりリモコンをいためることがあります。リモコン操作の反応が悪くなったときは、古い電池を取り出して、2本とも新しい電池と交換してください。
- 電池の交換時には、単3形をご使用ください。

■ リモコンの使いかた

リモコンを本機のリモコン受光部に向けて使用してください。

音のエチケット

楽しい映画や音楽も、時間と場所によっては気になるものです。
隣り近所への配慮を十分にしましょう。特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。
お互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
ご使用前にこの「取扱説明書」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
お読みになったあとは、いつでも見られる所に保証書とともに大切に保管してください。

前面パネルと後面パネル

前面パネル

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **⏻ON/STANDBYボタン**（25）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **リモコン受光部**（7）
リモコンからの信号を受信します。

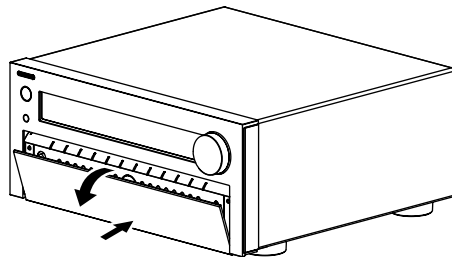
③ **表示部**（10）

④ **MASTER VOLUMEつまみ/インジケーター**（28、51）
音量をMin・0.5…99.5・Maxの範囲で調整します。
相対値（THX）として音量表示するには、「ボリューム設定」（➔ P.78）をご覧ください。－∞dB・－81.5dB…＋18.0dBの範囲で調整できます。

⑤ **HYBRID STANDBYインジケーター**（60）
HDMIスルー、ネットワークスタンバイ機能が有効に設定されているときに本機がスタンバイになると点灯します。
本機の設定状況によっては点灯しないこともあります。

⑥ **PURE AUDIOボタン/インジケーター**（42）
リスニングモードをPure Audioにします。
リスニングモードがPure Audioのとき、インジケーターが点灯します。

⑦ **入力切換ボタン**（28）
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

⑧ **フロントドア**
前面パネルの下部をゆっくりと押して、開けてください。

⑨ **PHONES端子**（53）
標準プラグのステレオヘッドホンを接続する端子です。

⑩ **RIHDボタン**（54）
本機とHDMI接続したCEC（Consumer Electronics Control）対応機器や、RIHD対応機器との連動をオン/オフします。

⑪ **MUSIC OPTIMIZERボタン**（53）
ミュージックオプティマイザー機能をオン/オフします。

⑫ **SLEEPボタン**（51）
スリープタイマーを設定します。

⑬ **TONE/トーンレベルボタン**（56）
高音、低音を調整します。

⑭ **MONITOR OUTボタン**（61）
モニターの出力設定を行います。

⑮ **DISPLAYボタン**（51）
表示部の情報を切り換えます。

⑯ **TUNING ▲/▼**（37）、**PRESET ◄/►**（37）、**カーソル、エンターボタン**
AM/FM放送をお聴きになる時に、**TUNING ▲/▼**ボタンは周波数選択に使用し、**PRESET ◄/►**ボタンは登録した放送局を選択する時に使用します。カーソルは設定項目を選択するときに使用します。エンターボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑰ **DIMMERボタン**（51）
表示部の明るさを切り換えます。

⑱ **MEMORYボタン**（37）
放送局を登録したり、削除するときに使用します。

⑲ **TUNING MODEボタン**（37）
選局モードを切り換えるときに使用します。

⑳ **LISTENING MODEボタン**（42）
リスニングモードを選びます。

㉑ **WHOLE HOUSE MODEボタン**（52）
ホールハウスモードを有効にします。

㉒ **SETUP MIC端子**（39）
付属の測定用マイクを接続して、自動スピーカー設定を行います。

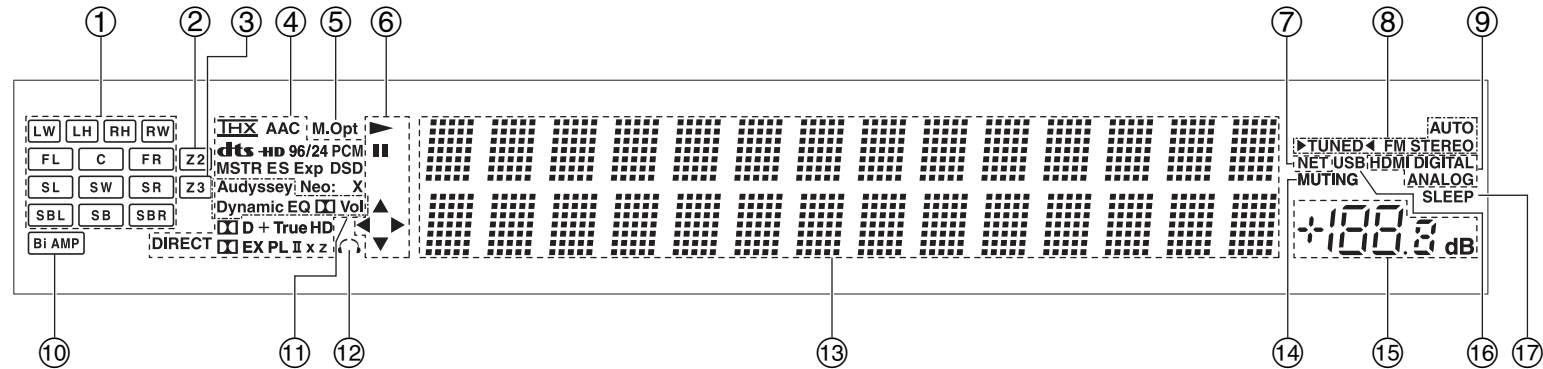
㉓ **SETUPボタン**（59）
本機の設定を行います。

㉔ **HOMEボタン**（50）
ホームメニューを表示させせます。

㉕ **RETURNボタン**
設定中に1つ前の表示に戻します。

㉖ **USB端子**（21）
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。また、iPod/iPhoneを接続して、音楽/映像ファイルを再生できます。

㉗ **AUX INPUT端子**（20）
HD ビデオカメラやMHL対応モバイル機器などを接続します。

表示部

詳細については、（　）内のページをご覧ください。

① **スピーカー / チャンネル表示**
リスニングモードに対応した出力チャンネルを表示します。

② **Z2表示（82）**
ゾーン２への出力をオンにすると点灯します。

③ **Z3表示（82）**
ゾーン３への出力をオンにすると点灯します。

④ **リスニングモード、デジタル音声入力信号フォーマット表示（42、76）**
入力されているデジタル信号の種類、およびリスニングモードを表示します。

⑤ **M.Opt表示（53、58）**
ミュージックオプティマイザーが有効に設定されているときに点灯します。

⑥ **►、▮▮、カーソル表示（30）**
NET（ネット）、USB操作時に点灯します。

⑦ **NET表示（31～34、36、80）**
入力に「**NET**」が選ばれているとき、本機がホームネットワーク（LAN）に接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑧ **AM/FM受信状態表示**

AUTO（オート）表示（37）
選局モードがオートのときに点灯します。

TUNED（チューンド）表示（37）
自動的に放送局を探しているときは、►◄が点滅します。放送局を受信するとチューンド表示（**►TUNED◄**）が点灯します。

FM STEREO（ステレオ）表示（37）
FM ステレオ局を受信すると点灯します。

⑨ **音声入力表示（106）**

HDMI表示（79）
HDMI信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

DIGITAL（デジタル）表示
デジタル信号が入力かつ選択されているときに点灯します。

ANALOG（アナログ）表示
アナログ信号が入力かつ選択されている、またはHDMI、デジタル信号の入力が割り当てられていないときに点灯します。

⑩ **Bi AMP表示（17、63）**
「**スピーカータイプ(フロント)**」の設定を「**バイアンプ**」に設定していると点灯します。

⑪ **Audyssey（オーディシー）/Dynamic（ダイナミック） EQ/ Vol（ボリューム） /DD表示（39、71）**

Audyssey表示
自動スピーカー測定中に点滅します。また、「**Audyssey**」を有効に設定しているときや（➔ **P.71**）、Audyssey DSX®リスニングモードのときにも点灯します。

Dynamic EQ表示
Dynamic EQが「**オン**」に設定されているときに点灯します（➔ **P.71**）。

Dynamic Vol表示
Dynamic Volumeが有効に設定されているときに点灯します（➔ **P.72**）。

DD Vol表示
Dolby Volumeが「**オン**」に設定されているときに点灯します（➔ **P.57、69**）。

⑫ **ヘッドホン表示（53）**
ステレオヘッドホンを**PHONES**（フォーンズ）端子に接続すると点灯します。

⑬ **多目的表示部**
入力信号の様々な情報を表示します。**DISPLAY**（ディスプレイ）ボタンを押すと、入力されている信号のフォーマットやリスニングモードなどを表示します。

⑭ **MUTING（ミューティング）表示（53）**
ミューティングが働いているときに点滅します。

⑮ **ボリュームレベル（28）**
音量を表示します。

⑯ **USB表示（30、31）**
入力に「**USB**」が選ばれているとき、USBストレージ（USBメモリーなど）が接続されていると点灯します。正しく接続されていないときは点滅します。

⑰ **SLEEP（スリープ）表示（51）**
スリープタイマーが設定されているときに点灯します。

後面パネル

電源入力AC100V
USB
ETHERNET
HDMI (ASSIGNABLE)
COMPONENT VIDEO (ASSIGNABLE)
D4 VIDEO (ASSIGNABLE)
PC IN
RS232
VIDEO/AUDIO IN
MONITOR OUT
REMOTE CONTROL
COAXIAL
OPTICAL
DIGITAL IN (ASSIGNABLE)
GND
PHONO
TV/CD
PC
GAME 1
STB/DVR
CBL/SAT
BD/DVD
FRONT
CENTER
SURR
SB/FH/FW
SUBWOOFER
PRE OUT
EXT AMP
ZONE 2
ZONE 3
LINE OUT
ANTENNA
AM
FM 75Ω
ONKYO
TX-NR818
SURR BACK
FRONT HIGH
FRONT WIDE
HIGH FREQUENCY
LOW FREQUENCY
Bi-AMP

① **RI REMOTE CONTROL端子**
RI端子付きオンキヨー製品と接続し、連動させる端子です。RIケーブルの接続だけでは連動しません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

② **USB端子**
USBストレージ（USBメモリーなど）を接続して、中に入っている音楽ファイルを再生できます。

③ **ETHERNET端子**
ホームネットワーク（LAN）と接続するための端子です。イーサネットケーブルを使ってルータやハブに接続します。

④ **RS232コネクター**
この端子はコントロール用の端子です。

⑤ **コンポジットビデオ/アナログオーディオ端子**
アナログ映像信号とアナログ音声信号を入力する端子です。

⑥ **HDMI IN/OUT(MAIN/SUB) 端子**
HDMI IN端子
接続した機器からデジタル映像信号とデジタル音声信号を入力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。
HDMI OUT(MAIN/SUB)端子
本機からデジタル映像信号とデジタル音声信号をテレビに出力する端子です。
MAIN/SUBのどちらから出力するかは、「**モニター出力設定**」で切り換えます（➔ P.61）。

⑦ **COMPONENT VIDEO IN/MONITOR OUT端子**
コンポーネント映像を入出力する端子です。入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑧ **D4 VIDEO IN/OUT端子**
D映像を入出力する端子です。各入力端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑨ **ZONE 2/ZONE 3 LINE OUT端子**
別室（ゾーン2/ゾーン3）で使用するアンプを接続するアナログの音声出力端子です。

⑩ **AM ANTENNA/FM ANTENNA（75Ω）端子**
付属のAM室内アンテナ/FM室内アンテナまたは、AM/FM屋外アンテナを接続する端子です。

⑪ **PC IN端子**
パソコンと接続してRGB信号を入力する端子です。

⑫ **電源入力AC100V端子**
付属の電源コードを接続します。

⑬ **DIGITAL IN COAXIAL/OPTICAL端子**
デジタル再生機器と音声接続する入力端子です。各端子は接続機器に合わせて、入力切換ボタンに割り当てることができます。

⑭ **GND端子**
レコードプレーヤーのアース線を接続します。

⑮ **MONITOR OUT V端子**
接続しているモニターやテレビにビデオ映像を出力する端子です。

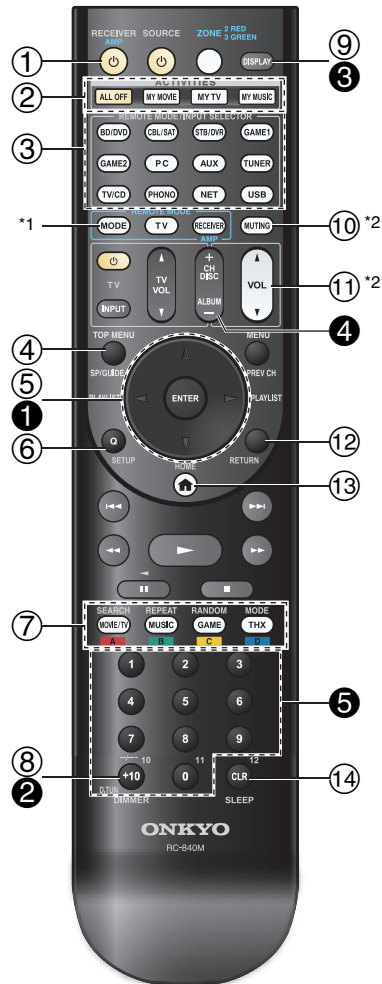
⑯ **PRE OUT端子**
パワーアンプやアンプ内蔵サブウーファーなどと接続します。
2つの**SUBWOOFER PRE OUT**端子からは同じ信号が出力されます。

⑰ **SB/FH/FW EXT AMP*端子**
パワーアンプと接続をして、サラウンドバック、フロントハイ、フロントワイドスピーカーを出力する端子です。チャンネルは、「**外部アンプを接続するチャンネル**」設定で切り換えます（➔ P.63）。
SB…サラウンドバック、**FH**…フロントハイ、
FW…フロントワイド

⑱ **スピーカー端子**
スピーカーを接続します。

接続については「接続をする」をご覧ください（➔ P.14～24）。

リモコン

本機を操作する

RECEIVER（レシーバー）モード

本機を操作するときは、はじめにRECEIVERボタンを押して、RECEIVERモードにしてください。
また、リモコンでお手持ちのブルーレイディスク/DVDプレーヤーやCDプレーヤーなどの、AV機器も操作することができます。詳しくは「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ P.85）。

（　）内のページに主な説明があります。
詳しくはそちらをご覧ください。

① **⏻RECEIVERボタン**（25）
電源のオン/スタンバイを切り換えます。

② **ACTIVITIES（アクティビティーズ）ボタン**（53、94）
マクロ機能を使用するときに使います。

③ **REMOTE（リモート） MODE（モード）/INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタン**（28）
入力を切り換えて、再生する機器を選びます。

④ **SP（スピーカー） ボタン**（52）
フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカー、またはサラウンドバックスピーカーの選択を切り換えます。

⑤ **▲/▼/◄/►/ENTER（エンター）ボタン**
設定項目を選択します。**ENTER**ボタンを押すと、選択している項目を確定します。

⑥ **Q SETUP（セットアップ）ボタン**（55）
本機の簡単な設定を行います。

⑦ **リスニングモードボタン**（42）
リスニングモードを選びます。

⑧ **DIMMER（ディマー）ボタン**（51）
表示部の明るさを切り換えます。

⑨ **DISPLAY（ディスプレイ）ボタン**（51）
表示部の情報を切り換えます。

⑩ **MUTING（ミューティング）ボタン**（53）
音を一時的に小さくします。

⑪ **VOL（ボリューム） ▲/▼ボタン**（28）
音量を調整します。

⑫ **RETURN（リターン）ボタン**
設定中に１つ前の表示に戻します。

⑬ **HOME（ホーム）ボタン**（50）
ホームメニューを表示します。

⑭ **SLEEP（スリープ）ボタン**（51）
スリープタイマーを設定します。

■チューナー操作

本機のチューナーを操作するときは、**TUNER（チューナー）**（または**RECEIVER**）ボタンを押してください。

❶ **▲/▼ボタン**
周波数を選びます。

❷ **D.TUNボタン**（37）
（チューナーモード時のみ）
ダイレクト選局モードを選びます。

❸ **DISPLAYボタン**
プリセット局の名前や周波数などの情報が表示されます。

❹ **CH（チャンネル） ＋/－ボタン**（38）
登録された放送局を選びます。

❺ **数字ボタン**（37）
登録された放送局を選びます。また、ダイレクト選局モードで直接周波数も選べます。

*1 入力をそのまま変更せずにリモート（コントローラー）モードを切り換えたい場合は、**MODE（モード）**ボタンを押して約８秒以内に**REMOTE MODE**ボタンを押します。押した**REMOTE MODE**ボタンに対応する機器を本機のリモコンで操作できるようになります。

*2 RECEIVERモード以外の**REMOTE MODE**ボタンを選択しているときも使用できます（TVモード時は除く）。

接続をする

スピーカーを接続する

スピーカーの配置

以下の表は、使用できるチャンネル数を示しています。
チャンネル数はスピーカーの数によって異なります。
スピーカーの数に関係なく、とても強力かつ充実した重低音効果を発揮するためにはパワードサブウーファーの使用を推奨します。
最適なサラウンド再生をお楽しみいただくには、付属の測定用マイクを使って自動スピーカー設定（➔ P.39）または手動設定（➔ P.63）を行ってください。

チャンネル数	2	3	4	5	6	7	7	7	8	8	9	9	9	10	11
フロント スピーカー	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
センター スピーカー		✔		✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンド スピーカー			✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔
サラウンドバック スピーカー （1台）*1*2					✔				✔	✔				✔	
サラウンドバック スピーカー （2台）*2						✔					✔	✔			✔
フロントハイ スピーカー *2							✔		✔		✔		✔	✔	✔
フロントワイド スピーカー *2								✔		✔		✔	✔	✔	✔

*1 サラウンドバックスピーカーを１台だけ使用する場合は、**SURR BACK L**（サラウンド バック）端子に接続してください。
*2 サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーをすべて同時に使うことはできません。

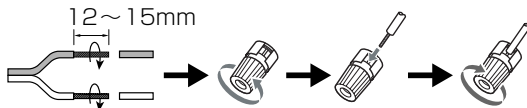
スピーカーコードを接続する

各スピーカーは図（➔ P.15）のように接続します。サラウンドバックスピーカーを１台しか使用しない場合は、**SURR BACK L**端子に接続してください。

ヒント

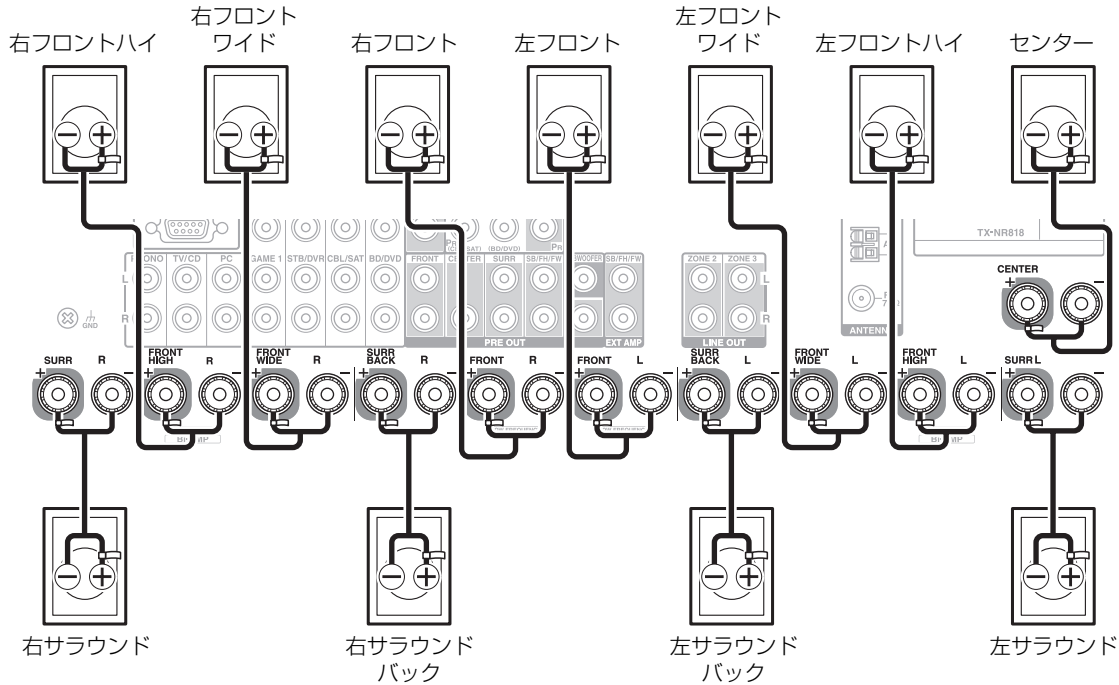
- サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカー、またはフロントワイドスピーカーを接続している場合、「**スピーカー詳細設定**」または自動スピーカー設定で設定できます（➔ P.39、64）。

■ ネジ式スピーカー端子

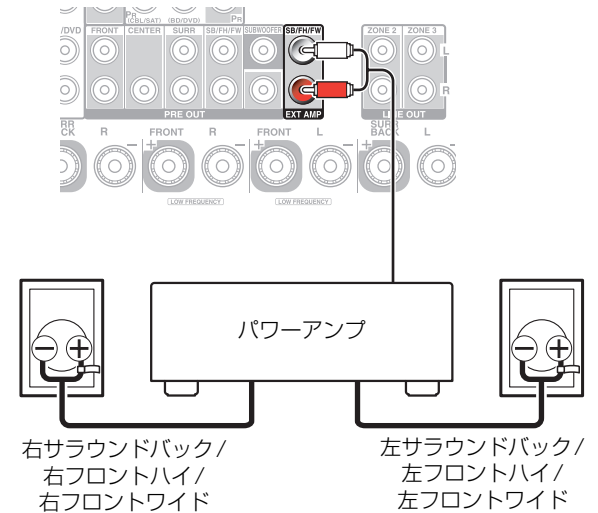
スピーカーコードの被覆を先端から12～15mm剥ぎ、芯線をしっかりよじります。

■ バナナプラグ

- スピーカー端子をしっかり締めてから、バナナプラグを挿入してください。
- スピーカーコードの芯線を、スピーカー端子のバナナプラグ用の穴に直接挿入しないでください。

■7.1 チャンネル再生をする

7.1 チャンネル再生に使用するスピーカー（サラウンドバック、フロントハイ、フロントワイド）を選びます。使用したいスピーカーの優先順位を設定できます。「スピーカーレイアウトを選ぶ」を参照ください（➔ **P.52**）。

■9.1 チャンネル再生をする

左記の7.1 チャンネル接続に外部アンプを追加することで、9.1 チャンネル再生ができます。オーディオ用ピンケーブルを使って、パワーアンプのアナログ音声入力端子と、AV レシーバーの**SB/FH/FW EXT AMP**[*1]端子を接続してください。**SB/FH/FW EXT AMP**端子を使用するには、「**外部アンプを接続するチャンネル**」設定でチャンネルを指定します（➔ **P.63**）。また、使用したいスピーカーの優先順位を設定できます。「スピーカーレイアウトを選ぶ」を参照ください（➔ **P.52**）。

*1 **SB**…サラウンドバック、**FH**…フロントハイ、**FW**…フロントワイド

スピーカーコード用ラベルを取り付ける

スピーカー端子は識別できるように色分けされています。

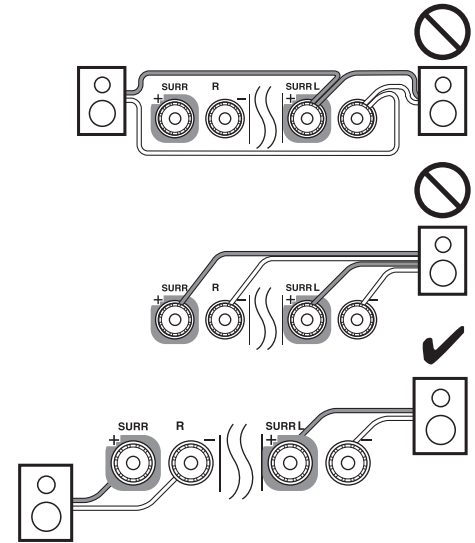
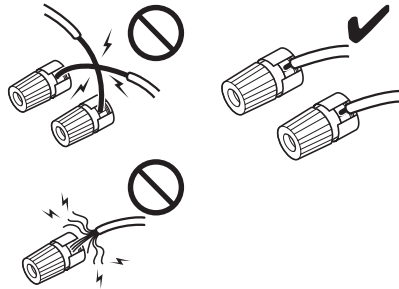
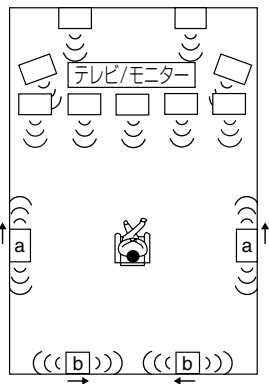
スピーカー	色
左フロント、左フロントハイ、 左フロントワイド	白
右フロント、右フロントハイ、 右フロントワイド	赤
センター	緑
左サラウンド	青
右サラウンド	グレー
左サラウンドバック	茶
右サラウンドバック	ベージュ

付属のスピーカーコード用ラベルも色分けされています。上記の表を参照して、各スピーカーコードのプラス（+）側に取り付けてください。ラベルと同じ色のスピーカー端子にケーブルを接続するだけで、スピーカー接続を行うことができます。

スピーカー接続時の注意事項

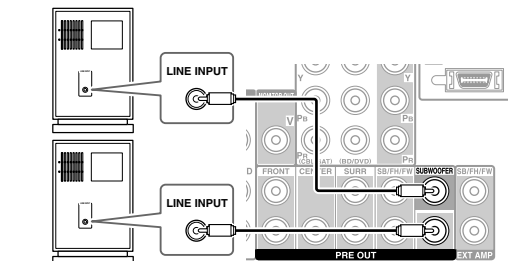
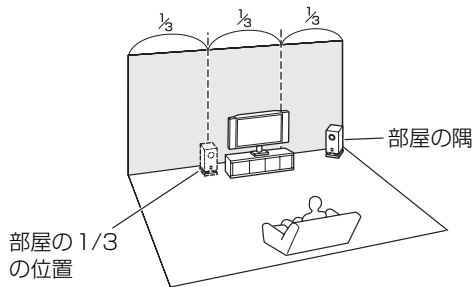
以下の注意事項をお読みいただいてから、スピーカーを接続してください。

- 本機には、インピーダンスが4～16オームのスピーカーを接続してください。インピーダンスが4オーム以上6オーム未満のスピーカーを1台でも接続するときは、必ず「**インピーダンス**」を「**4オーム**」（➔ P.63）に設定してください。小さいインピーダンスのスピーカーをお使いの場合、アンプのボリュームを長時間に渡って大音量に設定して使用すると、内蔵されている保護回路が作動する場合があります。
- 接続は電源コードをコンセントから抜いて行ってください。
- スピーカーに添付の取扱説明書をご覧ください。
- スピーカーケーブルを接続するときは、アンプ端子のプラス（+）側とスピーカー端子の(+)側を、マイナス（—）はマイナス（—）とを、各チャンネルごとに必ず合わせて接続してください。間違って接続すると、位相が逆になり低音が出にくくなるなど再生音が悪くなります。各スピーカーケーブルの被覆に色が付いている方をプラス（+）側に接続するなどして間違わないようにしてください。
- スピーカーコードが、必要以上に長かったり細かったりすると、音質に影響を与えることがあります。そのようなコードは使用しないでください。
- プラスのコードとマイナスのコードをショートさせないでください。故障の原因になります。
- コードの芯線を本機の後面パネルと接触させないでください。故障の原因になります。

- スピーカー端子に2本以上のコードを接続しないでください。故障の原因になります。
- 1台のスピーカーを複数の端子に接続しないでください。

ダイポール型スピーカーを使う

サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの代わりにダイポール型スピーカーを使うことができます。ダイポール型スピーカーとは、前と後ろなど、2つの方向に同じ音を出す、双指向性スピーカーのことです。ダイポール型スピーカーでは位相[*1]を合わせるため、多くのスピーカーには矢印表示が書いてあります。サラウンドスピーカー（図中a）は矢印（↑）がテレビへ向かうように配置し、サラウンドバックスピーカー（図中b）は、お互いの矢印（→）が向き合うように配置してください。

*1 **位相：**弦波の1周期（0～360度）における波形の位置を示す言葉。各スピーカー間の距離や取り付け角度、プラス（+）、マイナス（−）の配線間違いなどで位相が合っていないと、音像や音場が不明瞭になったり、聴きづらさがあったりします。

パワーアンプ内蔵サブウーファーを使う

最大2つのパワーアンプ内蔵サブウーファーを接続して使用できます。

それぞれの端子から同じ信号が出力されます。

再生される低音の質や量は、置き場所や部屋の形状、視聴位置によって変わります。一般的に部屋の隅、または1/3の場所に置いたときに良い結果が得られますが、色々な場所に置いて質の良い低音が入った音楽を再生し、もっともしっかりした低音が再生できる場所に設置してください。

ヒント

- サブウーファー側で音量調整ができる場合、音量を上げてください。また、カットオフフィルター切換スイッチはDIRECT（ダイレクト）にしてください。カットオフフィルター切換スイッチがなく、カットオフ周波数調整ツマミがある場合は、周波数を最大にしてください。
- ご使用のサブウーファーにアンプが内蔵されていない場合は、お手持ちのアンプ機器の入力端子にサブウーファーのプリアウト端子を接続して、ご使用ください。

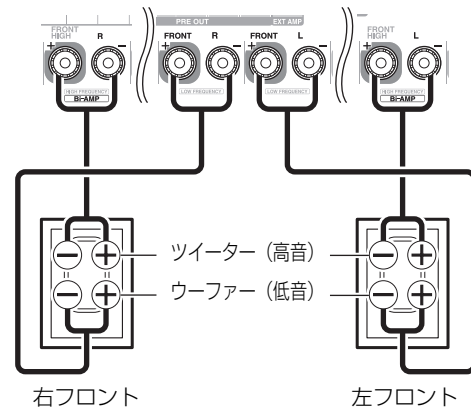
バイアンプ接続をする

重要

- バイアンプ接続を行うときは、スピーカーのツイーター（高音）端子とウーファー（低音）端子をつなぐショート金具を必ず取り外してください。
- バイアンプ接続に対応するスピーカーのみ使用可能です。詳しくはスピーカーの取扱説明書をご覧ください。

バイアンプ接続に対応したスピーカーを接続し、低音域と高音域の音質を向上させることができます。

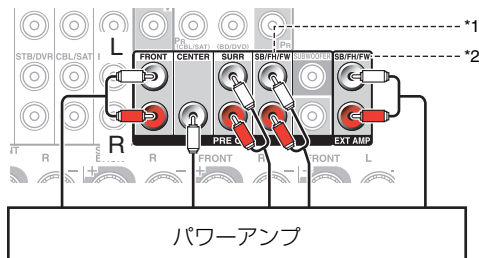
バイアンプ接続では、最大5.1チャンネル再生になります。

バイアンプ接続が完了し、本機の電源を入れたら、スピーカーセッティングを「**バイアンプ**」にしてください（➔ P.63）。

パワーアンプを接続する

パワーアンプを本機に接続し、本機をプリアンプとして使用できます。本機だけでは出力できない大音量で再生できるようになります。各スピーカーは、パワーアンプに接続してください。詳しくは、パワーアンプに添付の取扱説明書をご覧ください。

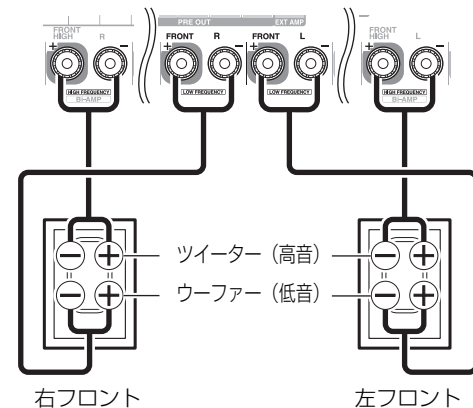
ご注意

*1 接続していないチャンネルは、「**スピーカー詳細設定**」（➔ P.64）で「**無し**」に設定します。

*2 **SB/FH/FW EXT AMP**端子を使用する場合は、「**外部アンプを接続するチャンネル**」を設定してください（➔ P.63）。

SB…サラウンドバック、**FH**…フロントハイ、
FW…フロントワイド

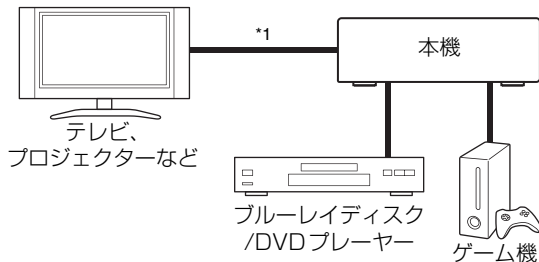
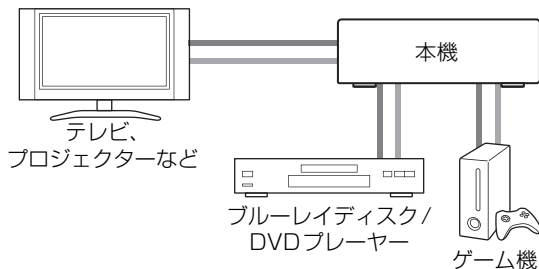
チャンネルデバイダー対応スピーカーを接続する

重要:
- チャンネルデバイダー対応スピーカーとは、クロスオーバーネットワークが搭載されていないスピーカーのことです。
- チャンネルデバイダー対応スピーカーの場合、ツイーター（高音）側、ウーファー（低音）側の接続を間違えるとスピーカーを破損してしまう恐れがあります。
- チャンネルデバイダー対応スピーカーの場合、「**スピーカータイプ(フロント)**」で「**バイアンプ**」を選択すると、スピーカーを破損してしまう恐れがあります。必ず「Digital Crossover」を選択してください。
- お使いのスピーカーがチャンネルデバイダー対応であるかどうかは、スピーカーの取扱説明書をご覧ください。

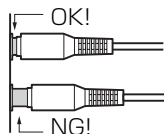
チャンネルデバイダー対応スピーカーを接続し、本機でクロスオーバー設定を行うことで、高音と低音の性能を最大限に引き出した、きめ細かい立体感のある音場を再現することができます。チャンネルデバイダー対応スピーカーを接続すると、最大5.1チャンネル再生になります。「**スピーカータイプ(フロント)**」を「Digital Crossover」（➔ P.63）に設定し、「Digital Processing Crossover Network」の設定をおこなってください（➔ P.67）。

ご注意

- 設定を行ってからスピーカーを接続してください。

AV機器との接続について

接続イメージ

*1 お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、本機をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。

- AV機器の接続を行う場合は、AV機器に付属の取扱説明書をご覧ください。
- 電源コードは、すべての接続が完了するまでつながないでください。
- プラグは奥までしっかり押し込んでください（ノイズや誤動作の原因になります）。

OK!
NG!

- ケーブル同士の接触を防ぐため、映像・音声ケーブルや電源・スピーカーコードが接近しないようにしてください。

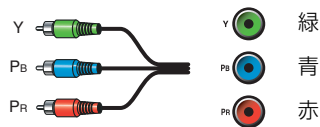
接続に必要なケーブルの名称と接続端子の形状

■HDMIケーブル

映像信号と音声信号をデジタル伝送します。

■コンポーネントビデオケーブル

ビデオケーブル（コンポジット）より高画質な映像信号を伝送します。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることはできません。

緑
青
赤

■D端子用接続ケーブル

画質はコンポーネントと同レベルです。映像機器の制御信号（アスペクト比など）を送ることができます。

■アナログRGBケーブル

PCとディスプレイを接続する、従来のアナログインターフェイスです。（D-Sub（サブ）、D-subminiature（サブミニチュア）とも呼ばれています。）

■ビデオケーブル（コンポジット）

標準的な映像信号用の端子で、多くのテレビやビデオなどの映像機器に装備されています。

黄

■光デジタルケーブル（OPTICAL（オプティカル））

PCM*2、Dolby Digital（ドルビーデジタル）やDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は同軸デジタルと同レベルです。

■同軸デジタルケーブル（COAXIAL（コアキシャル））

PCM*2、Dolby DigitalやDTSなどのデジタルサウンドを楽しむことができます。音質は光デジタルと同レベルです。

オレンジ

■オーディオ用ピンケーブル

アナログ音声信号を伝送します。

白
赤

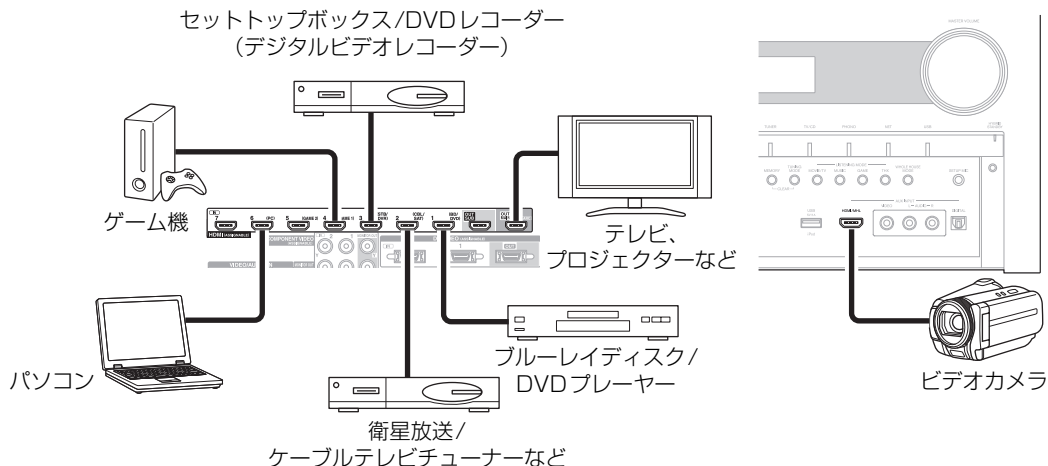
*2 PCM入力信号（ステレオ/モノラル）で利用できるサンプリングレートは、32、44.1、48、88.2、96 kHz（キロヘルツ）です。HDMI接続の場合は、176.4、192kHzも利用できます。

光デジタル入力端子について

本機の光デジタル入力端子は、すべてとびらタイプですので、とびらをそのまま奥へ倒すようにして、光デジタルケーブルを差し込んでください。

ご注意

- 光デジタルケーブルはまっすぐ抜き差ししてください。ななめに抜き差しすると、とびらが破損する場合があります。

AV機器をHDMI接続する

* お使いのテレビがオーディオリターンチャンネル（ARC）機能に対応していない場合は、本機をHDMIケーブルで接続すると同時に、光デジタルケーブルでも接続する必要があります。
* HDMI接続した機器の音声を本機で聴く場合は、その機器の映像がテレビに映る状態にしておいてください（本機が接続されているHDMI入力をテレビ側で選んでください）。テレビの電源をオフにしていたり、テレビ側で他の入力を選んでいる状態では、本機から音声が出なかったり、途切れるなど正常に音が出ないことがあります。

AV機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（➔ **P.61**）。

端子	AV機器	
IN 1	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
IN 2	衛星放送/ケーブルテレビチューナーなど	✔
IN 3	セットトップボックス/DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	✔
IN 4	ゲーム機	✔
IN 5	ゲーム機	✔
IN 6	パソコン	✔
IN 7	その他の機器	✔
フロント	ビデオカメラ	
OUT MAIN（アウト メイン）	テレビ	
OUT SUB（サブ）	プロジェクターなど	

以下の項目もご覧ください。
- 「接続のヒント・映像信号の流れ」（➔ **P.105**）
- 「RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー / レコーダーをご使用になるには」（➔ **P.108**）
- 「HDMIについて」（➔ **P.110**）

ヒント
- HDMI接続したAV機器の音声をテレビのスピーカーで聴く場合は、「**HDMIスルー**」設定を有効にし（➔ **P.79**）、本機をスタンバイ状態にします。

ご注意
- ブルーレイディスク/DVD プレーヤーで、上記の操作をしても音声が出ないときは、ブルーレイディスク/DVD プレーヤー側でHDMI音声出力の設定をPCMにしてください。

■ オーディオリターンチャンネル（ARC）機能

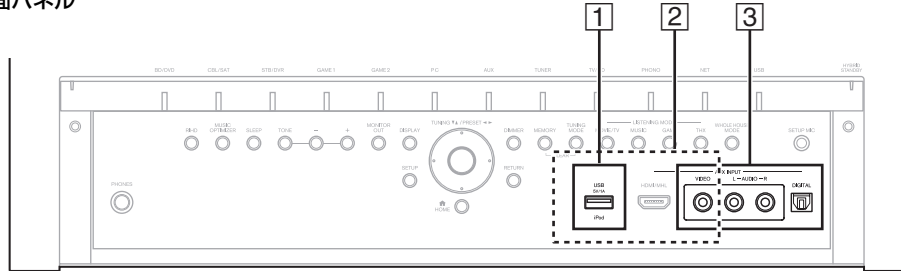
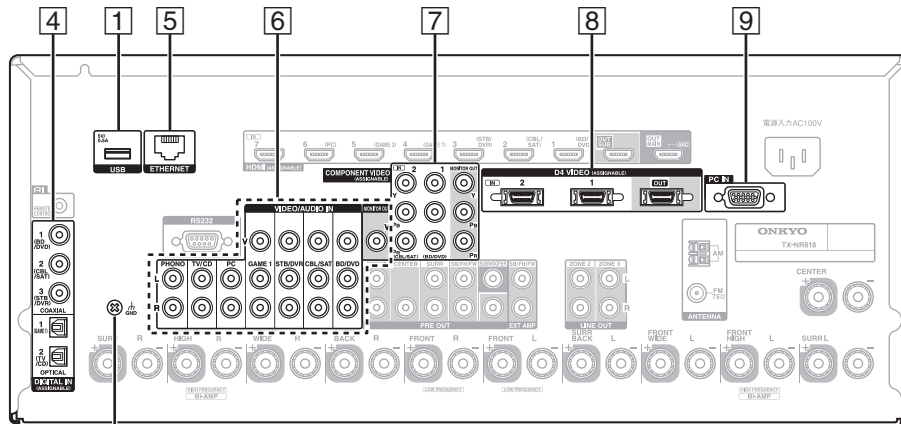
本機とテレビをつなぐHDMIケーブルを使用して、テレビの音声信号を本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。
テレビの音声を本機に接続したスピーカーで楽しんだり、本機に接続したAV機器の映像や音声をテレビで楽しんだりすることが、テレビと本機をHDMI接続するだけで可能になります。
ARC機能を使用するには、以下の項目をご覧ください。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」（➔ **P.78**）
- 「**オーディオリターンチャンネル**」（➔ **P.79**）

■ MHL（Mobile High-definition Link）（モバイル ハイ ディフィニション リンク）

本機前面パネルの**AUX**端子は、MHL（Mobile High-definition Link）に対応しており、接続したMHL対応モバイル機器から映像と音声を送信できます。

外部機器を接続する

本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT MAIN**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

前面パネル

後面パネル

外部機器は割り当てられた端子に接続してください。お買い上げ時の設定は以下のようになっています。

✔：割り当ては変更できます（➔ P.62）。

No.	端子	外部機器	
1	USB*1*2	iPod/iPhone、MP3プレーヤー、USBデバイス	
2	USB、AUX INPUT VIDEO*3	iPod/iPhone（ビデオ再生）	
3	AUX INPUT		
	VIDEO	ビデオカメラなど	
	AUDIO L/R		
	DIGITAL		
4	DIGITAL IN		
	COAXIAL 1 (BD/DVD)	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
	COAXIAL 2 (CBL/SAT)	衛星放送/ケーブルチューナーなど	✔
	COAXIAL 3 (STB/DVR)	セットトップボックス/DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	✔
	OPTICAL 1 (GAME 1)	ゲーム機	✔
	OPTICAL 2 (TV/CD)	テレビ、CDプレーヤー	✔
5	ETHERNET	ルータ	

No.	端子	外部機器	
6	MONITOR OUT	テレビ、プロジェクターなど	
	BD/DVD IN	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	
	CBL/SAT IN	衛星放送/ケーブルチューナーなど	
	STB/DVR IN	セットトップボックス/DVDレコーダー（デジタルビデオレコーダー）	
	GAME 1 IN	ゲーム機/RIドック	
	PC IN	パソコン	
	TV/CD IN	テレビ、CDプレーヤー、レコードプレーヤー*4、カセットテープデッキ、MD、CD-R、RIドック	
	PHONO IN	レコードプレーヤー*4	
7	COMPONENT VIDEO		
	MONITOR OUT	テレビ、プロジェクターなど	
	IN 1 (BD/DVD)	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
	IN2 (CBL/SAT)	衛星放送/ケーブルチューナーなど	✔
8	D4 VIDEO		
	IN 1 (BD/DVD)	ブルーレイディスク/DVDプレーヤー	✔
	IN 2 (CBL/SAT)	衛星放送/ケーブルチューナー、RIドックなど	✔
	OUT	テレビ、プロジェクターなど	
9	PC IN*5	パソコン	

ご注意

*1 本機の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。本機の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。

*2 本機前面パネルの**USB**端子のみiPod/iPhoneに対応しています。

*3 **USB**入力を選んでいる場合、**AUX INPUT VIDEO**端子から映像信号を入力することができます。**AUX INPUT VIDEO**端子からの入力信号は**MONITOR OUT V**端子とHDMI出力端子から出力されます。

*4 フォノプリアンプ内蔵のレコードプレーヤー（MM）を**TV/CD IN**に接続します。フォノプリアンプを使用しない、または内蔵していない場合は、**PHONO IN**に接続してください。
可動コイル（MC）カートリッジタイプの場合、本機に対応するMCヘッドアンプまたはMC変圧器を**PHONO IN**に接続してください。詳しくはレコードプレーヤーの取扱説明書をご覧ください。
アース（接地）線のあるレコードプレーヤーは、アース線を本機の**GND**端子に接続してください。ただし、レコードプレーヤーによっては、アース線を接続すると逆にノイズが大きくなることがあります。その場合は、アース線を接続する必要はありません。

*5 パソコンを**PC IN**端子に接続し、**PC**入力切換を選ぶと、パソコンの映像信号がHDMI 出力端子から出力されます。HDMI 入力端子に**PC**入力切換が割り当てられている場合は、HDMI 入力端子から入力された信号が、**PC IN**端子から入力された信号よりも優先してHDMI出力端子へ出力されます。**PC IN**端子から入力した信号を優先して出力するには、「**HDMI 入力**」設定の「**PC**」を「- - - - -」に設定します（➔ P.61）。

- 4の接続では、Dolby DigitalやDTSなどを楽しむことができます。
- 6の音声入力接続で、別室（ゾーン2/ゾーン3）に居ながら入力機器の音声を聴くことができます。
- 6の接続で、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーにメインのステレオ出力と、マルチチャンネル出力の両方が備わっている場合は、メインのステレオ出力に接続してください。

オンキヨー製品と連動させる接続

RI端子付きのオンキヨー製品に、RIケーブルとオーディオ用ピンケーブルを接続すると、以下のような連動機能が可能です。
RIケーブルとは、オンキヨーのシステム動作用ケーブルです（本機には付属していません）。
RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。

1 **各オンキヨー製機器が、オーディオ用ピンケーブルで接続されていることを確認してください（接続例の接続6）（➔ P.21）**

2 **RIケーブルを接続します（図をご覧ください）**

3 **RI ドックやカセットテープデッキを使う場合は、入力表示を切り換えます（➔ P.52）**

RI（リモートインタラクティブ）機能で、以下のシステム機能を利用できます。

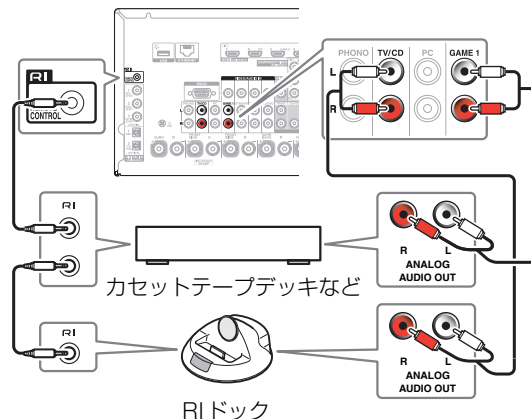
■ システムオンとオートパワーオン

本機がスタンバイモードになっている状態で、RI接続されている機器の再生を始めると、自動的に本機の電源が入り、該当する機器が入力ソースに選ばれます。

■ ダイレクトチェンジ

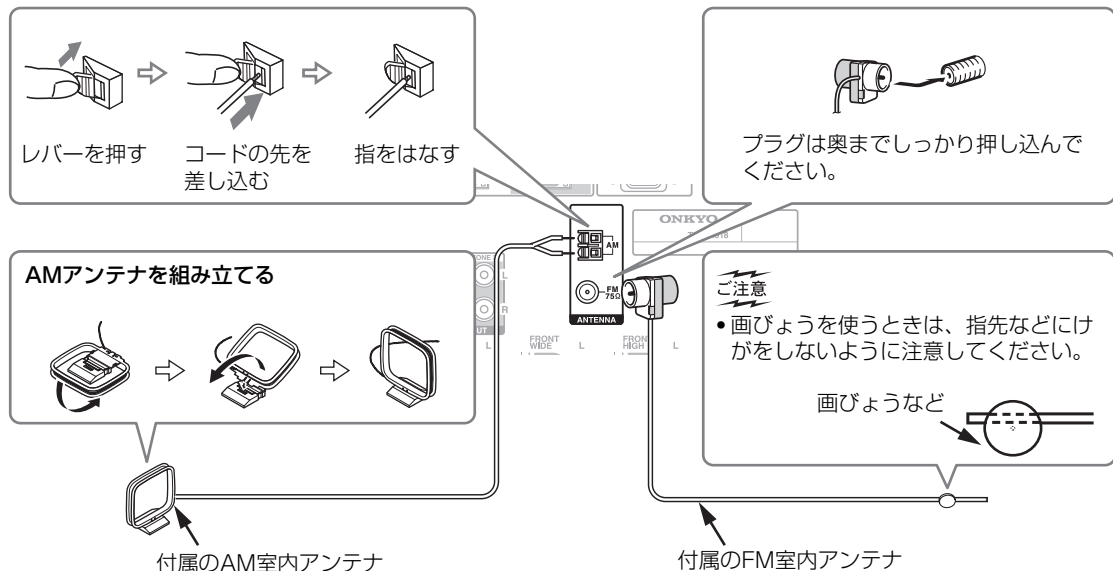
RI接続されている機器の再生が始まると、その機器が入力ソースに選ばれます。

■ リモコン操作

本機のリモコンを使って、RIに対応しているオンキヨー製機器を操作できます。リモコンを本機のリモコン受光部に向けて操作します。RI専用リモコンコードを登録してください（➔ P.86）。

ご注意

- 製品によっては、RI接続をしても、一部の機能が働かないことがあります。
- システム機能については、各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- RIケーブルの接続は、順序の指定はありません。
- RI端子が2つある場合、2つの端子の働きは同じです。どちらにもつなげます。
- 新旧製品の連動動作の対応/非対応については、オンキヨーオーディオコールセンターにお問い合わせください。
- ゾーン2/ゾーン3への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。

アンテナを接続する

付属のAM/FM室内アンテナを接続して、内蔵チューナーでAM/FM放送を聴くことができます。
内蔵チューナーを使用する場合、必ずアンテナを接続してください。アンテナを接続していない場合、AM/FM放送を受信できません。

ご注意

- アンテナ接続が完了したら、放送を聴きながら受信状態が良好になるようアンテナの位置を変えたり向きを調整してください。
- AMアンテナは、本機、テレビ、スピーカーコード、電源コードからは、できるだけ離してください。

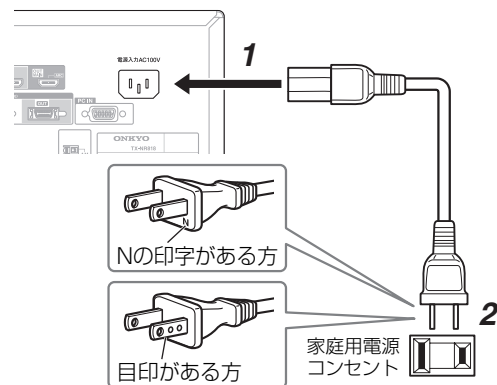
ヒント

- 付属のFM室内アンテナできれいに受信できない場合は、市販の屋外アンテナを使用してください。
- 付属のAM室内アンテナできれいに受信できない場合は、市販の屋外アンテナを使用してください。

電源コードを接続する

1 付属の電源コードを、本機の電源入力AC100V端子に接続します

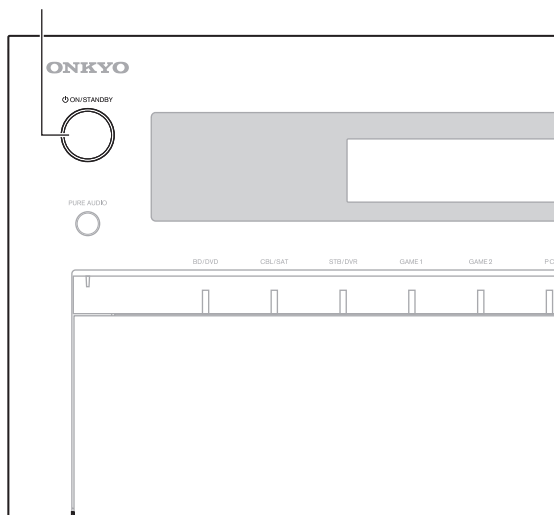
2 電源コードをコンセントに接続します

付属の電源コードは、より良い音でお聴きいただくために極性の管理がされています。
電源コードには下記の2つのタイプがあります。電源プラグの目印側を家庭用電源コンセントの溝の長い方に合わせて差し込んでください。家庭用電源コンセントの溝の長さが同じ場合は、どちらを接続してもかまいません。

ご注意

- **電源コードを接続する前に、すべての接続が完了していることを確認してください。**
- 付属の本機専用電源コード以外は使用しないでください。
- 電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。
- 家庭用電源コンセントに電源プラグを差し込んだ状態で、**電源入力AC100V**端子から電源コードを抜くと、感電する可能性があります。電源コードを接続するときは、最後に家庭用電源コンセントに接続し、抜くときは最初に家庭用電源コンセントから抜いてください。
- 本機の電源を入れると、瞬間的に大きな電流が流れて、コンピューターなどの機器の動作に影響することがあります。コンピューターなど、繊細な機器とは別系統のコンセントに接続することをおすすめします。

本機の電源を入れる・切る

電源を入れる

1 **前面パネルのON/STANDBY（オン/スタンバイ）ボタンを押す**
または

リモコンのRECEIVER（レシーバー）ボタンを押して RECEIVERボタンを押す

電源を切る

1 **前面パネルのON/STANDBYボタンを押す**
または

リモコンのRECEIVERボタンを押して RECEIVERボタンを押す

本機がスタンバイ状態になります。本機の電源を入れたときに、大きな音が鳴って驚かないように、必ず音量を下げてから電源を切るようにしてください。

ヒント

- 本機の設定状況によっては、**HYBRID STANDBY**（ハイブリッド）インジケーターが点灯する場合があります。（➔ P.60）
- 電源の設定については、「自動スタンバイ」をご覧ください（➔ P.80）。

■簡単初期設定を行う

本機をスムーズに使っていただくために、本機を初めて使用する前に簡単なステップで設定することができます。詳しくは「初期設定」をご覧ください（➔ P.26）。

■「最新のファームウェアがリリースされました」というメッセージが表示される

ファームウェアの更新が可能な場合「**最新のファームウェアがリリースされました**」というメッセージを表示して通知します。このメッセージが表示されるのは、本機をホームネットワークに接続している場合に限ります（➔ P.111）。画面の指示にしたがって更新を行ってください。

▲/▼ボタンで以下のいずれかを選び**ENTER**（エンター）ボタンを押す

- **アップデートします**：
  アップデートを開始します。「ファームウェアの更新について」をご覧ください（➔ P.102）。
- **後でアップデートします**：
  次回本機の電源を入れた時に再通知します。
- **アップデートしません**：
  今後、アップデートを通知しません。

ヒント

- この通知を行うか否かは「**アップデート通知**」で設定が可能です（➔ P.81）。

初期設定

初めて本機の電源を入れると、本機を使用する前に行なっていただきたい設定のウィザードが起動します。テレビ画面に表示されるガイダンスを見ながら誰にでも簡単に行っていただくことができます。

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。

オンスクリーンディスプレイの言語を選択する

このステップでは、オンスクリーンディスプレイの表示言語を選択して設定します。「**OSD設定**」の「**言語(Language)**」をご覧ください（➔ P.78）。

ヒント

- **HOME**ボタンを押すと設定画面が閉じてしまいます。初期設定を再起動するには「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選んでください（➔ P.81）。

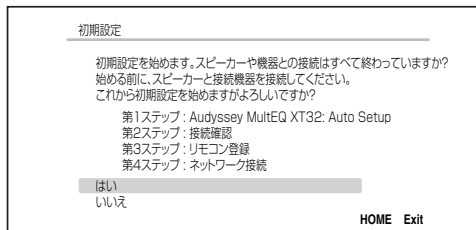
言語選択の後に初期設定の開始画面が表示されます。

初期設定

初期設定を始めます。スピーカーや機器との接続はすべて終わっていますか?
始める前に、スピーカーと接続機器を接続してください。
これから初期設定を始めますがよろしいですか?

第1ステップ : Audyssey MultEQ XT32: Auto Setup
第2ステップ : 接続確認
第3ステップ : リモコン登録
第4ステップ : ネットワーク接続

はい
いいえ

HOME Exit

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

▸**はい**：
「Audyssey MultEQ XT32: Auto Setup」へ進みます。

▸**いいえ**：
設定をスキップして初期設定を終了します。「初期設定を終了する」に進んでください（➔ P.27）。「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選ぶと、いつでも初期設定の再起動ができます（➔ P.81）。

Audyssey MultEQ XT32: Auto Setup

このステップでは、自動スピーカー設定を行います。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

▸**今**：
画面の指示に従って自動スピーカー設定を行います。「自動スピーカー設定を使う」の手順2以降をご覧ください（➔ P.39）。この設定を行った後に「**接続確認**」へ進みます。

▸**後で設定します**：
自動スピーカー設定をスキップします。**ENTER**ボタンを押して「**接続確認**」へ進みます。

接続確認

このステップでは、ソース機器の接続を確認します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

▸**はい、続けます**:
接続を確認します。

▸**いいえ、とばします**:
接続確認をスキップして「**リモコン登録**」へ進みます。

2 接続を確認したいセレクタを選びENTERボタンを押す

選択しているソース機器の映像が表示されます。

3 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

▸**はい**:
手順４へ進みます。

▸**いいえ**:
エラーの原因が表示されます。画面の指示に従って接続を再度確認してください。

4 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

▸**はい**:
手順２に戻ります。

▸**いいえ、確認を終了します**:
確認を終了して「**リモコン登録**」へ進みます。

リモコン登録

このステップでは、本機のリモコンで操作したいソース機器のリモコンコードを入力します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTER（エンター）ボタンを押す

- **はい**:
  リモコンコードの入力を行います。「リモコンコードを検索する」の手順5以降をご覧ください（➔ P.85）。
- **いいえ、とばします**:
  設定をスキップして「**ネットワーク接続**」へ進みます。

2 入力が完了したら▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい、完了しました**:
  設定を終了して「**ネットワーク接続**」へ進みます。
- **いいえ、まだ続けます**:
  他のリモコンコードを入力します。

ネットワーク接続

このステップでは、ネットワークの接続を確認します。

1 ▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **はい**:
  接続を確認します。
- **いいえ、とばします**:
  設定をスキップして初期設定を終了します。

ご注意

- 有線と無線機器（オンキヨー製ワイヤレスUSB LAN（ラン）アダプター UWF-1）が同時に接続されている場合、無線機器が優先されます。詳しくは無線機器の取扱説明書をご覧ください。

2 画面の指示に従ってネットワークの接続を確認する

「**接続に成功しました。**」というメッセージが画面中央に表示されたらチェックは完了です。**ENTER**ボタンを押して初期設定を終了します。

ヒント

- 「**ワイヤレス（オプション）**」を選択した場合は、UWF-1の設定を行ってください。
  詳しくは、UWF-1の取扱説明書をご覧ください。

3 エラーメッセージが表示されたら▲/▼ボタンで以下のいずれかを選びENTERボタンを押す

- **再試行**:
  再度、接続を確認します。
- **いいえ、後で設定します**:
  確認をスキップして初期設定を終了します。「初期設定を終了する」へ進んでください。

初期設定を終了する

初期設定を終了します。

1 ENTERボタンを押す

初期設定を再起動するには「**ハードウェア設定**」メニューで「**初期設定**」を選んでください（➔ P.81）。

再生をする

本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

接続した機器を再生する

■ リモコンで操作する

1 **RECEIVER（レシーバー）ボタンを押して、INPUT（インプット） SELECTOR（セレクター）ボタンを押す**

2 **選んだ機器の再生を始める**

以下の項目もご覧ください。

- 「iPod/iPhoneをUSBで再生する」（➔ P.30）
- 「USBストレージ内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.31）
- 「radiko.jpを聴く」（➔ P.31）
- 「vTunerインターネットラジオを聴く」（➔ P.32）
- 「他のインターネットラジオを登録する」（➔ P.33）
- 「ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する」（➔ P.34）
- 「リモート再生する」（➔ P.35）
- 「共有フォルダ内の曲を再生する」（➔ P.36）
- 「AM/FM放送を聴く」（➔ P.37）
- 「異なるソースの音声と映像を再生する」（➔ P.38）
- 「オンキヨー製ドックでiPod/iPhoneを再生する」（➔ P.83）
- 「本機のリモコンで他の製品を操作する」（➔ P.85）

3 **VOL（ボリューム） ▲/▼ボタンで音量を調整する**

4 **リスニングモードを選んで、楽しむ**

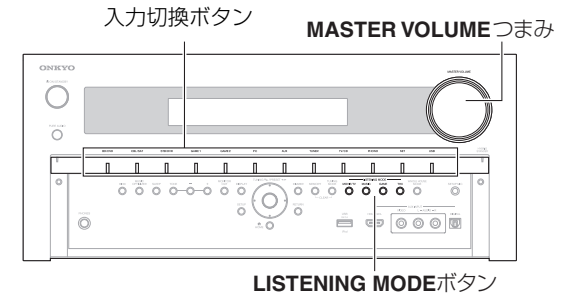
以下の項目もご覧ください。

- 「リスニングモードを使う」（➔ P.42）
- 「サウンドプログラム編集」（➔ P.70）

■ 本機で操作する

入力切換ボタン

MASTER VOLUMEつまみ

LISTENING MODEボタン

1 **入力切換ボタンで再生する機器を選ぶ**

2 **選んだ機器の再生を始める**

3 **MASTER（マスター） VOLUME（ボリューム）つまみで音量を調整する**

4 **リスニングモードを選んで、楽しむ**

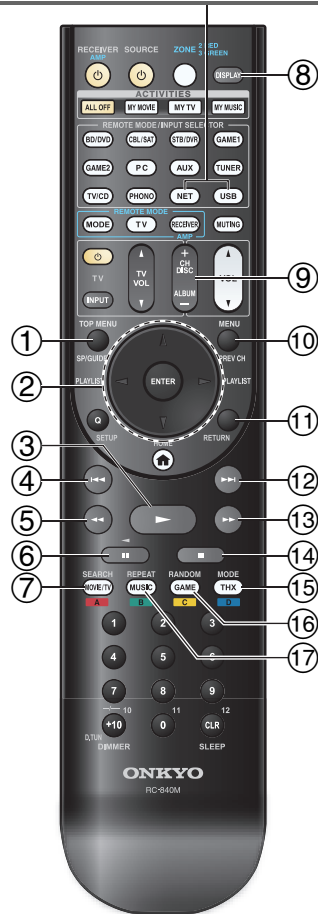
■ スクリーンセーバー

現在選んでいる入力ソースからの映像信号がない状態で、本機を操作せずに一定時間（お買い上げ時は3分）経過すると、スクリーンセーバーが起動します。

ヒント

- スクリーンセーバーが起動するまでの時間は、「**スクリーンセーバー**」設定で変更することができます（➔ P.78）。
- 本機を操作すると、もとの画面に戻ります。

USB、ネットワーク内のファイルを操作する

最初に**USB**ボタンまたは**NET**ボタンを押してください。

① トップ メニュー
TOP MENUボタン
各メディアやサーバーのトップメニューを表示します。

② エンター
▲/▼ボタン、ENTERボタン
項目を選択します。

◄/►ボタン
ページを移動します。

プレイリスト
PLAYLIST ◄/►ボタン
スタンダード モード
Standard Mode（iPod/iPhone）で、プレイリストを選択します。

③ **►ボタン**
再生を開始します。

④ **I◄◄ボタン**
現在の曲の先頭を再生します。前の曲を再生するには、２回押します。

⑤ **◄◄ボタン**
現在の曲を早戻しします。

⑥ **IIボタン**
一時停止します。

⑦ サーチ
SEARCHボタン
再生中に再生画面とリスト画面を切り換えます。

⑧ ディスプレイ
DISPLAYボタン
再生中に曲情報を切り換えます。
リスト画面を表示中に**DISPLAY**ボタンを押すと再生画面に戻ります。

⑨ アルバム
ALBUM ＋/－ボタン
Standard Mode（iPod/iPhone）で、アルバムを選択します。

⑩ **MENUボタン**
各インターネットラジオサービスのメニューを表示します。

⑪ リターン
RETURNボタン
ひとつ前の画面に戻ります。

⑫ **►►Iボタン**
次の曲を再生します。

⑬ **►►ボタン**
現在の曲を早送りします。

⑭ **■ボタン**
再生を停止します。

⑮ **MODEボタン**
エクステンド
iPod/iPhoneのExtended ModeとStandard Modeを切り換えます。
ネットワークサービス画面で**MODE**ボタンを押すとアイコンの配置を変更するモードに切り換わります。

⑯ ランダム
RANDOMボタン
ランダム再生します。

⑰ リピート
REPEATボタン
リピート再生します。**REPEAT**ボタンを押すたびにリピートモードが切り換わります。

ヒント

- その他の機器の操作については「本機のリモコンで他の製品を操作する」をご覧ください（➔ **P.85**）。

ご注意

- 再生するサービスやデバイスによって、動作するボタンが異なります。

表示されるアイコンについて

このセクションでは、メディア再生中に表示部に表示されるアイコンについて説明します。

アイコン	説明
	フォルダ
	曲
	再生
	一時停止中
	早送り
	早戻し
	アーティスト
	アルバム
	1トラックリピート
	フォルダリピート（USBデバイス）
	リピート
	シャッフル
	アルバムシャッフル（iPod/iPhone）

iPod/iPhoneをUSBで再生する

本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

iPod/iPhoneに保存されている音楽/映像ファイルを再生する手順について説明します。
以下のiPod/iPhoneに対応しています。
iPod touch（第一、第二、第三、第四世代）、
iPod classic、iPod nano（第二、第三、第四、第五、第六世代）、iPhone 4S、iPhone 4、iPhone 3GS、iPhone 3G、iPhone

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 RECEIVERボタンを押して、USBボタンをくり返し押して「USB(前面)」を選ぶ

ヒント

- ホームメニューで「USB」を選んでも、同様の操作ができます。

2 iPod/iPhone付属のUSBケーブルで本機前面パネルのUSB端子に接続する

iPod/iPhoneのコンテンツ情報を読み込み中は、表示部に「Connecting...」が表示されます。
USB表示が点灯していればiPod/iPhoneに接続できています。USB表示が点滅している場合、本機がiPod/iPhoneを認識できていません。

ヒント

- iPod/iPhone付属のUSBケーブルで接続することを推奨します。

3 MODEボタンをくり返し押して、Extended Mode（音楽）またはExtended Mode（映像）に切り換える

デバイス内容の一覧が表示されます。

ヒント

- iPod/iPhone本体および、本機のリモコンで操作したい場合は、**MODE**ボタンをくり返し押してStandard Modeに切り換えてください。
- ModeはiPod/iPhoneを抜いても保存されているため、Extended Mode（音楽）で抜いて、再度iPod/iPhoneを差すと次回はExtended Mode（音楽）で起動します。

4 ▲/▼ボタンを押してフォルダ選び、ENTERボタンを押して開く

ヒント

- 本体の▲/▼ボタン、エンターボタン、**TUNING MODE**ボタンでも操作できます。**TUNING MODE**ボタンでModeを切り換えることができます。

5 ▲/▼ボタンを押して音楽/映像ファイルを選び、►ボタンまたはENTERボタンを押して再生する

ご注意

- 本機の表示部に「Connecting...」が表示されているときは、本機に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。
- iPod/iPhoneを本機の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

Extended Mode（音楽）で操作する

テレビ画面にコンテンツ情報が表示され、画面を見ながら選択および操作ができます。
トップ画面のリスト：
プレイリスト（Playlists）、アーティスト（Artists）、アルバム（Albums）、ジャンル（Genres）、曲（Songs）、作曲者（Composers）、シャッフル（Shuffle Songs）、再生中（Now Playing）

ご注意

- このモードを選択している場合、本機前面パネルの **AUX INPUT VIDEO**端子から入力していても映像は表示されません。

Extended Mode（映像）で操作する

プレイリストがテレビ画面に表示され、画面を見ながら映像の検索と選択ができます。
トップ画面のリスト：
映画（Movies）、ミュージックビデオ（Music Videos）、テレビ番組（TV Shows）、ビデオポッドキャスト（Video Podcasts）、レンタル（Rentals）

ご注意

- iPod/iPhoneの映像を観る場合は、アップル公式のコンポジットAVケーブルで本機前面パネルの**USB**端子と**AUX INPUT VIDEO**端子に接続してください。
- iPod/iPhoneの機種・世代によっては、表示内容が異なる場合もあります。また、Extended Mode（映像）でのサポートを保証していない場合があります。

Standard Modeで操作する

テレビ画面にコンテンツ情報は表示されず、iPod/iPhone本体および、本機のリモコンにて操作が可能です。

USBストレージ内の音楽ファイルを再生する

本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

以下の手順でUSBストレージ内（USBメモリーなど）の音楽ファイルを再生します。
以下の項目もご覧ください。
- 「ネットワーク/USBについて」（➔ P.111）

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 RECEIVERボタンを押してから、USBボタンをくり返し押して「USB(前面)」または「USB(後面)」を選ぶ

2 本機のUSB端子に音楽ファイルが入ったUSBストレージを接続する

USB表示が点灯します。点滅する場合は、USBストレージの接続をご確認ください。

3 ENTERボタンを押す

USBストレージ内のフォルダーや音楽ファイルがリスト表示されます。フォルダーを開くには▲/▼ボタンでフォルダーを選び、**ENTER**ボタンを押してください。

4 ▲/▼ボタンを押して音楽ファイルを選び、► ボタンまたはENTERボタンを押す

選択した音楽ファイルの情報が表示され、再生が開始されます。

ご注意

- 本機の表示部に「Connecting...」が表示されているときは、本機に接続されているUSBストレージ、USBケーブルを抜かないでください。

radiko.jpを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります。**（➔ P.111）****本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。**

radiko.jpは地上波ラジオ放送をCMも含め、そのまま同時に放送エリアに準じた地域に配信するサイマルサービスです。対応（聴取可能）エリア、対応放送局について詳しくはradiko.jpのWebサイト（http://radiko.jp）をご覧ください。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「radiko.jp」を選び、ENTERボタンを押す

本機が接続されているエリアに応じた放送局リストが表示されます。radiko.jpサービスが行われていない地域、もしくはサービス停止中の場合、エラー画面が表示されます。

3 ▲/▼ボタンを押して放送局を選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。
楽曲情報を提供している放送局を選択した場合は、楽曲のアーティスト名、楽曲名が表示されます。
楽曲情報が無い放送局の場合は、番組名、出演者名が表示されます。
再生画面で、⏮/⏭ボタンを押すと、放送局が切り換わります。

以下のメニューを選択するには、放送局の再生中に**MENU**ボタンを押します。

- ▸Today's Program：
  当日の番組一覧が表示されます。
- ▸Tomorrow's Program：
  明日の番組一覧が表示されます。
- ▸Program's detail：
  再生している番組の番組詳細が表示されます。
- ▸Topics：
  番組のトピックスが表示されます。放送された楽曲のリストやおすすめ情報など、放送をより楽しむための情報が表示されます。

vTunerインターネットラジオを聴く

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.111）。本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

vTunerインターネットラジオは、世界中のインターネットラジオ局のポータルサイトです。音楽ジャンル別、国別などの区分で各地のラジオ局を検索できます。本機ではあらかじめ、vTunerインターネットラジオが登録されています。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

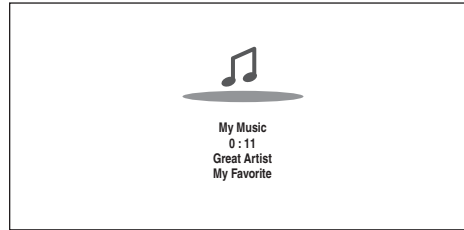
ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「vTuner Internet Radio」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押してプログラムを選び、ENTERボタンを押す

再生が開始されます。

ヒント

- リモコンの**MENU**ボタンを押してから▲/▼ボタンで「Stations like this」を選び**ENTER**ボタンを押せば、再生中の局と似た放送局を表示できます。

■vTunerインターネットラジオの番組をお気に入りに登録する

vTunerインターネットラジオの特定の番組（プログラム）を、再生しやすいようにお気に入りに登録できます。二通りの方法があります。

•「My Favorites」に登録する

NETボタンを押した後に表示されるネットワークサービス画面の「My Favorites」メニューに、お気に入りの番組を登録します。

1. 再生中のラジオ局またはラジオ局を選び、リモコンの**MENU**ボタンを押す
2. ▲/▼を押して「**My Favoritesに登録**」を選び、**ENTER**ボタンを押す
3. ▲/▼/◄/►を押して「OK」を選び、**ENTER**ボタンを押す

ヒント

- 「My Favorites」に登録したラジオ局の名前を変更することができます（➔ P.33）。

• vTunerインターネットラジオの「ブックマーク」に登録する

vTunerインターネットラジオを選び、**ENTER**ボタンを押せば、ジャンル/地域などと同じ画面に「**ブックマーク**」のフォルダが表示されます。この中にお気に入りのインターネットラジオ番組を登録します。本機と同じLANに接続されているパソコンを使います。http://onkyo.vtuner.com/ であなたの製品のID#（MACアドレス）を登録すると、このブックマークの中にお気に入りのラジオ番組を登録できます。ID#は「vTuner Internet Radio」メニューの一番下の行に表示されています。またMACアドレスは、セットアップ画面から「**ハードウェア設定**」を選び、「**ネットワーク**」を選ぶと表示されます（➔ P.80）。

他のインターネットラジオを登録する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.111）。本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

本機は、PLS形式、M3U形式、およびPodcast（RSS）形式のインターネットラジオ局に対応しています。これらの形式のインターネットラジオ局であっても、データの種類や再生フォーマットによって、再生できないこともあります。

radiko.jpやvTunerインターネットラジオ以外のインターネットラジオ番組を聴くには、以下の手順で番組をネットワークサービス画面の「My Favorites」メニューに登録します。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク（*）に置き換わります。

1 セットアップ画面から「ハードウェア設定」を選び、「ネットワーク」を選んでIPアドレスを表示させる（➔ P.80）

IPアドレスをメモに控えます。

2 パソコンの電源を入れ、Internet Explorer® などのインターネットブラウザを開く

3 インターネットブラウザのURL欄に本機のIPアドレスを入力する

Internet Explorerをご利用の場合は「ファイル」から「開く」を選び、IPアドレスを入力する方法もあります。

インターネットブラウザに本機の情報が表示されます（WEB Setup Menu）。

4 「My Favorites」タブをクリックして、インターネットラジオ局の名前とURLを入力する

5 「Save」をクリックしてインターネットラジオ局を登録する

登録したインターネットラジオ局は「My Favorites」に追加されます。再生するには**NET**ボタンを押して、ネットワークサービス画面の「My Favorites」を選んで**ENTER**ボタンを押してください。インターネットラジオ局が表示されますので、登録したインターネットラジオ局を選んで**ENTER**ボタンを押します。

ヒント

- 「My Favorites」メニューから新しいラジオ局を追加したい場合は、リスト内のブランクを選び**MENU**ボタンを押してから**ENTER**ボタンで「**新しいステーションを追加**」を選びます。再度**ENTER**ボタンを押すと、キーボード画面が表示されるので、名前とURLを入力します。
- 登録したラジオ局を削除する場合は、再生中のラジオ局またはラジオ局を選び**MENU**ボタンを押してから▲/▼ボタンで「**My Favoritesから削除**」を選び **ENTER**ボタンを押します。またWEB Setup Menuからでも削除できます。
- 登録したラジオ局の名前を変更する場合は、ラジオ局を選び**MENU**ボタンを押してから▲/▼ボタンで「**ステーション情報を変更**」を選び**ENTER**ボタンを押します。詳細は、「セレクタ名変更（名前の編集）」をご覧ください（➔ P.73）。
- インターネットラジオ局は40局まで登録できます。

ネットワークサービス画面のアイコン配置を変更する

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら下記の設定ができます。

ネットワークサービス画面のアイコンを並べ替えて、お好みの配置にすることができます。

1 NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 リモコンのMODE/D（青色）ボタンを押す

3 ▲/▼/◄/► ボタンで移動したいアイコンを選択してENTERボタンを押す

4 ▲/▼/◄/► ボタンで入れ替えたいアイコンを選択してENTERボタンを押す

アイコンが入れ替わり「**完了しました**」というメッセージが表示されます。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機は以下のネットワークサーバーに対応しています。

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- Windows Media Connect 2.0
- DLNA準拠サーバー

詳細は「サーバーについて」をご覧ください(➔ P.112)。

本機をネットワークに接続する必要があります(➔ P.111)。本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

以下の手順でネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生します。

ご注意

- 本体表示部は日本語表示には対応しておりません。表示できない文字はアスタリスク(*)に置き換わります。

1 パソコンまたはネットワークサーバーを起動する

2 NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NET表示が点灯します。点滅表示する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

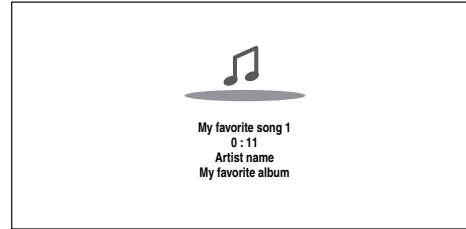
3 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「DLNA」を選び、ENTERボタンを押す

4 ▲/▼ボタンを押して、ネットワークサーバーを選び、ENTERボタンを押す

ネットワークサーバーの項目がリスト表示されます。

ご注意

- サーチ機能に対応していないネットワークサーバーでは、サーチ機能は働きません。
- 本機はネットワークサーバーにある写真や動画にアクセスすることはできません。
- ネットワークサーバーの共有設定によっては、内容を表示できない場合があります。ネットワークサーバーの取扱説明書をご覧ください。

5 ▲/▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTERボタンまたは ► ボタンを押す

ご注意

- メディアサーバーによっては、早送り/早戻り/一時停止の操作が機能しない場合があります。
- 「No Item.」というメッセージが出る場合は、サーバーから情報が取得できなかったことを意味しています。この場合、サーバー、ネットワーク、接続を確認してください。

Windows Media® Player 11

再生したい音楽ファイルが入っているネットワークサーバーを設定します。
ここでは、Windows Media® Player 11を例として説明します。

1 パソコンの電源を入れ、Windows Media® Player 11を開く

2 「ライブラリ」メニューから「メディアの共有」を選ぶ

ダイアログが開きます。

3 「メディアを共有する」チェックボックスにチェックを入れ、「OK」をクリックする

対応機器が表示されます。

4 本機を選んで、「許可」をクリックする

本機のアイコンがチェックの付いたものになります。

5 「OK」をクリックして、ダイアログボックスを閉じる

これで音楽ファイルを再生する準備が整いました。

リモート再生する

本機をネットワークに接続する必要があります（➔ P.111）。本機とテレビをHDMI接続することで、テレビに操作画面を表示できます。

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA 準拠のコントローラー機器やPC を操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

Windows Media Player 12の設定をする

ネットワークサーバーやPCに保存された音楽ファイルを本機で再生するためにWindows Media Player 12を設定します。

1 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

2 **「ストリーム」メニューを開き、「メディア ストリーミングを有効にする」を選ぶ**

ダイアログが開きます。

ヒント

- メディアストリームがすでに有効になっている場合は、「ストリーム」メニューを開き「その他のストリーミング オプション」をクリックすると、ネットワーク内の再生機器一覧が表示されますので手順4へ進んでください。

3 **「メディア ストリーミングを有効にする」をクリックする**

ネットワーク内の再生機器一覧が表示されます。

4 **「メディア ストリーミング オプション」で本機を選び、「許可」になっていることを確認する**

5 **「OK」をクリックして、ダイアログを閉じる**

これでWindows Media Player 12を使って本機でリモート再生をする準備が整いました。

ヒント

- 「ストリーム」メニューを開き、「プレーヤーのリモート制御を許可」にチェックが入っていることも確認してください。

リモート再生する

1 **本機の電源を入れる**

2 **パソコンの電源を入れ、Windows Media Player12を開く**

あらかじめ、Windows Media Player 12の設定をしておく必要があります。

3 **Windows Media Player 12で再生したい音楽ファイルを選び、右クリックする**

右クリックメニューが表示されます。

ヒント

- 別のネットワークサーバー内の音楽ファイルをリモート再生するには、「その他のライブラリ」からネットワークサーバーを開き、再生したい音楽ファイルを選びます。

4 **「リモート再生」から本機を選ぶ**

Windows Media Player 12の「リモート再生」ウィンドウが開き、本機で再生が開始されます。
リモート再生中の操作は、お使いのWindows 7の「リモート再生」ウィンドウで行います。再生画面はHDMI接続されたテレビに表示されます。

5 **音量を調整する**

「リモート再生」ウィンドウの音量バーを操作して、本機の音量を調整できます。標準の最大音量は82（0 dB）です。この設定を変更したい場合はWebセットアップ（WEB Setup Menu）から最大音量値（DMR最大ボリューム）を入力します。「他のインターネットラジオを登録する」に記載しているWEB Setup Menuの項目をご覧ください。（➔ P.33）
リモート再生ウィンドウと本機の音量値は一致しない場合があります。
本機で変更した音量は、「リモート再生」ウィンドウには反映されません。

ご注意

- 以下のいずれかの場合、本機はリモート再生できません。
  - ネットワークサービスを使っている
  - USBデバイスまたはiPod/iPhoneの音楽ファイルを再生している
  - ゾーン2/ゾーン3をオンにしている

共有フォルダ内の曲を再生する

以下の手順で、本機と同じネットワークに接続されたパソコンまたは、NAS(Network Attached Storage)の共有フォルダ内の曲を再生します。

Windows 7の設定をする

■共有オプションの設定をする

1 「コントロールパネル」の 「ホームグループと共有に関するオプションの選択」を選ぶ

ヒント

- メニューが表示されない場合、「表示方法」が「カテゴリ」になってるか確認してください。

2 「共有の詳細設定の変更」を選ぶ

3 「ホームまたは社内」で以下のチェックボックスにチェックが入っているか確認する：

「ネットワーク探索を有効にする」/「ファイルとプリンターの共有を有効にする」/ 「共有を有効にしてネットワークアクセスがあるフォルダ内のファイルを読み書きできるようにする」/「パスワード保護の共有を無効にする」

4 「変更の保存」を選び、確認画面で「OK」をクリックする

■共有フォルダの作成をする

1 共有したいフォルダを選択し、右クリックする

2 「プロパティ」を選ぶ

3 「共有」タブから「詳細な共有」を選ぶ

4 「このフォルダを共有する」にチェックを入れ、「OK」をクリックする

5 「ネットワークのファイルとフォルダーの共有」から「共有」を選ぶ

6 プルダウンメニューから「Everyone」を選び、「共有」をクリックする

ヒント

- この設定では誰でもフォルダにアクセスが出来る状態になります。フォルダにユーザーとパスワードを設定する場合は、「共有」タブの 「詳細な共有」にある「アクセス許可」を設定してください。
- 「ワークグループ」が設定されているかを確認してください。

ご注意

- NAS(Network Attached Storage)をお使いの場合は、お手持ちのNASの取扱説明書をご確認ください。

共有フォルダ内の曲を再生する

Home Mediaを楽しむには、あらかじめパソコン内で共有フォルダを作成する必要があります。

1 リモコンのRECEIVERボタンを押してから、NETボタンを押す

ネットワークサービス画面が表示され、NETインジケータが点灯します。点滅する場合は、イーサネットケーブルの接続をご確認ください。

ヒント

- ホームメニューで「**ネットワークサービス**」を選んでも、同様の操作ができます。

2 ▲/▼/◄/► ボタンを押して「Home Media」を選び、ENTERボタンを押す

3 ▲/▼ボタンを押して、サーバーを選び、ENTERボタンを押す

ヒント

- お使いのパソコンのサーバー名は、パソコンのプロパティから確認できます。

4 ▲/▼ボタンを押して、共有フォルダを選び、ENTERボタンを押す

5 ユーザー名とパスワードを要求されたら、必要なアカウント情報を入力する

ヒント

- 一度入力されたアカウント情報は保存され、次回からの入力が不要になります。
- アカウント情報については、共有フォルダの作成時に設定したアカウント情報を使用してください。

6 ▲/▼ボタンを押して再生したい音楽ファイルを選び、ENTERボタンまたは ► ボタンを押す

再生が開始されます。

AM/FM放送を聴く

この項目では、特に指定のない限り、本体前面パネルを使用する手順で説明しています。

内蔵チューナーを使う

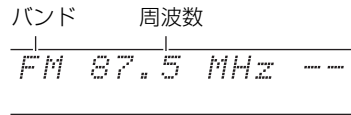
内蔵チューナーでAM/FM放送を聴くことができます。放送局をあらかじめ登録しておけば、周波数で合わせなくてもすばやく選局ができます。

■ラジオを聴く

1 TUNERボタンをくり返し押して、「AM」もしくは「FM」を選ぶ

下図はFM放送局を選んだ時の表示例です。**TUNER**ボタンを押すとAM/FMが切り換わります。

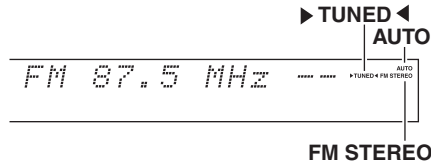
バンド　周波数

FM 87.5 MHz --

聴きたい放送局を選択する

■自動選択（オートチューニング）

1 TUNING MODEボタンを押して、AUTO表示を点灯させる

2 TUNING ▲/▼ボタンを押す

放送局があると自動的に停止します。
放送局を受信するとチューンド表示（ ►TUNED◄ ）が点灯します。FMステレオ局を受信すると、**FM STEREO**表示が点灯します。

ご注意

- TUNED表示が消灯している間は無音になります。

■手動選択（マニュアルチューニング）

1 TUNING MODEボタンを押して、AUTO表示を消灯させる

2 TUNING▲/▼ボタンを押して希望の放送局を受信する

一回押すごとに周波数が1ステップずつ変わります。
本機ではFMは0.1 MHz、AMでは9 kHz ずつ変わります。ボタンを押し続けると、連続して周波数が変わり、ボタンを離すと止まります。表示部を見ながら周波数を合わせてください。

FM放送を受信しにくいときは

電波の弱い所や雑音の多い所では、本機の**TUNING MODE**ボタンを押し、**AUTO**表示を消してモノラル受信にしてください。雑音や音切れを軽減できます。
AUTO表示に戻すときは、同じボタンを再度押します。
通常は**AUTO**表示にしておいてください。自動的にFMステレオ受信になります。

■直接周波数を入力して受信する（ダイレクトチューニング）

お聴きになりたい放送局の周波数を直接入力できます。

1 リモコンのTUNERボタンをくり返し押して「AM」または「FM」を選択し、リモコンのD.TUNボタンを押す

FM --.- MHz

2 リモコンの数字ボタンを使って、8秒以内に放送局の周波数を入力する

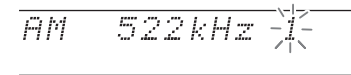
例えば、87.5（FM）と入力する場合は**8**、**7**、**5**と押します。

AM/FM放送局を登録する

お好きなAM/FM放送局を最大40局まで登録できます。

1 登録したいAM/FM放送局を受信する

2 MEMORYボタンを押す

プリセット番号が点滅します。

3 プリセット番号が点灯している間（約8秒間）に、1から40の数字をPRESET◄/►ボタンで選ぶ

4 もう一度MEMORYボタンを押す

登録されると、プリセット番号の点滅が止まります。
この手順をくり返して、お好きなAM/FM放送局を登録します。

ご注意

- 登録したプリセット局にお好きな名前をつけることができます（➔ **P.73**）。登録した名前はバンドと周波数の代わりに表示部に表示されます。

■登録したプリセット局を選ぶ

1 **PRESET◄/► ボタンまたはリモコンのCH +/−ボタンで、プリセット番号を選ぶ**

ヒント

- リモコンの数字ボタンでも直接プリセット番号を入力して選べます。

■登録したプリセット局を削除する

1 **削除したいプリセット番号を選ぶ**

2 **MEMORYボタンを押しながら、TUNING MODEボタンを押す**

プリセット番号が削除され、表示部から番号が消えます。

異なるソースの音声と映像を再生する

あるソースの音声を別のソースの映像に合わせて、再生することができます。この機能は、音声のみの入力セレクタ（**TV/CD**、**PHONO**）を選んだ場合は、映像ソースが変わらないことを利用しています。次の手順は**TV/CD IN**端子に接続したCDプレーヤーの音声と**BD/DVD IN**端子に接続したブルーレイディスク/DVD プレーヤーの映像を合わせて再生する例です。

1 **BD/DVDボタンを押す**

2 **TV/CDボタンを押す**

音声出力は**TV/CD**セレクタに変わりますが、映像出力は**BD/DVD**セレクタのまま変わりません。

3 **ブルーレイディスク/DVD プレーヤーとCDプレーヤーを再生する**

CDプレーヤーの音声に合わせてブルーレイディスク/DVD プレーヤーの映像をお楽しみいただけます。

基本機能を使う

自動スピーカー設定を使う

付属の測定用マイクを使って、自動的にスピーカーの数、音量レベルの調整、各スピーカーの最適なクロスオーバー周波数、および視聴位置からの距離を測定します。
また、部屋の中の様々な環境により生じる音のひずみを補正しますので、クリアでバランスのよい音になります。
Audyssey（オーディシー） MultEQ（マルチイーキュー）® XT32機能を使用することで、
Audyssey Dynamic（ダイナミック） EQ®機能を利用できるようになります。Audyssey Dynamic EQの働きにより、どの音量でも適切な音のバランスを保つことができます（➔ P.71）。
この機能を使用する前に、使用するすべてのスピーカーを接続してください。
自動スピーカー設定には「**Audyssey簡単測定**」と「**Audyssey MultEQ XT32通常測定**」の２種類の測定方法があります。

- 「**Audyssey簡単測定**」は１ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。
- 「**Audyssey MultEQ XT32通常測定**」は最大8ヶ所の測定位置から視聴環境を構築します。

測定箇所が多いほど、よりよい視聴環境を構築できます。
最適な視聴環境を構築するためには、8ヶ所での測定をお勧めします。
設定に必要な時間は1ヶ所で約2分、8ケ所で約20分かかります。
スピーカーの数によって時間は変わります。

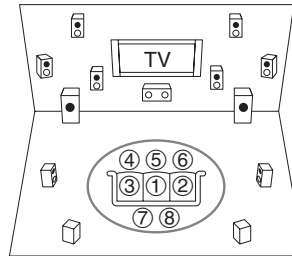
測定手順

ホームシアターで、すべての視聴者が楽しめる視聴環境を構築するために、視聴エリア内で最大8ヶ所の測定を行います。視聴者が座った状態の耳の高さに、測定用マイクを設置し、三脚台を使用して、視聴時の耳の高さに近い位置に、マイクの先端が天井を向くように固定してください。
測定中に、マイクを直接手で握っていると、正確に測定できません。

■最初に測定する位置

視聴エリアの中心、または１人で視聴するときに座る位置です。Audyssey MultEQ XT32では、この位置の測定値に基づいて、スピーカーの距離、音量、極性、サブウーファーの最適なクロスオーバー値を計算します。

■2～8番目に測定する位置

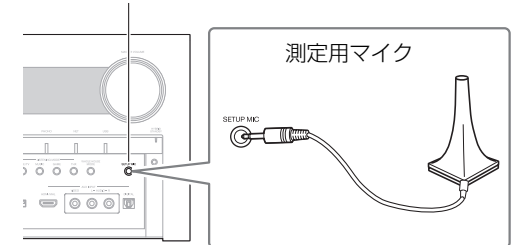
１回目の中心位置以外の視聴位置を最高7ヶ所まで測定します。

○：視聴エリア　①～⑧：マイク測定位置

ご注意

- 測定中は、部屋をできるだけ静かにしてください。周囲の雑音や無線周波妨害（RFI）があると、部屋の測定が中断される場合があります。窓を閉めて、テレビ、ラジオ、エアコン、蛍光灯、家電機器、調光器、その他の機器を停止してください。携帯電話は（使用中でなくても）電源を切るか、すべてのオーディオ機器から離れた場所に置いてください。
- 自動スピーカー設定が実行されると、各スピーカーから再生されるテスト音をマイクが拾います。
- ヘッドホンを接続しているときは、測定できません。

1 **本機の電源と、接続しているテレビの電源を入れる**

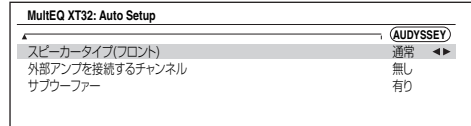
テレビの入力を、本機に接続した入力へ切り換えてください。

2 **付属の測定用マイク（マイク）を、測定位置①に設置してから、マイクのプラグを、本機のSETUP（セットアップ） MIC（マイク）端子に接続する**

スピーカー設定メニューが表示されます。

ご注意

- 本機とテレビをHDMI接続（**HDMI OUT（アウト） MAIN（メイン）**）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

3 設定が完了したら、ENTERボタンを押す

MultEQ XT32: Auto Setup
AUDYSSEY
スピーカータイプ(フロント) 通常 ◄►
外部アンプを接続するチャンネル 無し
サブウーファー 有り

スピーカーの構成に応じて「スピーカー設定」を行ってください。

- スピーカータイプ(フロント)（➔ P.63）
- 外部アンプを接続するチャンネル（➔ P.63）
- サブウーファー（➔ P.64）

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合は手順4へ、そうで無い場合は手順5へ進んでください。

「**スピーカータイプ(フロント)**」で「Digital Crossover」を選択した場合、設定を終了する前に、確認画面が表示されます。「**次へ(2-7. Digital Processing Crossover Network)**」を選択してください。「Digital Processing Crossover Network」画面が表示されます（➔ P.67）。続けて設定を行ってください。

4 サブウーファーの音量レベルを75dBに調整し、ENTERボタンを押す

サブウーファーからテスト音が出ます。サブウーファーの音量を調整してください。

ご注意

- お使いのサブウーファーに音量調整がない場合は、画面に表示される音量レベルは無視して、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。
- サブウーファーの音量調整を最大まで上げても、画面に表示される音量レベルが75dBよりも低い場合は、**ENTER**ボタンを押して次の手順に進んでください。

5 ▲/▼ボタンを押して「Audyssey簡単測定」または「Audyssey MultEQ XT32通常測定」を選び、ENTERボタンを押す

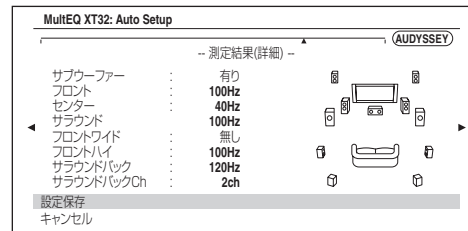
6 ENTERボタンを押す

自動スピーカー設定が始まります。
接続したスピーカーからテスト音を出しながら、マイクで測定します。
完了するまで数分かかります。
自動スピーカー設定中は、話したり、スピーカーとマイクの間に立ったりしないでください。
測定を途中で止めるときは、マイクのプラグを抜いてください。
「**Audyssey簡単測定**」を選んでいる場合、手順9に進んでください。

7 マイクを次の測定位置に設置し、ENTERボタンを押す

測定が再開されます。完了するまで数分かかります。

8 画面にしたがって、手順7をくり返す

9 ▲/▼ボタンを押して項目を選び、ENTERボタンを押す

以下の選択項目があります。

▶ **設定保存**：
計算結果を保存して終了します。

▶ **キャンセル**：
結果をキャンセルして終了します。

ヒント

- 詳細、距離、音量レベルの測定結果は、◄/►ボタンで表示切り換えできます。

10 ▲/▼ボタンを押して項目を選び、◄/►ボタンを押して設定を変更する

自動スピーカー設定の測定結果を保存すると、「Audyssey」（➔ P.71）、「Dynamic EQ」（➔ P.71）、「Dynamic Volume」（➔ P.72）設定がメニューに表示されます。

ご注意

- 測定方法で「**Audyssey簡単測定**」を選んだ場合、「**Audyssey**」は選択できません。
- これらの設定は、すべての入力セレクタに適用されます。

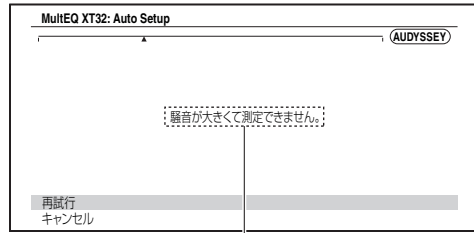
11 ENTERボタンを押す

12 マイクを取り外す

ご注意

- 測定中はマイクを抜かないでください。測定が中止になります。
- 測定中は、スピーカーを接続したり、外したりしないでください。
- ミューティング機能が設定されていると、解除されます。
- 自動スピーカー設定を行ったあとに、スピーカーの配置を変えたり、部屋のレイアウトを変更した場合は、部屋内の音域特性が変化しています。自動スピーカー設定をやり直してください。
- スピーカーを増設した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。

エラーメッセージ

自動スピーカー設定中、以下のいずれかのエラーメッセージが表示される場合があります。

エラーメッセージ

以下の選択項目があります。

- **再試行**：
  再度測定します。
  （測定していたポイントから再開します）
- **キャンセル**：
  結果をキャンセルして終了します。

- **騒音が大きくて測定できません**
  測定環境の雑音が大きすぎて、測定できません。雑音の原因を取り除いてください。
- **1周目とスピーカーの数が違います**
  検出されたスピーカーの数が、最初の測定時と異なります。スピーカーの接続を確認してください。
- **保存に失敗しました**
  測定結果の保存に失敗しました。
  2、3度試してもこのエラーメッセージが出る場合は、本機が故障している可能性があります。
  お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。
- **スピーカーを検出できません**
  このメッセージは、スピーカーが検出されないときに表示されます。「**無し**」は、スピーカーが検出されなかったことを表しています。

ヒント

- 正しいスピーカー構成については、「スピーカーの配置」をご覧ください（➔ P.14）。

スピーカーの設定を手動で変更する

自動スピーカー設定で設定した項目を、手動で変更できます。
以下の項目もご覧ください。

- 「スピーカー詳細設定」（➔ P.64）
- 「スピーカー距離」（➔ P.65）
- 「スピーカー音量レベル」（➔ P.65）
- 「イコライザ設定」（➔ P.65）

ご注意

THXのリスニングモードで聴くときは

THX認定スピーカーシステムを使用するときは、スピーカー設定を手動で設定し直すことを、THXは推奨しています。

- 自動スピーカー設定を行った場合は、手動でクロスオーバー周波数設定を「80Hz(THX)」に設定してください。
- 低域周波数の持つ無指向性、あるいは各部屋の持つ固有の特性などにより、サブウーファーのスピーカー距離設定や、スピーカー音量設定が最適でない場合があります。手動で設定し直してください。
- 各部屋固有の特性などにより、スピーカー距離設定やスピーカー音量設定が、最適でない場合があります。手動で設定し直してください。

アンプ内蔵サブウーファーを接続している場合

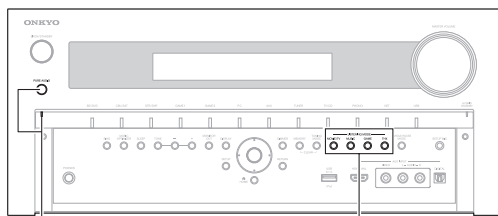
サブウーファーの音声は、超低域で低い位置から出力されるために、自動スピーカー設定で認識されない場合があります。
「**測定結果（詳細）**」画面の「**サブウーファー**」が「**無し**」と表示される場合は、サブウーファーの音量を半分くらいまで上げ、周波数を最大にした状態でご使用ください。音量を大きく設定し過ぎて音が歪む場合は、検出に関する問題が発生する可能性があります。適切な音量に設定してください。

カットオフフィルター切換スイッチがある場合は、Off（オフ）あるいはDIRECT（ダイレクト）の状態にしてご使用ください。カットオフ周波数をOffにできない場合は、周波数を最大にしてご使用ください。詳しくは、サブウーファーの取扱説明書をご覧ください。

リスニングモードを使う

リスニングモードを選ぶ

リスニングモードの詳細については、「リスニングモードについて」をご覧ください。

■ リスニングモードのボタン

MOVIE/TVボタン

映画やテレビを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

MUSICボタン

音楽を楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

GAMEボタン

ゲームを楽しむのに適したリスニングモードに切り換えます。

THXボタン

THX関連のリスニングモードを選びます。

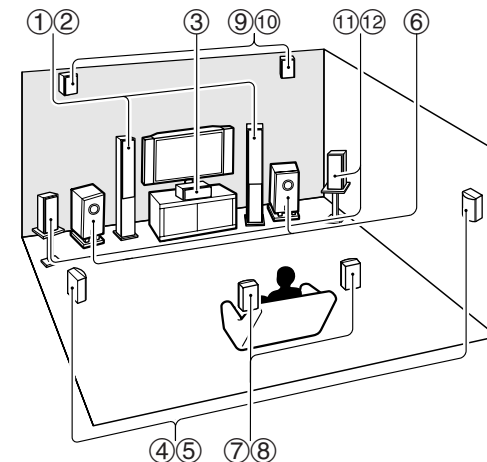
PURE AUDIOボタン、インジケーター

リスニングモードをPure Audioにします。
このモードでは、表示部とアナログビデオ回路の電源がオフになりますが、HDMI入力端子から入力された映像信号のみをHDMI出力端子から出力できます。このモードを選択すると、**PURE AUDIO**インジケーターが点灯します。もう1度押すと、1つ前に選んでいたリスニングモードに戻ります。

- **ブルーレイディスク/DVDプレーヤーがデジタル接続されていない場合やプレーヤー側の出力設定をビットストリームにしていない場合は、Dolby DigitalやDTSリスニングモードは選べません。**
- **選択できるリスニングモードは、入力信号のフォーマットによって決まります。入力信号のフォーマットを確認する方法については、「表示を確認する」をご覧ください（➔ P.51）。**
- **ヘッドホン接続時は、Pure Audio、Mono、DirectまたはStereoの各リスニングモードが選択できます。**

リスニングモードについて

さまざまなリスニングモードを使うと、高度な再現性とすばらしいサラウンド効果で、あなたの部屋が劇場やコンサートホールに生まれ変わります。

■ このセクションのみかた

①② フロントスピーカー
③ センタースピーカー
④⑤ サラウンドスピーカー
⑥ サブウーファー
⑦⑧ サラウンドバックスピーカー
⑨⑩ フロントハイスピーカー
⑪⑫ フロントワイドスピーカー

入力信号のチャンネル数について

ここでは、代表的な入力信号について説明しています。

モノラル	モノラル音声です。AACフォーマットなどにおける多重音声（Multiplex）も含みます。
ステレオ	ステレオ音声です。2つの独立した音声信号チャンネルが、左右フロントスピーカーから再生されます。音声フォーマットは、PCM、AAC、Dolby Digitalなどがあります。
5.1ch	5.1チャンネルのサラウンドサウンドです。このサラウンドシステムでは、5つのメインサウンドチャンネルと、6番目のサブウーファーチャンネル（0.1チャンネルと呼ばれます）を使います。音声フォーマットは、AAC、Dolby Digital、DTSなどがあります。
7.1ch	7.1チャンネルのサラウンドサウンドです。5.1チャンネルサウンドを音響的にさらに改良したもので、2つのスピーカーを追加することによって、サラウンド感と音場の正確性を向上しています。音声フォーマットは、Dolby Digital、DTSなどがあります。

スピーカーの配置

以下の図は、各チャンネル構成で、どのスピーカーが有効になるかを示した代表的なスピーカーの配置例です。スピーカーの設定については「スピーカー詳細設定」をご覧ください（➔ P.64）。

*1 **RECEIVER**ボタンを押してから、**SP**ボタンをくり返し押して、使いたいスピーカー（フロントハイ、フロントワイド、またはサラウンドバック）を選びます。

*2 対応するスピーカーを有効にした後、**RECEIVER**ボタンを押してから、**SP**ボタンをくり返し押して、使いたいスピーカーを選びます。これらのレイアウトは、「**外部アンプを接続するチャンネル**」設定が有効な場合のみ選択ができます（➔ P.63）。

■オンキヨー独自のDSPリスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Orchestra (オーケストラ) Orchestra	クラシックやオペラに適したモードです。音声イメージが全体に広がるようなサラウンド感を強調する効果があります。大ホールで聴いているような自然な響きが楽しめます。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1 9.1
Unplugged (アンプラグド) Unplugged	アコースティックやボーカル、ジャズなどに適したモードです。フロントの音場イメージを重視することで、あたかもステージの前で聴いているような音場イメージを作ります。		
Studio-Mix (スタジオ ミックス) Studio-Mix	ロック、ポピュラーミュージックなどに適したモードです。パワフルな音響イメージを再現した臨場感あふれるサウンドをお楽しみいただけます。		
TV Logic (ロジック) TV Logic	放送局のスタジオから放映されているテレビ放送に適したモードです。局のスタジオにいるような臨場感を高めます。すべてのサラウンド音声を強調し、会話音声を明瞭にします。		
Stage (ステージ)*1 Stage	「演劇/ドラマ」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Action (アクション)*1 Action	「アニメ/特撮」系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Music (ミュージック)*1 Music	音楽系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Sports (スポーツ)*1 Sports	スポーツ系のテレビ番組を観るのに適したモードです。		
Game-RPG (ゲーム) Game-RPG	RPG（ロールプレイングゲーム）を楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Action Game-Action	アクションゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
Game-Rock (ロック) Game-Rock	ロックゲームを楽しんでいるときに適したモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1 9.1
Game-Sports Game-Sports	スポーツゲームを楽しんでいるときに適したモードです。		
All Ch Stereo (オール チャンネル ステレオ) All Ch Stereo	BGMとして音楽をかけるときに便利なモードです。フロントだけでなく、サラウンドからもステレオの音声を再生し、ステレオイメージを作ります。		3.1 5.1 7.1 9.1
Full Mono (フル モノ) Full Mono	すべてのスピーカーからモノラル音声で再生されます。どの場所にいても同様の音楽を聴くことができます。		
T-D (Theater-Dimensional) (シアター ディメンショナル) T-D	2つまたは3つのスピーカーで、あたかもマルチチャンネルサラウンド再生しているような、バーチャル再生をお楽しみいただけます。左右それぞれの耳に届く音声の特性を、制御することによって実現しています。反射音成分が大きいと期待した効果が得られない場合があるため、できるだけ反射音の少ない環境をおすすめします。		2.1 3.1 5.1 7.1 9.1

■リスニングモード

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Pure Audio*2 Pure Audio	このモードは原音を忠実に再生します。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。Quick Setupメニューで設定した処理の多くが無効になります。詳しくは「設定をする」をご覧ください（➔ P.55）。また表示部とアナログビデオ回路の電源がオフになりますのでノイズ源が最小限に抑えられ、臨場感あふれるサウンド再生が実現します。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
Direct Direct	このモードに合わせておくと、入力された信号がそのまま再生されます。たとえば音楽CDの2 ch の信号が入力されればステレオで再生、地上波デジタル放送のAACの5.1ch信号が入力されれば5.1chで（2ch信号入力ではステレオで）再生、ブルーレイディスクやDVDのDolby Digital信号が入力されればそのチャンネル数に応じたDolby Digital音場が再生される便利なモードです。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
Stereo Stereo	左右フロントスピーカーとサブウーファーから音声が出力されます。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1 9.1
Mono Mono	モノラル信号で収録された古い映画を再生したり、2言語が記録されているソースを、左右のチャンネルで独立して再生するモードです。DVDなどに記録された、音声多重のサウンドトラックに適しています。	モノラル ステレオ 5.1ch 7.1ch	2.1 3.1 5.1 7.1 9.1
Multichannel Multich	マルチチャンネルPCMソース再生時に使用できるモードです。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1
DSD*4 DSD	DSDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1
Dolby Digital Dolby D	Dolby Digitalソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1
Dolby Digital Plus*5 Dolby D +	Dolby Digital Plusソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
Dolby TrueHD Dolby TrueHD	Dolby TrueHDソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
DTS DTS	DTSソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1
DTS-HD High Resolution Audio DTS-HD HR	DTS-HD High Resolution Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
DTS-HD Master Audio DTS-HD MSTR	DTS-HD Master Audioソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1 3.1 5.1 7.1*3 9.1
DTS Express DTS Express	DTS Expressソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1
DTS 96/24*6 DTS 96/24	DTS 96/24ソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。96kHzのサンプリングレートと、24ビットの解像度を使った高解像度DTSとして、きめ細やかな再現性を実現します。DTS 96/24ロゴのついたCD、DVD、LDなどにご使用ください。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
DTS-ES Discrete（ディスクリート）*7 ES Discrete	サラウンドバックチャンネルを利用して、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現するDTS-ESディスクリートサウンドトラック用のモードです。完全に独立した7つのチャンネルで、空間イメージの向上と、360度の音像定位が実現し、サラウンドチャンネル間を飛び交うようなサウンドに最適なモードです。DTS-ESロゴのついたDVD、特にDTS-ESディスクリートサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。	6.1ch 7.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
DTS-ES Matrix（マトリックス）*7 ES Matrix	マトリックスエンコードされたバックチャンネルを使って、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルの再生を実現する、DTS-ESマトリックスサウンドトラック用のモードです。DTS-ESロゴのついたCD、DVD、LDなど、特にDTS-ESマトリックスサウンドトラックを使った収録ソフトにご使用ください。		
AAC AAC	AACソース用のモードです。入力された音声が、サラウンド処理されずにそのまま出力されます。MPEG-2（エムペグ） AAC方式で圧縮されたデジタルデータで、5.1チャンネルのサラウンド音声を提供します。 地上デジタル、BS/CSデジタル放送などのAACソースを再生するために使用します。	5.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Dolby（ドルビー） Pro（プロ） Logic（ロジック） IIx*8 Dolby Pro Logic II PLⅡ Movie PLⅡ Music PLⅡ Game PLⅡx Movie PLⅡx Music PLⅡx Game	Dolby Pro Logic IIxでは、すべての2チャンネルソースを7.1チャンネルで再生します。明瞭なサウンドはそのままに、かってないほど自然でなめらかなサラウンド体験が得られます。CDや映画に加えて、ゲームソフトの再生もドラマチックな空間演出、鮮明な音像定位などが得られます。		
	サラウンドバックスピーカーを接続していない5.1チャンネルのときは、Dolby Pro Logic IIxの代わりに、Dolby Pro Logic IIになります。 • Dolby PLIIx Movie（ムービー） Dolby Surround（サラウンド）（Pro Logic）の映画（テレビ番組、DVD、VHSなど）を鑑賞するときに使います。 • Dolby PLIIx Music（ミュージック） Dolby Surround（Pro Logic）の音楽ソース（CD、ラジオ、カセットテープ、テレビ、VHS、DVDなど）を聴くときに使います。 • Dolby PLIIx Game（ゲーム） テレビゲーム、特にDolby Pro Logic IIのロゴのついたゲームディスクを楽しむときに使います。	ステレオ	3.1 5.1 7.1 9.1
	• Dolby PLIIx Movie • Dolby PLIIx Music Dolby Pro Logic IIxで、5.1チャンネルのソースを7.1チャンネルで再生します。	5.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
Dolby Pro Logic IIz Height（ハイト） PLⅡz Height	ハイチャンネルスピーカーを接続しているとき、より効果的に既存のプログラムを使えるように設計されています。Dolby Pro Logic IIz Heightは、映画や音楽のさまざまなソースをミキシングできますが、特にゲームのコンテンツをミキシングするのに適したモードです。	ステレオ 5.1ch 7.1ch	7.1-FH 9.1-SB/FH 9.1-FH/FW

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Dolby EX Dolby EX Dolby D EX	5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、サラウンドバックチャンネルも利用した6.1/7.1チャンネルで再生できます。特に、マトリックスエンコードされたサラウンドバックチャンネルが使われているDolby EXのサウンドトラックに適したモードです。5.1チャンネルにサラウンドバックチャンネルを追加することで、より空間表現力を高め、360度の回転や頭上を通過するような移動音効果をリアルに体感できます。	5.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
DTS Neo:X*9	さまざまな入力ソースを最大9.1チャンネルまで拡張することができます。 このモードは、フロントハイ/フロントワイドスピーカーを追加することにより半球状の音場空間を作り出し、自然で臨場感と広がりのあるサラウンド音声をお楽しみいただけます。		
Neo:X Cinema Neo:X Music Neo:X Game	• DTS Neo:X Cinema 映画を楽しんでいるときに適したモードです。 • DTS Neo:X Music 音楽を楽しんでいるときに適したモードです。 • DTS Neo:X Game ゲームを楽しんでいるときに適したモードです。	ステレオ 5.1ch 7.1ch	3.1 5.1 7.1 9.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
Audyssey DSX*10 Audyssey DSX	• Audyssey DSX Audyssey DSX®は、5.1 ch システムに新しいチャンネルを加えることにより、サラウンドの効果を高めるシステムです。臨場感あるサラウンド再生のためには、従来の5.1chシステムにフロントワイドチャンネルを追加することが最も効果的です。次に効果的であるのが、フロントハイチャンネルの追加です。また、DSXはこれらの新しいチャンネルの追加に加え、Surround Envelopment Processing技術によって、サラウンドチャンネルとフロントチャンネルのサラウンド感のつながりを向上させています。	5.1ch 7.1ch	7.1-FH 7.1-FW 9.1
PLⅡ Movie DSX PLⅡ Music DSX PLⅡ Game DSX	• Dolby Pro Logic II/IIx*8 Movie + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic II/IIx*8 Music + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic II/IIx*8 Game + Audyssey DSX Dolby Pro Logic II/IIxとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。 **PLII**または**PLIIx**表示と**Audyssey**表示が点灯します。	ステレオ	7.1-FH 7.1-FW 9.1
PLⅡx Movie DSX PLⅡx Music DSX PLⅡx Game DSX	• Dolby Pro Logic IIx Movie + Audyssey DSX • Dolby Pro Logic IIx Music + Audyssey DSX Dolby Pro Logic IIxとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。 **PLIIx**表示と**Audyssey**表示が点灯します。	5.1ch	9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
Dolby EX DSX	• Dolby EX + Audyssey DSX Dolby EXとAudyssey DSXを組み合わせたモードが使えます。	5.1ch	7.1 9.1

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
THX	ルーカスフィルム（Lucasfilm）社が提唱する劇場用音響の品質規格です。映画制作者のニュアンスを劇場で忠実に伝えきるために、レベルやノイズ/残響音/音響機材/スピーカーの設置位置など、厳格な品質基準が設けられています。全世界で5,000を超える劇場が認可され、音響品質の高い映画館の代名詞とさえ言われます。 THXモードは、ホームシアター環境での再生のために、音質上・空間上のサウンドトラック特性を丁寧に最適化します。マトリックスエンコードされた2チャンネルソースやマルチチャネルソースで使用することができます。サラウンドバックの音声は、ソースや選択するリスニングモードによって異なります。		
THX Cinema THX Music THX Games	• THX Cinema このモードは、映画館のような広い場所で再生することを想定して録音編集された劇場用映画などのサウンドトラックを、ホームシアター環境で再生するためのモードです。このモードでは、THX Loudnessが劇場レベルに設定され、Re-EQ、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）、アダプティブ・デコリレーション（Adaptive Decorrelation）がアクティブになります。 • THX Music このモードは、主として映画よりも明らかに高レベルにマスタリングされている音楽を聴くために調整されています。このモードでは、THX Loudness Plusが音楽再生のために設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）のみがアクティブになります。	5.1ch 7.1ch	5.1 7.1 9.1
	• THX Games このモードは、ゲームの音声を空間的に忠実に再生するためのモードで、多くの場合、映画と同じミキシングがされますが、小規模な環境のためのモードです。THX Loudness Plusがゲームの音声のレベルに応じて設定され、ティンバー・マッチング（Timbre Matching）がアクティブになります。	5.1ch 7.1ch	5.1 7.1 9.1
	• Dolby Pro Logic II/IIx[*8] Movie + THX Cinema • Dolby Pro Logic II/IIx[*8] Music + THX Music • Dolby Pro Logic II/IIx[*8] Game + THX Games Dolby Pro Logic II/IIxとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 **PLII**または**PLIIx**表示と**THX**表示が点灯します。	ステレオ	5.1 7.1 9.1
	• Dolby Pro Logic IIx Movie + THX Cinema • Dolby Pro Logic IIx Music + THX Music Dolby Pro Logic IIxとTHX Cinema/Musicを組み合わせたモードが使えます。 **PLIIx**表示と**THX**表示が点灯します。	5.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
	• Dolby Pro Logic IIz Height + THX Cinema • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Music • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Games Dolby Pro Logic IIz HeightとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 PLIIz表示とTHX表示が点灯します。	ステレオ 5.1ch 7.1ch	7.1-FH 9.1-SB/FH 9.1-FH/FW
	• DTS Neo:X Cinema + THX Cinema • DTS Neo:X Music + THX Music • DTS Neo:X Game + THX Games DTS Neo:X Cinema/Music/GameとTHX Cinema/Music/Gamesを組み合わせたモードが使えます。 Neo:X表示が点灯します。		7.1 9.1
THX S2 Cinema THX S2 Music THX S2 Game	• THX Select2 Cinema 5.1チャンネルで収録された音楽や映画を、7.1チャンネルで再生できます。再生するサラウンド成分を分析し、雰囲気や方向感を最適化するよう、サラウンドバックに振り分けます。横と後方の広がりと定位感をさらに高めます。 • THX Select2 Music このモードは、5.1チャンネルで収録された音楽ソースを、7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。 • THX Select2 Games このモードは、5.1チャンネルで収録されたゲームソースを、6.1チャンネルまたは7.1チャンネルで再生使用できるように設計されています。	5.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW

リスニングモード	説明	入力信号のチャンネル数	対応するスピーカーの配置
THX Surr EX	• THX Surround EX ドルビーラボラトリーズ社とTHX社で共同開発された、ホームシアター用フォーマットです。Dolby Digital EXの技術で従来の左右フロント、センター、左右サラウンド、サブウーファーの各チャンネルに加えて、視聴者の背後に新たな音場を作り出し、総計7.1チャンネルとなります。	5.1ch	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
	• Dolby Pro Logic II Game + THX Select2 Games Dolby Pro Logic II GameとTHX Select2 Gamesを組み合わせたモードが使えます。表示部にPLII表示とTHX表示が点灯します。	ステレオ	7.1-SB 9.1-SB/FH 9.1-SB/FW
	• Dolby Pro Logic IIz Height + THX Select2 Games Dolby Pro Logic IIz HeightとTHX Select2 Gamesを組み合わせたモードが使えます。	ステレオ 5.1ch	9.1-SB/FH
	• Dolby Pro Logic IIz Height + THX Select2 Cinema • Dolby Pro Logic IIz Height + THX Select2 Music Dolby Pro Logic IIz HeightとTHX Select2 Cinema/Musicを組み合わせたモードが使えます。	5.1ch	9.1-SB/FH

ご注意

*1 「**ジャンル連動**」設定を「**自動**」に設定していないと選択できません。(➔ P.79)

*2 ゾーン2/ゾーン3がオンのとき、Pure Audioは選択できません。Pure Audioを選択中にゾーン2/ゾーン3をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。

*3 ソースに含まれる音声チャンネルに対応したスピーカーから音声が出ます。

*4 本機は**HDMI**入力端子からのDSD信号入力に対応していますが、接続するプレーヤーによっては、プレーヤー側の出力設定をPCMに設定したほうが、よい音声を得られることがあります。その場合は、プレーヤー側の設定をPCM出力にしてください。

*5 ブルーレイディスクの場合は、3.1チャンネルまたは5.1チャネルのスピーカー構成でDolby Digitalになります。

*6 本機の設定によってはDTSになります。

*7 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、DTSになります。

*8 サラウンドバックスピーカーを接続していない場合は、Dolby Pro Logic IIになります。

*9 DTS Neo:Xリスニングモードは、入力信号が192 kHzの場合は選択できません。

*10 • 以下の条件をすべて満たす場合に選択できます。
- センタースピーカーが本機に接続されている
- フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが本機に接続されている

• 入力信号によっては選べないことがあります。

ホームメニューを使う

ホームメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

1 RECEIVERボタンを押して、HOMEボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

ヒント

• 本体の**HOME**ボタンでも操作できます。

2 ◄/► または▲/▼ボタンを押して目的の項目を選び、ENTERボタンを押す

HOMEボタンを押すとメニューが閉じます。

■ネットワークサービス

本機をネットワークに接続する必要があります
(➔ P.111)。

▸この項目は、各種のインターネットラジオサービスやDLNAを利用するときに選択します（➔ P.31）。
本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

ENTERボタンを押してネットワークサービス画面を表示します。

▲/▼/◄/► ボタンでインターネットラジオサービスを選び**ENTER**ボタンを押すと、選んだインターネットラジオサービスに切り換わります。

ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生したいときは▲/▼/◄/► ボタンで「DLNA」を選び**ENTER**ボタンを押します。

■USB

▸この項目は、iPodなどのデジタルオーディオプレーヤーやUSBデバイスを本機の**USB**端子に接続して再生するときに選択します（➔ P.30、31）。
本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

USBボタンをくり返し押して「USB(前面)」または「USB(後面)」を選びます。

ENTERボタンを押して接続したデバイスのコンテンツを表示した後に▲/▼ボタンで希望するフォルダや曲を選びます。**ENTER**ボタンをもう一度押すと、選んだ曲を再生します。

ヒント

• 本機前面パネルの**USB**端子のみiPod/iPhoneに対応しています。

■ InstaPrevue

‣ この項目は、HDMI入力端子（**HDMI IN 1**/**2**/**3**/**4**、**AUX INPUT**）からの映像/音声をプレビュー表示したいときに選択します。各入力映像をひとつの画面にまとめてプレビュー表示できるので、複数の機器をHDMI接続している場合でも、簡単に入力を切り換えることができます。

ENTERボタンを押して、親画面（現在の入力映像）と子画面（その他の入力映像）を表示します。▲/▼または◄/►ボタンを使用して子画面を選び、**ENTER**ボタンを押すとその入力に切り換わります。

ヒント

- 入力映像がない場合は、黒の子画面が表示されます。
- 子画面の表示数と表示場所はお好みで設定できます（➔ P.80）。

ご注意

- 以下の場合、この項目は選択できません。
  - **HDMI IN 5**/**6**/**7**からの映像を入力している
  - 選択中の入力ソースからの信号がない
- InstaPrevueの子画面に映像信号を入力される場合、信号方式によっては正しく表示されないことがあります。

■ セットアップ

‣ この項目は、セットアップメニューで各種の設定をするときに選択します。

ENTERボタンを押して、セットアップメニューを開きます（➔ P.59）。

ヒント

- よく使用する項目は、Quick Setupメニューからも設定することができます（➔ P.55）。

■ ファームウェアアップデート

‣ この項目は、ファームウェアの更新をするときに選択します。本項目がグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

ENTERボタンを押して、ファームウェアの更新手順に進みます（➔ P.102）。

スリープタイマーを使う

指定した時間が経過すると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。

1 RECEIVERボタンを押して、SLEEPボタンをくり返し押す

「Sleep 90 min」が表示され、90分後にスタンバイ状態になります。ボタンを押すたびに10分単位で設定時間が短くなります。

スリープタイマー設定中はSLEEP表示が点灯します。残り時間を約5秒間表示したあと、元の表示に戻ります。

ヒント

- 本体の**SLEEP**ボタンでも操作できます。
- スリープタイマーを解除するには、SLEEP表示が消えるまで、くり返し**SLEEP**ボタンを押すか、一度スタンバイ状態にしてから、再度電源を入れます。
- **SLEEP**ボタンを押すと、スタンバイ状態になるまでの残り時間が表示されます。残り時間が10分以下のときにもう一度**SLEEP**ボタンを押した場合、スリープタイマーは解除されます。

表示部の明るさを変える

表示部の明るさを調節すると同時に**MASTER VOLUME**インジケーターのオンとオフを切り換えます。

1 RECEIVERボタンを押して、DIMMERボタンをくり返し押して明るさを選ぶ

- 通常+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが点灯
- 通常+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが消灯
- やや暗い+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが消灯
- 暗い+**MASTER VOLUME**つまみのまわりのライトが消灯

ヒント

- 本体の**DIMMER**ボタンでも操作できます。

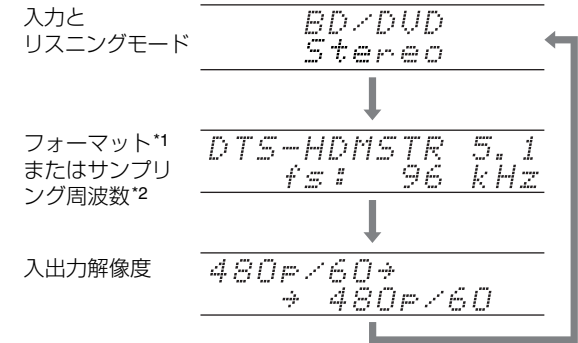
表示を確認する

入力信号の様々な情報を表示することができます。

1 RECEIVERボタンを押して、DISPLAYボタンをくり返し押す

ヒント

- 本体の**DISPLAY**ボタンでも操作できます。

以下の情報を表示できます。

*1 入力信号がデジタルの場合は、フォーマットが表示されます。情報は約3秒間表示されたあと、元の表示に戻ります。

*2 入力信号がAACの音声多重放送（2ヶ国語放送など）の場合は、表示されません。音声の数が表示されます。

入力表示を切り換える

オンキヨー製のRI端子付きRIドックを、本機の**TV/CD IN**端子または**GAME1 IN**端子に接続した場合、ダイレクトチェンジなどのシステム動作を正しく行うために、入力表示を切り換える必要があります。
この設定は、前面パネル以外で行うことはできません。

1 **TV/CDまたはGAME1ボタンを押して、表示部に「TV/CD」または「GAME1」を表示させる**

2 **TV/CDまたはGAME1ボタンを約3秒間押し続けて、表示を切り換える**
この手順をくり返すと、以下のように表示が切り換わります。

■TV/CDボタン
「TV/CD」→「DOCK」→「TAPE」→「TV/CD」

■GAME1ボタン
「GAME1」→「DOCK」→「GAME1」

ご注意
- **TV/CD**、**GAME1**の各入力切換ボタンで「DOCK」を選べますが、同時には選べません。
- 本機付属のリモコンで操作する前に、まずRI専用リモコンコードを登録してください（➔ P.86）。

ホールハウスモードを使う

ホールハウスモードは、ホームパーティーでBGMを流したいときに便利な機能です。メインルームだけでなく別室（マルチゾーン：ゾーン2/ゾーン3）にも同じステレオ音声を出力します。
この機能では、メインルームと同じ入力ソースが別室に設定されます。
以下の項目もご覧ください。
- 「2.スピーカー設定」（➔ P.63）
- 「別室（ゾーン）で音楽を鑑賞する」（➔ P.82）

1 **前面パネルのWHOLE HOUSE MODEボタンを押す**
ホールハウスモードをオフにするには、メインルームの入力ソースを変更するか、リスニングモードを選択します（➔ P.42）。

ご注意
- アナログ音声にのみ対応しています。
- **MASTER VOLUME**つまみを操作しても、マルチゾーンの音量を調整することはできません。マルチゾーンの音量は別室で使用するアンプまたはレシーバーで調整してください。
- 以下の場合、使用できません：
  - 「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」に設定している。
  - 「**HDMI コントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定して（➔ P.78）、テレビのスピーカーで聴いている。
  - Digital Processing Crossover Networkを使用している（➔ P.67）。

スピーカーレイアウトを選ぶ

使用したいスピーカーの優先順位を設定できます。

1 **RECEIVERボタンを押したあと、SPボタンをくり返し押す**

■9.1チャンネル再生

これらのレイアウトは、「外部アンプを接続するチャンネル」（➔ P.63）で「無し」以外が選択されていて、対応する全てのスピーカーが有効である場合のみ、選択できます。

- Speaker Layout : SB / FH :
  サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout :SB/ FW :
  サラウンドバックスピーカー、フロントワイドスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout :FH/FW:
  フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーからの音声が優先されます。

■7.1チャンネル再生
- Speaker Layout :FH:
  フロントハイスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout :FW:
  フロントワイドスピーカーからの音声が優先されます。
- Speaker Layout :SB:
  サラウンドバックスピーカーからの音声が優先されます。

ご注意
- 「**スピーカータイプ(フロント)**」が「**バイアンプ**」または「**Digital Crossover**」に設定されている場合（➔ P.63）、この設定は選べません。
- 「**スピーカーセッティング**」（➔ P.63）と「**スピーカー詳細設定**」（➔ P.64）の設定によっては、再生が制限されることがあります。
- サラウンドバックスピーカー、フロントハイスピーカーおよびフロントワイドスピーカーに対応していないリスニングモードを使用しているときは、この機能は使えません。

ミュージックオプティマイザーを使う

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。

1 前面パネルのMUSIC OPTIMIZERボタンを押す

M.Opt表示が点灯します。

ヒント

- リモコンの**Q SETUP**ボタンとカーソルボタンでも操作できます。
- 詳細については「ミュージックオプティマイザー」をご覧ください（➔ P.58）。

一時的に音量を小さくする

出力を一時的に小さくできます。

1 RECEIVERボタンを押して、MUTINGボタンを押す

MUTING表示が点滅します。

ヒント

- 解除するには、**MUTING**ボタンをもう一度押すか音量調整をします。
- 本機がスタンバイ状態になった場合にも、解除されます。

ヘッドホンで聴く

1 標準プラグ（6.3 mm）のステレオヘッドホンを、PHONES端子に接続する

ヘッドホンを**PHONES**端子に接続している間、🎧表示が点灯します。

ご注意

- 接続するときは音量を下げてください。
- ヘッドホン使用中はスピーカーからの音が消えます。
- Pure Audio、Stereo、MonoまたはDirect以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると、自動的にStereoリスニングモードになります。
- iPod/iPhoneを本機の**USB**端子に接続した場合、ヘッドホンからは音声が出力されません。

簡単マクロ機能を使用する

ACTIVITIESボタンを使用するとボタン１つで複数のリモコン操作を実行できます。お好みの操作を登録することもできます。詳しくは「標準マクロを使う」を参照ください（➔ P.94）。

1 ACTIVITIESボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を押す

以下にお買い上げ時の動作を説明します。

登録している再生機器を変更したい場合は、後の「**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器を変更する」の項目を参照ください（➔ P.54）。

■MY MOVIE：

テレビ、「**BD/DVD**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「**BD/DVD**」に切り換わり再生が開始されます*1。

*1 再生機器の起動時間によっては再生コマンドが効かないことがあります。この場合、リモコンの►ボタンを押してください。

■MY TV：

テレビ、「**CBL/SAT**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「**CBL/SAT**」に切り換わります。

■MY MUSIC：

「**TV/CD**」に登録した再生機器、本機の電源が入ります。入力が「**TV/CD**」に切り換わり再生が開始されます。

ご注意

- **ACTIVITIES**ボタンで起動した後、他の**ACTIVITIES**ボタンを使用するには、**ALL OFF**ボタンを押してから、他の**ACTIVITIES**ボタンを押してください。

すべての機器をオフにする

ACTIVITIESボタンに登録しているすべての機器の電源をオフにできます。

1 **ALL OFFボタンを押す**

前回押した**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器、本機、テレビがオフ(もしくはスタンバイ状態)になります。*1*2

*1 **MY MUSIC**の場合はテレビはオフ(もしくはスタンバイ状態)になりません（お買い上げ時の設定)。

*2 電源がオフ(もしくはスタンバイ状態)にならないテレビもあります。

ACTIVITIESボタンに登録されている再生機器を変更する

簡単マクロモードの**ACTIVITIES**ボタンに登録されている再生機器を以下の手順で変更することができます。

1 **操作したい再生機器が登録されているREMOTE MODEボタンを押しながら、変更したいACTIVITIESボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を約３秒間押し続ける**

ACTIVITIESボタンが2 回点滅し、変更が完了します。

例：

MY MUSICで**REMOTE MODE**の「TV/CD」に登録されている再生機器を操作したいときは、**REMOTE MODE**の**TV/CD**を押しながら、**MY MUSIC**を約３秒間押し続ける。

お買い上げ時の設定に戻す

ACTIVITIESボタンに登録している設定をお買い上げ時の状態に戻すことができます。

1 **HOMEボタンを押しながら、ALL OFFボタンが点灯するまでALL OFFボタンを（約３秒間）押し続ける**

2 **HOMEボタンとALL OFFボタンを放し、ALL OFFボタンをもう一度押す**

ALL OFFボタンが2 回点滅します。

RIHDを使う

本機とHDMI接続したCEC対応機器や、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。

1 **前面パネルのRIHDボタンをくり返し押して「オン」、「オフ」を切り換える**

ヒント

- 詳細については「HDMIコントロール(RIHD)」をご覧ください（➔ P.78）。

設定をする

OSDセットアップメニュー

接続したテレビで本機の各種設定を変更するには、以下の二通りの方法があります：Quick Setupメニュー、セットアップメニュー（**HOME**）。

■Quick Setupメニュー

Quick Setupメニューを使うと、よく利用するメニューにすばやくアクセスできます。このメニューを利用して、設定を変更したり、現在の情報を確認したりできます。

■セットアップメニュー（HOME）

セットアップメニュー（**HOME**）は、本機の各種設定を変更できる、便利なメニューです。設定項目は、9カテゴリーに分けられています。

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら各種の設定ができます（オンスクリーンディスプレイ＝OSD機能）。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体の表示部を見ながら設定してください。

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明しています。

Quick Setupメニューを使う

1 **RECEIVERボタンを押したあと、Q SETUPボタンを押す**
接続したテレビ画面にQuick Setupメニューが表示されます。

2 **▲/▼ボタンを押して目的の項目を選び、ENTERボタンを押す**
Q SETUPボタンを押すと、設定を終了します。
RETURNボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

Quick Setupメニューのみかた

①——■Music Optimizer
②——▸オフ
　　└▸オン

① 設定項目
② 設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）

■**入力**

▸入力ソースを選択したり、以下の情報を確認することができます：入力セレクタ名、入力割り当て設定、ラジオ情報、ARC機能設定。
HDMI入力（**HDMI IN 1**/**2**/**3**/**4**、**AUX INPUT**）のプレビューが表示されます。*1
▲/▼ボタンを押して、入力ソースの情報を確認しながら入力ソースを選択できます。**ENTER**ボタンを押すと、選択されている入力ソースに切り換わります。

■**オーディオ**（➔ P.56）

▸変更できる項目は、「**サウンドプログラム**」、「**低域**」、「**高域**」、「**サブウーファー**」、「**センター**」、「Dolby Volume*2」、「Audyssey」、「Dynamic EQ*2*3」、「Dynamic Volume*2*3」、「**レイトナイト**」、「Music Optimizer」、「Re-EQ」、「Re-EQ(THX)」、「Screen Centered Dialog」です。

■**ビデオ***4

▸変更できる項目は、「**ワイドモード**」と「**ピクチャーモード***5」です。
以下の項目もご覧ください。
- 「画質調整」（➔ P.74）

■**情報表示***6

▸情報を表示できる項目は、「**オーディオ**」、「**ビデオ**」、「**チューナー**」です。

■**リスニングモード***7

▸「MOVIE/TV」、「MUSIC」、「GAME」、「THX」のカテゴリーに分類されたリスニングモードを選ぶことができます。
▲/▼ボタンを使ってカテゴリーを選び、◄/►ボタンでリスニングモードを選びます。**ENTER**ボタンを押すと、選んだリスニングモードに切り換わります。

ご注意

*1 • 以下の場合、プレビュー画面は表示されません：
- **HDMI IN 5/6/7**からの映像を出力している。
- 選択中の入力ソースから信号が入力されていない。

• 現在選択しているセレクターは、親画面に表示され、子画面には表示されません。

*2 THXリスニングモード選択時に、「**Loudness Plus**」または「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されているとき、「Dolby Volume」、「Dynamic EQ」、「Dynamic Volume」は選べません（➔ P.66）。

*3 「Dynamic EQ」が「**オン**」に設定されているか、または「Dynamic Volume」が「**オフ**」以外に設定されているとき、「Dolby Volume」は「**オフ**」に切り換わります。

*4 • 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合、「**ビデオ**」は選べません（➔ P.61）。

• 「NET」入力セレクタには使用できません。

*5 「**ピクチャーモード**」で「**カスタム設定**」を選んでいる場合のみ（➔ P.74）、**ENTER**ボタンを押すと、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」といった項目を調整できます。**RETURN**ボタンを押すと、「**ピクチャーモード**」に戻ります。

*6 入力ソースとリスニングモードによっては、表示された出力チャンネルの一部しか音声が出ないことがあります。

*7 • 以下の場合は設定できません：
- 「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.79）。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.78）、テレビのスピーカーで聴いている。

音声設定を使う

Quick Setupメニューからさまざまな音声設定を変更できます。（➔ P.55）

ご注意

• 以下の場合は設定できません：
- 「**テレビオーディオ出力**」設定を「**オン**」にしている（➔ P.79）。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」にして（➔ P.78）、テレビのスピーカーで聴いている。

サウンドプログラム

■サウンドプログラム

▸ **ステレオ信号 1、ステレオ信号 2、ステレオ信号 3、マルチチャンネル信号 1、マルチチャンネル信号 2、マルチチャンネル信号 3**

▸ **オフ**

「**サウンドプログラム編集**」で登録した設定を選択します。（➔ P.70）

ご注意

• 入力セレクタを変更すると、「**サウンドプログラム**」設定は「**オフ**」に切り換わります。

トーンコントロール設定

■低域（Bass）

▸ **－10dB～0dB～+10dB**：

フロントスピーカーの低音の音質を、2dBずつ調整できます。

■高域（Treble）

▸ **－10dB～0dB～+10dB**：

フロントスピーカーの高音の音質を、2dBずつ調整できます。

「Direct」、「Pure Audio」、「THX」以外のリスニングモード時に、左右フロントスピーカーの音質を調整することができます。

本機で操作する

1 TONEボタンをくり返し押して、「Bass」または「Treble」を選ぶ

2 －/＋ボタンを使って、調整を行う

スピーカーの音量

■ サブウーファー

▸0.5dB単位で、－15.0dB～0.0dB～+12.0dB

■ センター

▸0.5dB単位で、－12.0dB～0.0dB～+12.0dB

音声を聴きながら、スピーカーレベルを調整することができます。調整した内容は、本機をスタンバイ状態にすると、設定前の内容に戻ります。
設定を記憶するには、「スピーカー音量レベル」（➔ P.65）の設定画面を表示させてから、本機をスタンバイ状態にしてください。

ご注意

- ミューティング機能が働いているときは調整できません。
- 「スピーカー詳細設定」で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ P.64）は調整できません。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。
- 「**サウンドプログラム**」を有効にしている場合、「**サウンドプログラム編集**」で「**サブウーファー**」を「**無し**」に設定すると、この設定は使用できません。

Dolby Volumeの設定

■ Dolby Volume

「3.音の設定・調整」の「**Dolby Volume**」をご覧ください（➔ P.69）。

ご注意

- 以下の場合は設定できません：
  - Pure AudioまたはDirectリスニングモードが選択されている。
  - THXリスニングモード選択時に、「**Loudness Plus**」または「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されている。
- 「**Dolby Volume**」を「**オン**」に設定すると、すべての入力の「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」が「**オフ**」に設定されます。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

Audyssey®の設定

■ Audyssey

「4.入力ソースの設定」の「**Audyssey**」をご覧ください（➔ P.71）。

■ Dynamic EQ

「4.入力ソースの設定」の「**Dynamic EQ**」をご覧ください（➔ P.71）。

■ Dynamic Volume

「4.入力ソースの設定」の「**Dynamic Volume**」をご覧ください（➔ P.72）。

ご注意

- 以下の項目すべてに該当する場合、この機能を使用できます：
  - 「**Audyssey MultEQ XT32 通常測定**」を行っている。
  - Pure AudioまたはDirectリスニングモード以外のリスニングモードを選択している。
  - ヘッドホンを接続していない。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定できます。
- THXリスニングモード選択時に、「**Loudness Plus**」または「**THX 設定優先**」がそれぞれ「**オン**」、「**有り**」に設定されているとき、「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」は選べません（➔ P.66）。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

レイトナイト

■ レイトナイト

Dolby Digital、Dolby Digital Plusを再生するときは、以下の項目から選びます。

▸**オフ**

▸**弱**：
音量幅を小さくします。

▸**高**：
音量幅をさらに小さくします。

Dolby TrueHDを再生するときは、以下の項目から選びます。

▸**自動**：
レイトナイト機能は、自動で「**オン**」か「**オフ**」に設定されます。

▸**オフ**

▸**オン**

Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD再生時のみに効果があります。

劇場用に作られた映画音声は、大きな音と小さな音の差が大きいため、環境音や人の会話などの小さな音を聴くには、音量を上げる必要があります。レイトナイト機能は音量幅を小さくすることができるため、全体の音量を上げずに小さな音も聴こえます。夜中などに、音量を絞って映画を鑑賞するときに便利です。
この機能は、音声信号が入力されているときに設定されます。また、本機をスタンバイ状態にすると解除されます。

ご注意

- コンテンツ製作者の意図により、レイトナイトのモードを変えても効果に変化のないものもあります。
- レイトナイト機能は、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDソースにのみ効果があります。
- レイトナイト機能は、本機をスタンバイ状態にすると「**オフ**」に設定されます。Dolby TrueHDソースの場合は、「**自動**」に設定されます。
- 「**TrueHD Loudness Management**」を「**オフ**」に設定している場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は効果がありません（➔ P.69）。
- 「**Dolby Volume**」を「**オン**」に設定している場合、レイトナイト機能は効果がありません。

ミュージックオプティマイザー

■Music Optimizer

- オフ
- オン

この機能は、圧縮された音楽信号をより良い音質にします。MP3などの非可逆圧縮ファイルの再生時に効果があります。入力ソースごとに設定を記憶します。「**オン**」に設定した場合、**M.Opt**表示が点灯します。

ヒント

- 本体の**MUSIC OPTIMIZER**ボタンでも操作できます。

ご注意

- この機能は、サンプリング周波数が48 kHz 以下のPCM信号とアナログ信号に働きます。
- リスニングモードが「Pure Audio」と「Direct」のときは、効果がありません。
- この設定は、各入力セレクタごとに設定されます。
- 「**サウンドプログラム**」設定を有効にしている場合は、「**サウンドプログラム編集**」から設定を変更します。

Re-EQ

高音域が強調されたサウンドトラックを、ホームシアター用に補正します。フロントスピーカーからの高音域が強すぎる場合に設定します。

■Re-EQ

- オフ
- オン

この機能が使用できるリスニングモードは、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、Multichannel、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio、DTS Express、DSD、Dolby EX、Dolby Pro Logic IIz Height、Dolby PLIIx Movie、DTS Neo:X Cinemaです。

■Re-EQ(THX)

- オフ
- オン

この機能が使用できるリスニングモードは、THX Cinema、THX Surround EX、THX Select2 Cinemaです。

ご注意

- Re-EQの機能は各入力セレクタごとに保存されます。ただし、THXリスニングモード選択時に、本機の電源を切ると、「**オン**」に戻ります。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

センターの音像位置を調整する

Screen Centered Dialogはセリフなどのセンタースピーカーの音像を、フロントハイスピーカーを使用してテレビ画面の高さに合わせて上方向へ移動する機能です。

■Screen Centered Dialog

- 0
- 1～5

数値が大きくなるにしたがい、センターの音像は上方向に移動します。

ご注意

- 対応するリスニングモードが選択されている場合に設定できます。
- ヘッドホンを接続している場合は、使用できません。

セットアップメニュー（HOME）を使う

この項目では、特に指定のない限り、リモコンを使った手順を説明していますが、本体のSETUPボタン、カーソルボタン、エンターボタンでも設定できます。

1 **RECEIVERボタンを押したあと、HOMEボタンを押す**

2 **◄/►ボタンを押して「セットアップ」を選び、ENTERボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンを押してメインメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンを押してサブメニュー項目を選び、ENTERボタンを押す**

5 **▲/▼ボタンを押して設定項目を選び、◄/►ボタンで設定オプションを変更する**

HOMEボタンを押すと、設定を終了します。

RETURNボタンを押すと、前のメニューに戻ります。

セットアップメニュー項目

メインメニュー項目	サブメニュー項目
1.入力/出力端子の割り当て（➔ P.61）	モニター映像出力
	HDMI入力
	コンポーネント映像入力
	デジタル音声入力
2.スピーカー設定（➔ P.63）	スピーカーセッティング
	スピーカー詳細設定
	スピーカー距離
	スピーカー音量レベル
	イコライザ設定
	THXオーディオ設定
	Digital Processing Crossover Network
3.音の設定・調整（➔ P.68）	多重音声/モノラル
	Dolby
	DTS
	Audyssey DSX
	Theater-Dimensional
	LFEレベル
	サウンドプログラム編集
4.入力ソースの設定（➔ P.71）	Audyssey
	インテリボリューム
	A/Vシンク
	セレクタ名変更
	画質調整
	音声入力

メインメニュー項目	サブメニュー項目
5.リスニングモードプリセット（➔ P.77）	BD/DVD
	CBL/SAT
	STB/DVR
	GAME1
	GAME2
	PC
	AUX
	TUNER
	TV/CD
	PHONO
	NET
	USB
6.その他（➔ P.78）	ボリューム設定
	OSD設定
7.ハードウェア設定（➔ P.78）	HDMI
	自動スタンバイ
	ネットワーク
	初期設定
8.リモコン設定（➔ P.81）	リモコンID
	リモコン登録
9.ロック設定（➔ P.81）	セットアップ

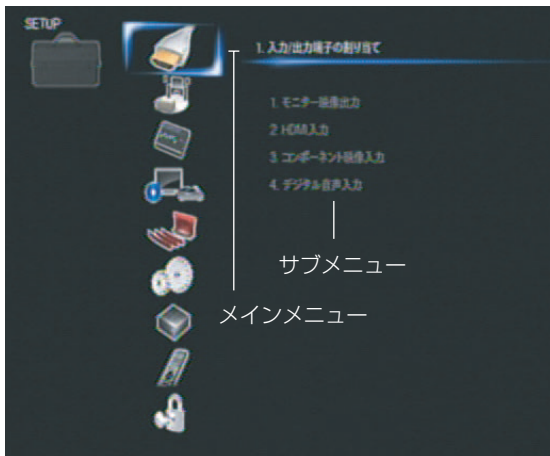
セットアップメニューのみかた

① 2.スピーカー設定

② スピーカー詳細設定

③ ■ サブウーファー

④ ▶ 有り
　 ▶ 無し

①メインメニュー項目
②サブメニュー項目
③設定項目
④設定オプション（下線付きで表示されている設定オプションは、お買い上げ時の設定です。）

■スクリーンセーバー

現在選んでいる入力ソースからの映像信号がない状態で、本機を操作せずに一定時間（お買い上げ時は3分）経過すると、スクリーンセーバーが起動します。

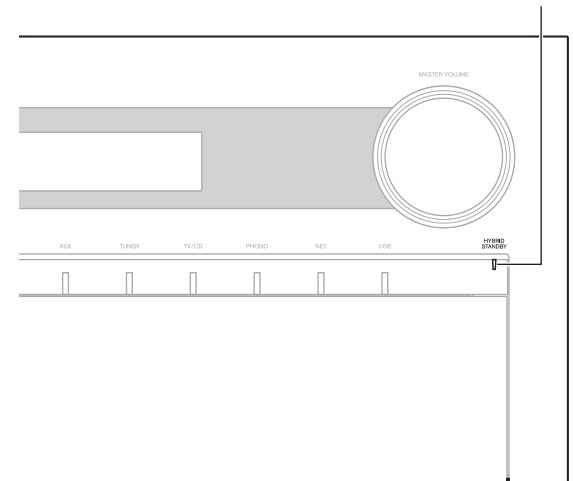
ヒント

- スクリーンセーバーが起動するまでの時間は、「**スクリーンセーバー**」設定で変更することができます（➔ P.78）。
- 本機を操作すると、もとの画面に戻ります。

HYBRID STANDBYインジケーターについて

電源回路の最適化により、本機がスタンバイ状態時の消費電力の上昇を抑えられる機能です。**HYBRID STANDBY** インジケーターは以下のいずれかの場合に点灯します：

- 「**HDMIスルー**」を有効に設定している場合（HDMI表示は消灯します）
- 「**ネットワークスタンバイ**」を有効に設定している場合（NET表示は消灯します）

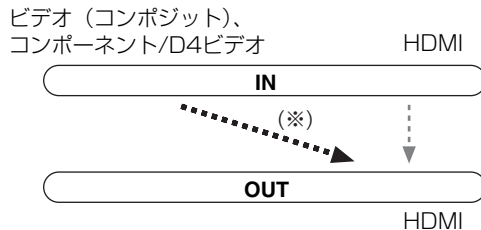
HYBRID STANDBY インジケーター

ご注意

- 別室（ゾーン）をオンにしている、または AUX（フロント）入力端子に接続しているMHL（Mobile High-definition Link）対応のモバイル機器を充電している場合、**HYBRID STANDBY** インジケーターは点灯しません。

1.入力/出力端子の割り当て

モニター映像出力

HDMI出力の出力設定を行います。ご使用になるテレビの解像度にあわせ、出力解像度を本機で変換する設定です。コンポジット映像入力端子、コンポーネント/D4映像入力端子への各映像入力信号は変換（※）されてHDMI出力端子から出力されます。

ご注意

- 本機が「**モニター出力設定**」、「**解像度**」設定の映像信号を処理する流れについては「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ P.105）。

■ **モニター出力設定**

▸ 主（メイン）：Main

テレビを**HDMI OUT**（アウト）**MAIN**端子に接続した場合に選びます。

▸ サブ（サブ）：Sub

テレビを**HDMI OUT SUB**端子に接続した場合に選びます。

▸ 両方（ボース）：Both

HDMI OUT MAIN、**HDMI OUT SUB**端子の両方に接続する場合に選びます。

映像信号は両方のHDMI出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。

本体のボタンで出力設定を変更する

1 **MONITOR**（モニター）**OUTボタンを押す**

現在の設定が表示部に表示されます。

```
Monitor Out
    : HDMI Main
```

2 **MONITOR OUTボタンをくり返し押して、選択する ：**

▸ HDMI Main、HDMI SubまたはBoth

■ **解像度**

▸ **スルー**：

入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。

▸ **自動**：

テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。

▸ **480p、720p、1080i、1080p**：

お好みの出力解像度を選択します。

▸ **1080p/24**：

1080p/24の解像度で出力する場合に選択します。

▸ **4K アップスケーリング**：

1080pの約4倍の高解像度で出力されます。接続したモニターの対応解像度により、3840 × 2160または4096 × 2160ピクセルで出力されます。

▸ **入力ソース**：

「**画質調整**」の「**解像度**」で設定した解像度で出力します（➔ P.75）。

HDMI OUT MAIN端子の出力解像度を指定することができます。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、本機の画像解像度を変換します。

ヒント

- **HDMI OUT MAIN**に出力しているとき、設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**（エンター）ボタンを押します（**NET**入力セレクタは除く）。

ご注意

- 「**1080p/24**」を選んだ場合、入力する映像によっては動きがカクカクしたり、垂直解像度が低下したりすることがあります。このような場合は、「**1080p/24**」以外を選んでください。
- 「**4K アップスケーリング**」を選んだ場合、お使いのテレビによっては映像信号が出力されない場合があります。
- 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合、「**解像度**」の設定は「**スルー**」に固定されます。
- 「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定している場合、「**解像度**」の設定は「**自動**」に固定されます。

HDMI入力

HDMI入力端子には、お買い上げ時の設定で「**BD/DVD**」、「**CBL/SAT**」などの入力切換が割り当てられています。たとえば、ブルーレイディスク/DVDプレーヤーを、お買い上げ時の設定どおりに本機の**HDMI IN**（イン）**1**端子に接続すると、入力切換で「**BD/DVD**」を選択するだけで、接続した機器の映像や音声を簡単に本機で再生することができます。お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	HDMI入力端子の割り当て
BD/DVD	HDMI1
CBL/SAT	HDMI2
STB/DVR	HDMI3
GAME1	HDMI4
GAME2	HDMI5
PC	HDMI6*1
AUX	フロント（固定）
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**HDMI IN 2**端子に接続したときは、「**BD/DVD**」の割り当てを「**HDMI2**」に変更してください。

■BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME1、GAME2、PC、TV/CD、PHONO

▸HDMI1、HDMI2、HDMI3、HDMI4、HDMI5、HDMI6、HDMI7：

映像機器を**HDMI IN 1**～**7**端子に接続した場合に選びます。

▸- - - - -：

コンポジット映像入力端子、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された各映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するときに選びます。また、コンポジット映像入力端子からの映像信号を変換する場合に、コンポーネント映像入力端子の設定も「- - - - -」にする必要があります。

*1 ご使用のパソコンを**PC IN**端子に接続し、**PC**入力切換ボタンを選ぶと、HDMI出力端子からパソコンの映像が出力されます。**HDMI IN**端子よりも**PC IN**端子からの入力を優先させる場合は、**PC**の設定を「- - - - -」にする必要があります。

HDMI INの各入力端子に割り当てできる入力は1つまでです。すでにHDMI1～HDMI7まで割り当てられているときは、他の入力に割り当てることはできません。
そのうちの使わない入力に「- - - - -」を設定してから、割り当ててください。

ご注意

- 映像機器がHDMI端子に接続されていない場合は（「HDMI入力」が割り当てられていても）、「**コンポーネント映像入力**」の設定で出力されます。
- **HDMI IN** を設定した入力には、自動的に同じ**HDMI IN**のデジタル音声入力が割り当てられます。デジタル音声入力を使用したい場合は、「**音声入力**」で設定を変更してください（➔ P.76）。
- 「HDMIコントロール（RIHD）」の設定が「**オン**」のときは、**HDMI IN**端子に接続された機器を、**TV/CD**入力に割り当てないでください（➔ P.78）。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。
- コンポジット映像入力端子、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された各映像信号をHDMIに変換する場合の映像信号の流れや、変換に関する詳細は「映像接続のしくみ」をご覧ください（➔ P.105）。
- 「HDMIスルー」で選択されている入力に「- - - - -」が割り当てられている場合、「HDMIスルー」の設定は自動的に「**オフ**」になります（➔ P.79）。
- 入力に「AUX」を選んだときは、「**フロント**」に固定となります。

コンポーネント映像入力

コンポーネント（色差）映像入力端子には、お買い上げ時の設定で、「BD/DVD」などの入力切換が割り当てられています。お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換を選択するだけで、接続した機器の映像を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	映像入力端子の割り当て
BD/DVD	RCA1（色差入力）
CBL/SAT	RCA2（色差入力）
STB/DVR	- - - - -
GAME1	- - - - -
GAME2	- - - - -
PC	- - - - -
AUX	- - - - -
TV/CD	- - - - -
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえばブルーレイディスク/DVDプレーヤーを本機の**COMPONENT VIDEO IN 2**端子に接続したときは、「BD/DVD」の割り当てを「RCA2（色差入力）」に変更してください。

■BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME1、GAME2、PC、AUX、TV/CD、PHONO

▸RCA1（色差入力）、RCA2（色差入力）、D4 入力1、D4 入力2：

映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 1/2** 端子または**D4 VIDEO IN 1/2** 端子に接続した場合に選びます。

▸- - - - -：

コンポジット映像入力端子に入力された各映像信号を、変換してHDMI出力端子から出力するときに選びます。
コンポジット映像入力端子接続のみお使いの場合は、「- - - - -」に設定してください。

デジタル音声入力

デジタル音声入力端子には、お買い上げ時の設定で「BD/DVD」などの入力切換が割り当てられています。
お買い上げ時の設定どおりに接続を行うと、入力切換を選択するだけで、接続した機器の音声を簡単に本機で再生することができます。
お買い上げ時の設定は以下のとおりです。

入力切換	デジタル入力端子の割り当て
BD/DVD	COAXIAL1（同軸入力）
CBL/SAT	COAXIAL2（同軸入力）
STB/DVR	COAXIAL3（同軸入力）
GAME1	OPTICAL1（光入力）
GAME2	- - - - -
PC	- - - - -
AUX	フロント （固定）
TV/CD	OPTICAL2（光入力）
PHONO	- - - - -

お買い上げ時の設定と異なる接続をする場合は、この設定項目で設定を変更する必要があります。たとえば、**OPTICAL IN1** 端子に、CDプレーヤーなどを接続したときは、「TV/CD」の割り当てを「OPTICAL1（光入力）」に変更してください。

■ BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME1、GAME2、PC、TV/CD、PHONO

▶ COAXIAL1(同軸入力)、COAXIAL2(同軸入力)、COAXIAL3(同軸入力)、OPTICAL1(光入力)、OPTICAL2(光入力)：

機器を接続しているデジタル音声入力端子に対応するデジタル音声入力を選びます。

▶ - - - - -：

機器が、アナログ音声入力に接続されている場合に選びます。

ご注意

- HDMI端子を割り当てた入力（➔ P.61）には、本項目の設定も自動的にHDMI端子が割り当てられますが、お好みで他のデジタル音声入力端子も割り当てることができます。（➔ P.76）
- デジタル出力（光および同軸）から出力されるPCM信号（ステレオ/モノラル）のサンプリングレートは、32/44.1/48/88.2/96kHz/16、20、24ビットです。
- 入力に「AUX」を選んだときは、「フロント」に固定となります。

2.スピーカー設定

この中の多くのメニューは、自動スピーカー設定（➔ P.39）で自動設定されています。

自動スピーカー設定のあとに、使用するスピーカーを変更した場合や、手動で設定したい場合、自動スピーカー設定で設定された内容を確認するときに使用します。

ご注意

- 以下の場合は設定できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - 「テレビオーディオ出力」設定を「オン」にしている（➔ P.79）。
  - 「HDMIコントロール(RIHD)」を「オン」にして（➔ P.78）、テレビのスピーカーで聴いている。

スピーカーセッティング

設定を変更した場合は、再度自動スピーカー設定を行ってください。（➔ P.39）

接続したスピーカーのインピーダンス（Ω）を設定します。
接続したスピーカーの中に、1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合は、ここで設定してください。
ご使用になるスピーカーの背面や、取扱説明書で、インピーダンス（Ω）をご確認ください。
フロントスピーカーをバイアンプ接続している場合は、「**スピーカータイプ(フロント)**」を「**バイアンプ**」にしてください。
接続については、「バイアンプ接続をする」（➔ P.17）を参照ください。
チャンネルデバイダー対応スピーカーの接続を行う場合は、「**スピーカータイプ(フロント)**」設定を変更してから接続をしてださい。接続については、「チャンネルデバイダー対応スピーカーを接続する」（➔ P.18）を参照ください。

ご注意

- バイアンプ接続では最大5.1 ch 再生になります。
- 設定を変更するときは、必ず本機の音量を最小にしてください。

■ インピーダンス

▶ **4オーム**：

接続したスピーカーの中に、1台でも4Ω以上6Ω未満のスピーカーがある場合に選択します。

▶ **6オーム**：

接続したスピーカーが、すべて6Ω以上の場合に選択します。

■ スピーカータイプ(フロント)

▶ **通常**：

フロントスピーカーを、通常の方法で接続している場合に選びます。

▶ **バイアンプ**：

フロントスピーカーを、バイアンプ接続している場合に選びます。

▶ **Digital Crossover**

チャンネルデバイダー対応スピーカーを接続する場合に選びます。

ヒント

- 「**スピーカータイプ(フロント)**」で「Digital Crossover」を選択した場合、設定を終了する前に、確認画面が表示されます。「**次へ (2-7. Digital Processing Crossover Network)**」を選択してください。「Digital Processing Crossover Network」画面が表示されます（➔ P.67）。続けて設定を行ってください。

■ 外部アンプを接続するチャンネル

▶ **無し**

▶ **サラウンドバック、フロントハイ、フロントワイド**

本機で9.1ch再生する場合に、**SB/FH/FW EXT AMP**端子から出力するチャンネルを設定します。スピーカー詳細設定で「**無し**」に設定したスピーカーを選択した場合、自動的に「**80Hz(THX)**」に切り換わります。

ご注意

- 「**スピーカータイプ(フロント)**」が「**バイアンプ**」または「Digital Crossover」に設定されている場合、「**外部アンプを接続するチャンネル**」設定 は選べません。

スピーカー詳細設定

自動スピーカー設定（→ P.39）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーの有り/無しや、クロスオーバー周波数などを設定します。
クロスオーバー周波数は、各チャンネルの低音域を、何Hz（ヘルツ）からサブウーファーで出力するかを設定しておくことができます。
サブウーファーを接続していないときには、フロントスピーカーが自動的に「**フルレンジ**」に設定され、他のチャンネルの低音域が、フロントスピーカーから出力されます。
お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。
THX認証のスピーカーシステムを使用するときは、自動スピーカー設定を行っても、この設定で「80Hz(THX)」に設定し直してください。

■ サブウーファー

- 有り
- 無し

■ フロント

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、「**フロント**」設定は「**フルレンジ**」に固定されます。

■ センター*1、サラウンド*1

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz
- 無し

■ フロントワイド*1*2*3*4、フロントハイ*1*2*3*4

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz
- 無し

■ サラウンドバック*1*2*3*4

- フルレンジ
- 40Hz～80Hz(THX)～100Hz、120Hz、150Hz、200Hz
- 無し

ご注意

*1 「**フルレンジ**」は、「**フロント**」設定で「**フルレンジ**」を選んでいるときしか選ぶことができません。
*2 「**サラウンド**」設定を「**無し**」に設定しているときは、この設定を選ぶことはできません。
*3 「**スピーカータイプ(フロント)**」設定が「**バイアンプ**」または「Digital Crossover（デジタル クロスオーバー）」に設定されている場合（→ P.63）は、この設定を選ぶことはできません。
*4 「**外部アンプを接続するチャンネル**」設定が有効になっている場合、「**無し**」を選べません。

■ サラウンドバックCh（チャンネル）

- 1ch：
  接続したサラウンドバックスピーカーが1つの場合に選びます。（**SURR BACK L**（サラウンド バック）端子に接続してください。）
- 2ch：
  サラウンドバックスピーカーを2台（左右）接続している場合に選びます。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません。

■ LFEローパスフィルタ（LFEチャンネルの低域フィルター）

- 80Hz、90Hz、100Hz、120Hz
- オフ：
  ローパスフィルターを適用しません。

LFE（低域効果音）信号のローパスフィルターを設定すると、その設定値よりも低い周波数成分だけを通過させ、不要なノイズを削除することができます。ローパスフィルターは、LFEチャンネルを使っているソースにしか適用されません。

ご注意

- THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**80Hz**」を選んでください。

■ サブウーファー位相

- 0°
- 180°：
  サブウーファーの位相を変更します。

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」にしている場合、この設定を選ぶことはできません。

■ ダブルバス

自動スピーカー設定を行っても、自動で設定されません（→ P.39）。

- オン
- オフ(THX)

ダブルバス機能を利用すると、左右フロントチャンネル、センターチャンネルの低音がサブウーファーに送られ、低音の出力が強調されます。
お買い上げ時の設定：「- - - - -」

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定が「**無し**」、または「**フロント**」設定が「**フルレンジ**」以外に設定されている場合、この設定は「- - - - -」に固定されます。

- 初めて「**サブウーファー**」設定を「**有り**」、「**フロント**」設定を「**フルレンジ**」に設定した場合、この設定は「**オン**」に切り換わります。
- THXの認証を受けたスピーカーシステムをご使用の場合は、「**オフ (THX)**」を選んでください。

スピーカー距離

自動スピーカー設定（➔ P.39）を行った場合は、自動で設定されています。

視聴位置からスピーカーまでの距離を設定します。距離を設定することで、それぞれのスピーカーから視聴位置までの、音の届く時間を一定にし、ホームシアターをより快適にお楽しみいただけます。

■ 単位

▸ **メートル**：
距離をメートルで設定できます。指定可能な範囲：0.15 メートル単位で、**0.15m～9.00m**

▸ **フィート**：
距離をフィートで設定できます。指定可能な範囲：0.5 フィート単位で、**0.5ft～30.0ft**

■ フロント左、フロントワイド左、フロントハイ左、センター、フロントハイ右、フロントワイド右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左、サブウーファー

▸ 各スピーカーと視聴位置の距離を指定します。

ご注意
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ P.64）は選ぶことができません。

スピーカー音量レベル

自動スピーカー設定（➔ P.39）を行った場合は、自動で設定されています。

各スピーカーからのテスト音の音量が、同じに聴こえるように、それぞれのスピーカーの音量レベルを設定します。スタンバイ状態にしても記憶しています。

■ フロント左、フロントワイド左、フロントハイ左、センター[*1]、フロントハイ右、フロントワイド右、フロント右、サラウンド右、サラウンドバック右、サラウンドバック左、サラウンド左

▸ 0.5dB単位で**－12.0dB～0.0dB～+12.0dB**

■ サブウーファー[*1]

▸ 0.5dB単位で**－15.0dB～0.0dB～+12.0dB**

ご注意
- ミューティング中は、設定できません。
- スピーカーの設定で「**無し**」に設定したスピーカー（➔ P.64）は選ぶことができません。
- 本機はTHX対応機種ですので、テスト音は標準レベルの0dB（絶対値の場合は82）で出力されます。
通常お聴きになっている音量が小さい場合は、突然大きな音になりますのでご注意ください。

*1 センタースピーカーとサブウーファーについては、Quick Setup(クイック セットアップ)メニューで設定した音量がこの設定で保存されます（➔ P.57）。

イコライザ設定

接続したスピーカーごとに、出力する音域の音量を調整できます。各スピーカーの音量は「**スピーカー音量レベル**」でも調整できます。
ここでは、それぞれのスピーカーの音域別で音量を調整します。

■ ユーザー設定によるイコライザ

▸ **オン**：
イコライザはスピーカーごとに手動で調節できます。以下の手順を実行してください。

1. **▼ボタンを押して「設定チャンネル」を選んだあと、◄/► ボタンでスピーカーを選ぶ**
2. **▲/▼ボタンを押して周波数を選んだあと、◄/► ボタンを押してその周波数の音量を調節する**
各周波数の音量は、－6dB～0dB～+6dBの範囲で、1dB単位で調節できます。

ヒント
- 「**63Hz**」「**160Hz**」「**400Hz**」「**1000Hz**」「**2500Hz**」「**6300Hz**」「**16000Hz**」のいずれかを選ぶことができます。サブウーファーについては、「**25Hz**」「**40Hz**」「**63Hz**」「**100Hz**」「**160Hz**」のいずれかを選びます。
- 低域の周波数（63Hz(ヘルツ)など）で低音の調節を、高域の周波数（16000Hzなど）で高音の調節を行います。

3. **▲ボタンを押して「設定チャンネル」を選んだあと、◄/► ボタンを押して別のスピーカーを選ぶ**
各スピーカーに対して手順1と2を行います。
スピーカーの設定（➔ P.64）で「**無し**」に設定したスピーカーは、設定できません。

▸ **オフ**：
すべての音域で同じ音場設定になります。

ご注意
- Direct(ダイレクト)とPure Audio(ピュア オーディオ)のリスニングモードのときは、効果がありません。
- 入力音源またはリスニングモードの設定によっては、望ましい効果を得ることができないことがあります。
- 「**Audyssey**(オーディシー)」が有効に設定されている場合は、「**Audyssey**」の設定が優先されます。（➔ P.71）

THXオーディオ設定

■サラウンドバックスピーカー間距離

- <0.3m (<1ft)
- 0.3m - 1.2m (1ft - 4ft)
- >1.2m (>4ft)

サラウンドバックスピーカーの間隔を指定できます。

ご注意

- 以下の場合は設定できません：
  - 「**サラウンドバックCh**」を「**1ch**」に設定している（➔ P.64）。
  - 「**サラウンドバック**」を「**無し**」に設定している（➔ P.64）。

■THX Ultra2/Select2 Subwoofer

- **無し**
- **有り**

THXの認証を受けたサブウーファーを接続している場合、「**有り**」に設定してください。

ご注意

- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません（➔ P.64）。

■BGC

- **オフ**
- **オン**

BGC（境界利得補正）を使用すると、窓際など部屋の境界部で視聴者が観賞している場合、低い周波数が強調されるのを補正することができます。

ご注意

- この設定は、「**THX Ultra2/Select2 Subwoofer**」を「**有り**」に設定しているときだけ設定できます。
- 「**サブウーファー**」設定を「**無し**」に設定している場合は、この設定を選ぶことはできません（➔ P.64）。

■Loudness Plus

- **オフ**
- **オン**

「**Loudness Plus**」設定を「**オン**」にすると、低音量で、音声表現の微妙なニュアンスを楽しめるようになります。THXリスニングモードを選択しているときに利用できます。

■THX設定優先

- **有り**
- **無し**

「**有り**」に設定した場合、THXリスニングモードにAudyssey Dynamic EQ®/Audyssey Dynamic Volume®/Dolby Volumeが働きません。

ご注意

- 「**Loudness Plus**」を「**オン**」に設定している場合、この設定は「**有り**」に固定されます。

■メタデータ転送

- **オン**:
  HDMI接続している機器にメタデータファイルを送信し、コンテンツ再生の最適化設定を自動的におこないます。
- **オフ**:
  メタデータファイルを送信しません。

HDMI接続では、圧縮されていないデジタル映像信号およびデジタル音声信号が伝送されます。これらの信号以外にコンテンツについての付加的な情報として送信されるものを「メタデータ」と呼びます。

THX Media Director™などに対応しているブルーレイディスクプレーヤー、セットトップボックスや映像機器などのホーム・シアター・コンポーネントがある場合は、メタデータ転送機能の使用を推奨します。この設定を有効にすることで接続しているホーム・シアター機器にメタデータを転送していることが保障されます。

THX Loudness Plus

THX Loudness Plusは、THX Ultra2 Plus™およびTHX Select2 Plus™認定のレシーバーに搭載された、新しいボリュームコントロール技術です。
THX Loudness Plusを使用すると、ホームシアターの視聴者はどんなボリュームレベルでも、豊かで繊細なサラウンド効果を体験できます。
ボリュームをリファレンスレベル（基準レベル）よりも下にすると、一定レベルのサウンドエレメント（音質要素）が失われたり、視聴者によって違う感じに聴こえたりします。
THX Loudness Plusはボリュームを下げたときに発生する音質上・空間上の変化を周囲のサラウンドチャンネルレベルと周波数レスポンスをインテリジェントに調整することで補います。
このことにより、ユーザーはボリューム設定に関係なくサウンドトラックのインパクトを忠実に体験することができます。THX Loudness Plusは、どのTHXリスニングモードで聴いているときでも自動的に設定されます。
新しく開発されたTHX Cinema、THX Music、THX Gamesのモードは、コンテンツのタイプに応じて、THX Loudness Plusの設定が適切に適用されるように調整されています。

Digital Processing Crossover Network

デジタル　プロセッシング　クロスオーバー　ネットワーク

Digital Crossoverは、音楽信号を各スピーカー・ユニット毎に最適な帯域で分割してシステムを個々にドライブさせる機能です。ユニットの性能を最大限に引き出し、きめ細かい立体感のある音場を再現します。タイムアライメント補正機能を搭載していますので、ツイーター／ウーファーユニットの前後の位置を、デジタル信号処理の段階で、音声信号を時間的に遅延させることにより調整できます。
チャンネルデバイダー対応スピーカー用の機能ですが、バイアンプスピーカーでもお楽しみいただけます。

ヒント

- 再生している音を聞きながら設定することができます。
- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すと、テストノイズに切り換わります。**MODE/D**(Blue) ボタンを再度押すか、カーソルを移動するとテストノイズが停止し、再生している音声に切り換わります。

ご注意

- この設定は、「**スピーカータイプ（フロント）**」で「**Digital Crossover**」が選ばれている場合のみ、設定できます（→ P.63）。

■ クロスオーバー

- 250Hz、320Hz、400Hz、500Hz、630Hz、800Hz、1000Hz、1250Hz、1600Hz、2000Hz、2500Hz、3200Hz、4000Hz、5000Hz

出力帯域（テスト用）

- 高域＋低域、高、弱

入力信号の出力先を選択します。

ヒント

- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すと指定した周波数を中心として、帯域制限されたテストノイズが再生されます。
- 「**高**」と「**弱**」で音量差がない値が推奨値となります。

ご注意

- テストノイズを使用しない場合は、お手持ちのスピーカーの取扱説明書を参考に設定してください。

「**クロスオーバー**」で設定した周波数で、ウーファー側のLPF（ローパスフィルター）とツイーター側のHPF（ハイパスフィルター）のカットオフ周波数がそれぞれ設定されます。

■ オーバーラップ

- **無し**
- **有り**

「**クロスオーバー**」で設定した周波数付近の帯域をツイーター、ウーファーの両方から出力させる設定です。LPF（ローパスフィルター）のカットオフ周波数は、「**クロスオーバー**」で設定した値の1/3オクターブ上、HPF（ハイパスフィルター）のカットオフ周波数は「**クロスオーバー**」で設定した値の1/3オクターブ下に設定されます。
（例）「**クロスオーバー**」が「**3200Hz**」に設定されている場合、ウーファー側のLPFのカットオフ周波数は「**4000Hz**」に、ツイーター側のHPFのカットオフ周波数は「**2500Hz**」に、それぞれ設定されます。

ヒント

- Digital Processing Crossover Networkの処理をかけた音声が再生されます。
- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すことで、再生している音声と、テストノイズを切り換えることができます。
- バイアンプスピーカーを使用する場合、スピーカーに内蔵されているネットワークのクロスオーバー周波数と、本機で設定するクロスオーバーの値がずれていると、周波数特性に谷が生じる可能性がありますので、この設定を「**有り**」に設定することを推奨します。

■ 高域出力のレベル、低域出力のレベル

- 0.5dB単位で、-6.0dB～ 0.0dB ～ +6.0dB

この設定では、ツイーター、ウーファーの音量を調整します。

ヒント

- Digital Processing Crossover Networkの処理をかけた音声が再生されます。
- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すことで、再生している音声と、テストノイズを切り換えることができます。

■ 高域出力の位相、低域出力の位相

- 0°
- 180°

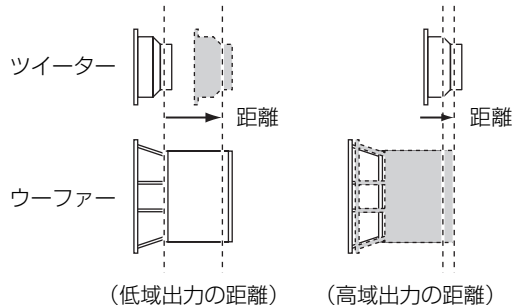
ツイーター、ウーファーの位相を変更します。

ヒント

- Digital Processing Crossover Networkの処理をかけた音声が再生されます。
- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すことで、再生している音声と、テストノイズを切り換えることができます。

■ 高域出力の距離、低域出力の距離

▶2.5cm（1inch）単位で、0.0cm(0inch) ～ 30.0cm(12inch)

ウーファーとツイーターのユニットの前後位置を調整します。「**高域出力の距離**」を設定すると、ツイーターに対して、ウーファーが仮想的に後方に移動します。「**低域出力の距離**」を設定すると、ウーファーに対して、ツイーターが仮想的に後方に移動します。

（低域出力の距離）　（高域出力の距離）

ヒント

- Digital Processing Crossover Networkの処理をかけた音声が再生されます。
- **MODE/D**(Blue) ボタンを押すことで、再生している音声と、テストノイズを切り換えることができます。

3.音の設定・調整

リスニングモードや接続した機器によって、音響効果をお好みに調整しておくことができます。

多重音声/モノラル

■ 多重音声

入力チャンネル

▶主
▶副
▶主/副

多重音声や多重言語の放送などで、音声や言語を選択します。**DISPLAY** ボタンを押して、表示部に音声の数が「1+1」と表示されたら、音声多重放送です。

■ モノラル

入力チャンネル

▶左＋右
▶左
▶右

2チャンネルで収録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、Monoリスニングモードで再生するときに使用する、信号チャンネルを設定します。

出力スピーカー

▶センター：
センタースピーカーからモノラル音声が出力されます。

▶左 / 右：
左右のフロントスピーカーからモノラル音声が出力されます。

この設定では、Monoリスニングモード選択時にどのスピーカーからモノラル音声を出力するか設定します。

ご注意

- 「**センター**」設定を「**無し**」に設定している場合は（➔ P.64）、この設定を選択できません。

Dolby

■ PL IIx Music（2ch入力）

2チャンネルで記録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号やアナログ/PCM信号を、「PLIIx Music」リスニングモードで再生するときの設定をします。
サラウンドバックスピーカーを接続していない場合、「**PLIIx**」は「**PLII**」と表示されます。

Panorama

▶オン
▶オフ

音場を横方向に広げることができます。

Dimension

▶－3～0～+3

音場を前方または後方へ移動させることができます。
「**0**」を中心に、「**－1**」、「**－2**」、「**－3**」にすると前方へ、「**+1**」、「**+2**」、「**+3**」にすると後方へ移動します。広がり感がありすぎたり、サラウンドが強すぎる場合は、音場を前方に調整すると、バランスが良くなります。逆にモノラル感や音場が狭い感じの場合は、音場を後方に調整すると、バランスが良くなります。

Center Width

▶0～3～7

センタースピーカーの音の広がり幅を調整することができます。Dolby Pro Logic IIx Musicでは、センタースピーカーがある場合は、センターチャンネルの信号をセンタースピーカーからのみ出力します。（センタースピーカーがない場合は、左右フロントスピーカーに等分に振り分け、幻想のセンター音像を作ります。）この設定では、センタースピーカーと左右フロントスピーカーの配合を調整し、センターの音の重量感を調整することができます。

■ PL IIz Height Gain

- **弱**
- **中**
- **高**

Dolby Pro Logic IIz Heightリスニングモード使用時の、フロントハイスピーカーからの出力レベルを調整することができます。「**弱**」「**中**」「**高**」の３つの設定値があり、順にフロントハイスピーカーからの出力が強調されます。

ご注意

- 「**フロントハイ**」設定を「**無し**」に設定している場合、この設定を選ぶことはできません（→ P.64）。

■ Dolby EX

- **自動**：
  Dolby EX識別信号があるときは、Dolbyのリスニングモードは Dolby Digital EX、THXのリスニングモードはTHX Surround EXを選びます。
- **手動**：
  使用可能な任意のリスニングモードを選ぶことができます。

サラウンドバックスピーカーを接続していないときは、設定できません。この設定は、Dolby DigitalとDolby Digital Plus、Dolby TrueHDにのみ効果があります。

ご注意

- 「**サラウンドバック**」設定を「**無し**」に設定している場合は（→ P.64）、この設定を選ぶことはできません。
- フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーが有効な場合、この設定は「**手動**」に固定されます。

■ TrueHD Loudness Management

- **オフ**
- **オン**

「**TrueHD Loudness Management**」を「**オン**」に設定すると、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能を有効にします。

ご注意

- 「**TrueHD Loudness Management**」を「**オフ**」に設定した場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は「**オフ**」に固定され、ダイアログノーマライゼーションは表示されません。

■ Dolby Volume

- **オフ**
- **オン**

Dolby Volumeはオーディオの周波数特性および音量調整における問題を改善するための優れた音量調整機能です。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定を「**オン**」にすると、「**Dynamic EQ**」と「**Dynamic Volume**」は「**オフ**」になります。
- Dolby VolumeをTHXリスニングモードで使用する場合、「**Loudness Plus**」設定を「**オフ**」にし、「**THX設定優先**」設定を「**無し**」に設定してください（→ P.66）。
- 「**Dolby Volume**」を「**オン**」に設定すると、レイトナイト機能は使えません。

■ Volume Leveler

- **オフ**
- **弱**：
  低圧縮モードが適用されます。
- **中**：
  中圧縮モードが適用されます。
- **高**：
  高圧縮モードが適用されます。

Volume Levelerはオーディオ入力信号の圧縮レベルを調整できます。

Volume Levelerは異なるチャンネルや入力信号など、すべての知覚音量を維持します。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定が「**オフ**」に設定されている場合、この設定は選べません。

■ Half Mode

- **オフ**
- **オン**

Dolby Volume のHalf Mode オプションをオン/オフします。

オフの場合、Dolby Volumeは入力ゲインが基準レベルを超える場合に低音および高音の減衰を適用します。これにより、高いレベルの高音および低音であっても、聴感上フラットなリスニング体験を可能にします。ただし視聴者によっては、高い入力レベルがあるときに、より低音および高音のパフォーマンスを好む場合があります。

ご注意

- 「**Dolby Volume**」設定が「**オフ**」に設定されている場合、この設定は選べません。
- 「**Half Mode**」が「**オン**」に設定されている場合、周波数の高低差の認識が拡張されるため、基準レベルを超える入力があっても低音および高音の減衰は適用されません。

ダイアログノーマライゼーション機能について

ダイアログノーマライゼーション（DialogNorm）は、Dolby Digitalの機能のひとつで、Dolby Digital、Dolby Digital PlusまたはDolby TrueHDのコンテンツ間における平均音量レベルを一定に保つために用いられ、ユーザーは、ソフトごとに音量を調節する必要がありません。Dolby Digital 、Dolby Digital PlusまたはDolby TrueHDで収録されたソフトを再生すると、本機の表示部に「**DialogNorm: X dB**」（Xは数値）と表示される場合があります。

この表示は、各ソフトの音量レベルがTHXの基準レベルとどのような関係にあるのかを示しています。収録されたソフトを劇場レベルで再生したい場合は、音量の調整を行います。例えば、表示部に「**DialogNorm: + 4 dB**」と表示された場合、再生中のソフトがTHX基準レベルのプラス4 dB で記録されていることを意味します。THX基準レベルで再生したい場合は、音量を4dB下げてください。ただし、再生音量が事前に設定された劇場とは違い、本機ではお好みの音量設定に調節することができます。

DTS

■ Neo:X Music

Center Image

▶0～2～5

DTS Neo:X Musicは、2チャンネルで収録されたソースを、9チャンネルで再生するリスニングモードで、左右フロントチャンネルからいくらか差し引いた音声を使って、センターチャンネルの音声を作り出します。

フロント音場の広がり感を調整することができます。

「**0**」に設定すると、フロント音場が中央寄りになり、「**5**」に設定するとフロント音場が左右に広がります。

Audyssey DSX®

■ Soundstage

▶－3dB～基準値～+3dB

Audyssey DSXリスニングモードを使用したときの、音場を調整します。

ご注意

- 以下の項目すべてに該当する場合、このリスニングモードを選択できます：
  - センタースピーカーを接続している。
  - フロントハイスピーカーまたはフロントワイドスピーカーを接続している。

Theater-Dimensional

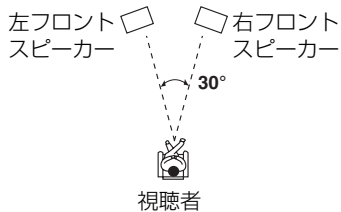
■ リスニングアングル

▶**広い**：

リスニング角度が30°より広い場合に選びます。

▶**狭い**：

リスニング角度が30°より狭い場合に選びます。

Theater-Dimensionalリスニングモードでの最適な視聴角度を設定します。視聴位置からの左右スピーカーの角度を設定します。

ヒント

- スピーカーの設置角度は20°（狭い）/40°（広い）を推奨します。

LFEレベル

■ Dolby Digital*1、DTS*2、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD*3

▶－∞dB、－20dB、－10dB、0dB

各入力信号の低域効果（LFE）レベルを設定します。

Dolby Digital、DTS、AAC、マルチチャンネルPCM、Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DSD信号の設定ができます。

低域効果音が強調されすぎる場合は、－20dBや－∞dBを選んでください。

ご注意

*1 Dolby DigitalとDolby Digital PlusソースのLFEチャンネル音量を設定します。

*2 DTSとDTS-HD High ResolutionソースのLFEチャンネル音量を設定します。

*3 DSD（Super Audio CD）ソースのLFEチャンネル音量を設定します。

サウンドプログラム編集

■ サウンドプログラム

▶**ステレオ信号 1、ステレオ信号 2、ステレオ信号 3、マルチチャンネル信号 1、マルチチャンネル信号 2、マルチチャンネル信号 3**

同じソースで異なるジャンルのコンテンツを再生する場合、または、異なるソースで同じジャンルのコンテンツを再生する場合に、そのコンテンツに適した設定の組み合わせをあらかじめ「**サウンドプログラム**」に登録しておき、それを呼び出すことで一括して設定を変更することができます。

「**サウンドプログラム編集**」では、設定の組み合わせの編集・登録を行います。

ヒント

- 登録した設定を選択するには、「**サウンドプログラム**」設定をご覧ください。（➔ **P.56**）

■ リスニングモード

サウンドプログラム選択時に使用するリスニングモードを、初期設定しておくことができます。
「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。
「**ストレートデコード**」はDolbyやDTSなどのストレートデコードのリスニングモードを選びます。

■ サブウーファー

▸ **無し**、**有り**

サウンドプログラムでサブウーファーを使用するかどうかを設定します。

■ Music Optimizer（ミュージック オプティマイザー）*1

▸ **オフ**、**オン**

詳細については「Music Optimizer」をご覧ください。
(➔ P.58)

■ イコライザ*1

▸ **オフ**

▸ **手動**：

手動で調整した「**イコライザ設定**」を適用します。
(➔ P.65)

■ Audyssey（オーディシー）*1

▸ **オフ**、Movie、Music

詳細については「Audyssey」をご覧ください。
(➔ P.71)

■ Dynamic EQ（ダイナミック）*1*2

▸ **オフ**、**オン**

詳細については「Dynamicダイナミック EQ」をご覧ください。(➔ P.71)

■ Dynamic Volume（ダイナミック ボリューム）*1*2

▸ **オフ**、**ライト**、**ミディアム**、**ヘビー**

詳細については「Dynamic Volume」をご覧ください。
(➔ P.72)

■ Dolby Volume（ボリューム）*1

▸ **オフ**、**オン**

詳細については「Dolby Volume」をご覧ください。
(➔ P.69)

ご注意

- 入力信号が「**サウンドプログラム**」設定のソースと 一致する場合のみ、「**リスニングモード**」設定は有効です。
- 「Music Optimizer」は、「**ステレオ信号 1**」、「**ステレオ信号 2**」または「**ステレオ信号 3**」を選択している場合のみ利用できます。
- 自動スピーカー設定を「**Audyssey簡単測定**」で測定した場合、「Audyssey」は選べません。
- スピーカー詳細設定で「**サブウーファー**」設定を「**無し**」にしている場合、この設定は使えません。

*1 リスニングモードでPure Audio またはDirectを選択している場合、この設定は使えません。
*2 この設定を有効にするには、自動スピーカー設定を行う必要があります。

4.入力ソースの設定

本機に接続した複数の機器間で、音量差の調整、あるいは映像が音声より遅れる場合の補正ができます。
項目は、入力セレクタごとに個別に設定できます。

準備
調整したい入力を選び、接続機器を再生してください。

Audyssey®（オーディシー）

自動スピーカー設定を行った後に設定してください
(➔ P.39)。
- 以下の場合、この機能は使用できません：
  - ヘッドホンを接続している。
  - Pure（ピュア） AudioまたはDirect（ダイレクト）リスニングモードを選択している。

■ Audyssey

▸ **オフ**

▸ Movie（ムービー）：

映画鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

▸ Music：

音楽鑑賞に適しています。
Audyssey表示が点灯します。

ご注意

- 自動スピーカーを「**Audyssey簡単測定**」で測定した場合、「Audyssey」は選べません。
- DSDソースにはこの機能は働きません。

■ Dynamic EQ（ダイナミック）

▸ **オフ**

▸ **オン**：

Audyssey Dynamic EQ®機能が適用されます。
Dynamic EQ表示が点灯します。

小音量再生のときでも充分な音声を楽しむことができます。部屋の特性やソースの音量、人間の聴覚特性などを考慮しながら、周波数特性の補正を行います。

■ Reference Level

- 0dB：
  映画鑑賞に適しています。
- 5dB：
  クラシック音楽など、とても広いダイナミックレンジを持つソースに適しています。
- 10dB：
  ジャズや様々な音楽など、広いダイナミックレンジを持つコンテンツに適しています。また、通常基準レベルより10dB低くミックスされた、テレビ番組にも適しています。
- 15dB：
  ポップス/ロック音楽など、高いリスニングレベルでミックスされ、限られたダイナミックレンジを持つソースに適しています。

映画は、音響の影響を考慮して調整された環境で、基準レベルでミキシングされます。

ホームシアターで同じ基準レベルで楽しむためには、スピーカーの音量レベル（Level Cal設定値）を－30dB FSの帯域制限（500Hz～2000Hz）されたピンクノイズで、75dBの音圧が視聴位置で聴こえるように調整する必要があります。

Audyssey MultEQ® XT32は、音量が70のときに基準レベルで再生されるように、自動的にスピーカーレベルを調整します。

Audyssey Dynamic EQは、映画の標準ミキシングレベルを基準にしていますので、音量を70よりも下げたときでもオリジナルの周波数特性と、サラウンド感が得られるように、自動的に調整することができます。

しかし、音楽またはフィルム以外のソースの場合は、映画の基準レベルが適切というわけではありません。

Reference Levelは映画の基準レベルが使われていないソースにも対応できるように、3種類のオフセットモードを用意しています。

ご注意

- 「**Dynamic EQ**」設定を「**オフ**」に設定している場合は、この設定は選べません。

■ Dynamic Volume

- **オフ**
- **ライト**：
  低圧縮モードが適用されます。
- **ミディアム**：
  標準圧縮モードが適用されます。
- **ヘビー**：
  高圧縮モードが適用されます。この設定がボリュームに一番大きな影響を与えます。爆発シーンなど音量が大きいパートでは音量を下げ、静かなパートでは聴き取りやすいように音量を上げます。

ヒント

- Dynamic Volumeを有効に設定すると「**Dynamic EQ**」は「**オン**」に設定され**Dynamic Vol**表示が点灯します。

ご注意

- THXリスニングモードの使用中にDynamic EQまたはDynamic Volumeを使いたい場合は、「**Loudness Plus**」設定を「**オフ**」に、「**THX設定優先**」設定を「**無し**」に設定します（➔ P.66）。
- 「**Dynamic EQ**」を「**オフ**」に設定すると「**Dynamic Volume**」も連動して「**オフ**」になります。

Audyssey Dynamic EQ®について

Audyssey Dynamic EQは、人間の聴覚や部屋の音響特性を考慮し、音量レベルを下げた際に発生する音質の低下を防ぐ技術です。

Dynamic EQは、すべての音量変化に応じて自動的に最適な周波数特性とサラウンドレベルに補正します。その結果、どのように音量レベルを変更しても、常に最適な低域特性や音質バランス、サラウンド効果を維持することができます。正しい補正を行うために、入力されるソースの情報と、リスニングルームに出力される音圧レベル情報とを組み合わせています。

Audyssey Dynamic Volume®について

Audyssey Dynamic Volumeは、テレビ番組やコマーシャル、映画などのコンテンツにおける静かな音のシーンと大きな音のシーンの間における、音量レベルの違いによって発生する問題を解決する技術です。

Dynamic Volumeは、入力されるソースを常にモニターし、リスナーが設定した好みの音量レベルに常に自動的に調整することで、リスナーを音量調整の煩わしさから解放します。再生中のソースの中に含まれる特徴を正確にモニターし、音量の変化が急激であっても、緩やかな変化であってもソースの特徴に忠実に最適な音量値（リスナー設定値）に自動調整を行います。また、Dynamic Volumeは単独でも有効に機能しますが、Audyssey Dynamic EQを取り込むことにより、音量レベルの調整時やテレビチャンネルの切り換え時、ステレオソースからサラウンドソースなどの切り換え時でも低域特性や音質バランス、サラウンド効果、台詞の明瞭さを維持しています。

インテリボリューム（機器間の音量差調整）

■インテリボリューム

▸1 dB単位で、－12dB～0dB～+12dB

本機に複数の機器を接続している場合、本機のボリューム位置が同じでも、機器によって再生するときの音量に差が出ることがあります。◄/► ボタンで調整してください。

他の機器と比べて、音量が大きい場合は◄ボタン、小さい場合は►ボタンを押して調整します。

ご注意

- インテリボリューム機能は、ゾーン2/3には効果がありません。

A/Vシンク（映像遅延補正）

■A/Vシンク

▸5 msec単位で、0msec～800msec

映像が音声より遅れて再生されるようなとき、この設定で音声の遅延を調整することができます。**HDMI OUT MAIN**に出力しているとき、再生される映像を見ながら調整するには、**ENTER**ボタンを押してください。

前の画面に戻るには**RETURN**ボタンを押してください。

調整できる範囲はHDMIの「**リップシンク**」設定が「**オン**」の場合、またはお使いのテレビがHDMIリップシンク機能に対応している場合で異なります。

ご注意

- A/Vシンク機能はPure Audioリスニングモードでは効果がありません。またアナログ入力信号をDirectリスニングモードで再生する場合、効果がありません。
- 「**NET**」入力セレクタには使用できません。
- 「**USB**」入力セレクタは、iPod/iPhoneを接続して、Standard ModeまたはExtended Mode（映像）を選んでいる場合のみ、使用できます。

セレクタ名変更（名前の編集）

各入力切換に好きな名前を入力して、識別しやすいようにできます。入力した名前が表示部に表示されます。

指定した名前は文字入力画面で編集します。

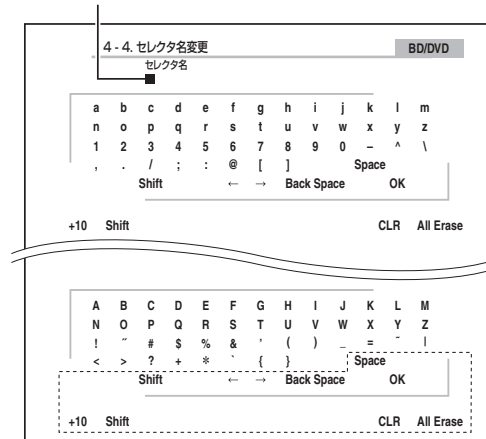
■セレクタ名

1 **▲/▼/◄/► ボタンを使って文字・記号を選び、ENTERボタンを押す**

この操作をくり返して、最大10文字まで入力します。

2 **入力が終わったら、忘れずに名前を保存する（▲/▼/◄/► ボタンを使って「OK」を選び、ENTERボタンを押す）**

この操作を行わないと名前は保存されません。

名前入力エリア

Space：
1文字分空白のスペースを入力します。

Shift*1：
表示する文字が切り換わります。

←（左）/→（右）：
名前入力エリア内でカーソルを移動するときに選びます。

Back Space*2：
カーソル位置から、左側の文字を削除します。カーソル位置は左に動きます。

OK：
入力が完了したときに押します。

ヒント

*1 リモコンの**+10**ボタンを押すことでも切り換わります。

*2 リモコンの**CLR**ボタンを押すと、入力したすべての文字を削除できます。

ヒント

- 放送局に名前をつける場合は、**TUNER**ボタンでAM/FMを選び、プリセット番号を選んでください（➔ P.37）。
- 名前を初期値に戻す場合、**CLR**ボタンを押して入力されているすべての文字を削除し、「**OK**」を選んで**ENTER**ボタンを押してください。

ご注意

- 「**NET**」、「**USB**」入力セレクタには使用できません。

画質調整

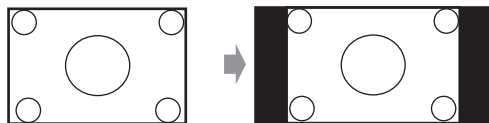
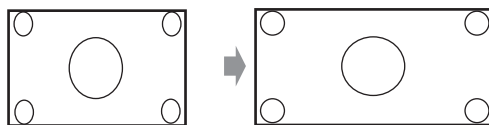
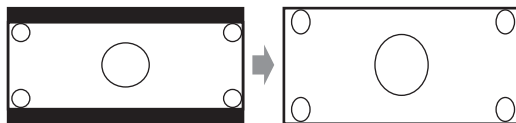
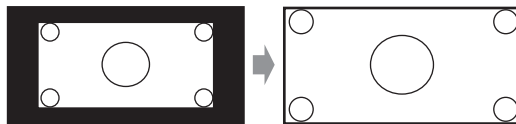
画質調整を使うと、画質を調整したり、画面上のノイズを減らすことができます。

HDMI OUT MAINに出力しているとき、設定しながらテレビの映像を確認するには、**ENTER**ボタンを押します。

前の画面に戻るには、**RETURN**ボタンを押します。

■ ワイドモード*1*2

この設定で、アスペクト比（縦横比）を設定します。

- **4:3**：

- **フル**：

- **ズーム**：

- **ワイドズーム**：

- **自動**：
  入力信号とモニター映像出力設定に従って、自動的に「**4:3**」、「**フル**」、「**ズーム**」、「**ワイドズーム**」のいずれかを選びます。モニター映像出力設定については「モニター映像出力」（➔ P.61）をご覧ください。

■ ピクチャーモード*1*3

- **カスタム設定**：
  すべての項目を、好みに応じて、設定できます。
- **ISF昼間設定**：
  部屋が明るい場合に選びます。
- **ISF夜間設定**：
  部屋が暗い場合に選びます。
- Cinema：
  映像ソースが映画などの場合に選びます。
- Game：
  映像ソースがゲームの場合に選びます。
- **ストリーミング**：
  モスキートノイズ、ブロック・アーティファクトの低減を図ります。
- **スルー**：
  画質調整をしない（解像度は変更する）場合に選びます。
- **ダイレクト**：
  画質調整をしない（解像度を変更しない）場合に選びます。
  アナログへ入力した映像をHDMI出力端子から出力している場合は、「**スルー**」と同じ処理になります。

ピクチャーモードでは、「**ゲームモード**」、「**フィルムモード**」、「**エッジエンハンスメント**」、「**ノイズ低減**」、「**モスキートノイズ低減**」、「**ランダムノイズ低減**」、「**ブロックノイズ低減**」、「**解像度**」、「**明るさ**」、「**コントラスト**」、「**色合い**」、「**彩度**」、「**色温度**」、「**ガンマ**」、「**R 明るさ**」、「**R コントラスト**」、「**G 明るさ**」、「**G コントラスト**」、「**B 明るさ**」、「**B コントラスト**」といった設定を、ワンタッチで映画やゲームの画面に適した設定に変更できます。

本機はImaging Science Foundation(ISF)が設定した、設定および校正基準を採用しています。ISFはビデオ性能を最適化するための業界基準をきめ細かく考案し、技術者や取付け作業員に対してこれらの基準を運用するための教育プログラムを実施し、本機から最適な画質を得ています。したがって、ISF認定の設置工事担当者が設定および校正作業を行うようにお勧めします。

■ ゲームモード*4*5*6

- **オフ**
- **オン**

ゲーム機など、本機に接続したビデオ機器の再生中に、ビデオ信号の遅延が発生する場合は、機器に接続した入力で、「**ゲームモード**」を選択して、「**オン**」に設定してください。遅延は改善しますが、画質は劣化します。

■ フィルムモード*4*6

- **ビデオ**：
  「**フィルムモード**」を適用せず、ビデオソースとして入力信号を処理します。
- **自動**：
  ビデオソースかムービーソースを判別します。ムービーソースの場合、最適な処理を行います。

本機は自動的に映像ソースを判別し、映像ソースに合わせて最適な処理を行い、映像ソースが持つ自然な質感を再現することができます。

■ エッジエンハンスメント*4*6

- **オフ**
- **弱**
- **中**
- **強**

この設定で縁の鋭さを調整できます。

■ ノイズ低減*4*6

- **オフ**
- **弱**
- **中**
- **強**

この設定で画面に現れるノイズを低減することができます。

■ **モスキートノイズ低減***4*6*7
- オフ
- 弱
- 中
- 強

元の映像に圧縮がかかっているときなどに映像の輪郭に点の集まりが現れてぼやけてしまうことがあります。この点の集まりがモスキートノイズです。蚊の群れが飛んでいるように見えることからこう呼ばれます。過度に圧縮されたMPEGコンテンツがモスキートノイズを起こします。

■ **ランダムノイズ低減***4*6*7
- オフ
- 弱
- 中
- 強

ランダムノイズとは、画面上に不規則に現れる点のことです。

■ **ブロックノイズ低減***4*6*7
- オフ
- 弱
- 中
- 強

動きの速い映像を再生しているときなどに伝送速度が追いつかず画面上にモザイクがかったような不自然な四角が現れることがあります。この四角がブロックノイズです。過度に圧縮されたMPEGコンテンツがブロックノイズを起こします。

■ **解像度***4*6*8
- スルー：
  入力信号の解像度とおなじ解像度で、本機で変換しないでそのまま出力する場合に選択します。
- 自動：
  テレビに対応した解像度に合わせて、自動で変換する場合に選択します。
- 480p、720p、1080i、1080p：
  お好みの出力解像度を選択します。
- 1080p/24：
  1080p/24の解像度で出力する場合に選択します。
- 4K アップスケーリング：
  1080pの約4倍の高解像度で出力されます。接続したモニターの対応解像度により、3840 × 2160または4096 × 2160ピクセルで出力されます。

HDMI出力端子の出力解像度を指定することができます。お使いのテレビで対応している解像度に一致するように、本機の画像解像度を変換します。
「**モニター映像出力**」の「**解像度**」設定で「**入力ソース**」を選んだ場合のみ設定できます（➔ P.61）。

■ **明るさ***1*4*6
- −50～0～+50
  この設定で画面の明るさを調整できます。
  「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ **コントラスト***1*4*6
- −50～0～+50
  この設定で明暗の差を調整できます。
  「−50」は最もコントラストが弱くなります。
  「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ **色合い***1*4*6
- −50～0～+50
  この設定で元の色に対して色合いを補正することができます。
  「−50」から「+50」の範囲で調整できます。

■ **彩度***1*4*6
- −50～0～+50
  この設定で濃さを調整できます。
  「−50」は最も淡い色になります。「+50」は最も鮮やかな色になります。

■ **色温度***4*6
- 暖色
- 通常
- 寒色

この設定で色温度を調整できます。

■ **ガンマ***4*6
- −3～0～+3

入力された画像のR(赤)、G(緑)、B(青)色データ信号と、出力する色データ信号の相対関係を調節します。

■ **R 明るさ***4*6
- −50～0～+50

この設定で画面の赤の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ **R コントラスト***4*6
- −50～0～+50

この設定で赤のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ **G 明るさ***4*6
- −50～0～+50

この設定で画面の緑の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ **G コントラスト***4*6
- −50～0～+50

この設定で緑のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

■ **B 明るさ**[*4*6]

- −50〜0〜+50

この設定で画面の青の明るさを設定できます。「−50」は最も暗くなります。「+50」は最も明るくなります。

■ **B コントラスト**[*4*6]

- −50〜0〜+50

この設定で青のコントラストを設定できます。「−50」は最もコントラストが弱くなります。「+50」は最もコントラストが強くなります。

ご注意

- 以下の場合、「**画質調整**」は使用できません：
  - 「NET」入力セレクタを選んでいる。
  - 「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している（➔ P.61）。
- 「**画像調整**」は、iPod/iPhoneを接続して、Standard ModeまたはExtended Mode（映像）を選んでいる場合のみ、「USB」入力セレクタを使用できます。

*1 この操作は、Quick Setup（クイック セットアップ）メニューを使って行うこともできます（➔ P.55）。
*2 3D映像を入力している場合、「**ワイドモード**」設定は「**フル**」に固定されます。
*3 「**メタデータ転送**」を「**オン**」に設定してメタデータファイルを送信している場合（➔ P.66）、「**ピクチャーモード**」設定は「**ダイレクト**」に固定されます。
*4 「**ピクチャーモード**」設定を「**カスタム設定**」以外に設定している場合、この設定は使えません。
*5 「**解像度**」設定を「**4K アップスケーリング**」に設定している場合（➔ P.61、75）、この設定は「**オフ**」に固定されます。
*6 初期設定値に戻したい場合は、リモコンの**CLR**ボタンを押してください。
*7 「**ノイズ低減**」設定を「**オフ**」以外に設定している場合、この設定は選べません。
*8 「**4K アップスケーリング**」を選んだ場合、お使いのテレビによっては映像が表示されない場合があります。

音声入力

■ **音声入力**

- ARC：

  テレビチューナーの音声信号を、本機の**HDMI OUT**（アウト） **MAIN**（メイン）端子に送ることができます。*1
  この設定で、テレビの音声をほかの設定よりも、優先的に自動選択できます。

- HDMI：

  これは、**HDMI IN**（イン）端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI（**HDMI IN**端子）とデジタル音声入力（**COAXIAL IN**（コアキシャル）端子または**OPTICAL IN**（オプティカル）端子）の両方を割り当てた場合は、HDMIが優先的に自動選択されます。

- COAXIAL(同軸入力)：

  これは、**COAXIAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。同軸入力とHDMI入力の両方を割り当てた場合は、同軸入力が優先的に自動選択されます。

- OPTICAL(光入力)：

  これは、**OPTICAL IN**端子を入力ソースに選んだときに選ぶことができます。HDMI入力と光入力の両方を割り当てた場合は、光入力が優先的に自動選択されます。

- **アナログ**：

  常に、アナログ音声が出力されます。

デジタルとアナログの両方の入力がある場合は、音声出力の優先順位を設定できます。

ご注意

- この設定は、入力ソースが**HDMI IN**端子、**COAXIAL IN**端子、または**OPTICAL IN**端子に設定されている場合しか設定できません。
- 「**音声入力**」設定は「NET」、「USB」入力セレクタには使用できません。
- ホールハウスモードを使用しているとき、「**音声入力**」設定は「**アナログ**」に固定されます。
- GAME2入力セレクタは、「**アナログ**」が選択できません

*1 「TV/CD」入力セレクタを選んでいる場合に「ARC」を選ぶことができます。「**オーディオリターンチャンネル**」設定で「**オフ**」を選んでいる場合は、選ぶことができません（➔ P.79）。

■ **固定モード**

- **オフ**：

  デジタル信号が入力されていないときは、アナログ信号を再生します。

- PCM：

  PCMの2チャンネル入力信号のみ聴こえます。PCM以外の音声が入力された場合、PCM表示が点滅し、ノイズが生じます。

- DTS：

  DTS（DTS-HDは除く）の入力信号のみ聴こえます。DTS以外の音声が入力された場合、dts表示が点滅し、音が出ません。

「**音声入力**」で「HDMI」、「COAXIAL(同軸入力)」、「OPTICAL(光入力)」を選択した場合、「**固定モード**」で入力信号を指定することができます。
DTSやPCM信号の再生中に、ノイズや曲間の頭切れが気になる場合は、設定することをおすすめします。デジタル入力をDTSまたはPCMに固定することができます。

- PCMソースのトラックの冒頭が切れる場合は、PCMに設定してみてください。
- DTS CDを早送りまたは巻き戻しすると、ノイズが発生する場合は、DTSに設定してみてください。

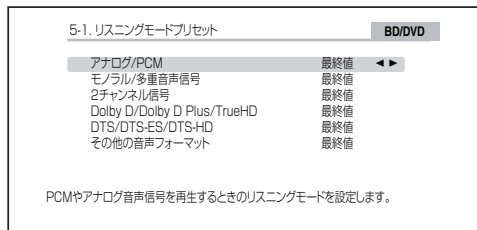
ご注意

- 「**音声入力**」の設定を変更すると、設定が「**オフ**」に戻ります。

5.リスニングモードプリセット

入力される信号によって、お好みのリスニングモードを初期設定しておくことができます。
たとえば、音楽CDのPCM信号を再生するときは、常にステレオモードで再生したり、ブルーレイディスクのDolby TrueHD信号を再生するときは、「**ストレートデコード**」を選択して、常にそのままの音場で再生できる機能です。
再生中にリスニングモードを切り換えることもできますが、一度スタンバイ状態にすると、設定されたリスニングモードに戻ります。

1 **▲/▼ボタンを押して設定したい入力ソースを選び、ENTERボタンを押す**

以下のメニューが表示されます。

2 **▲/▼ボタンを押して、設定したい信号の種類を選び、◄/►ボタンを押してリスニングモードを選ぶ**

選択できるリスニングモードは、設定する入力信号によって異なります（➔ **P.42～50**）。

「**最終値**」はリスニングモードを固定せず、最後に選択したモードを優先します。

「**ストレートデコード**」はDolbyやDTSなどのストレートデコードのリスニングモードを選びます。

ご注意
- 「**TUNER**」入力セレクタには「**アナログ**」のみ割り当てることができます。
- 「**NET**」、「**USB**」入力セレクタには「**デジタル**」のみ割り当てることができます。

■アナログ/PCM（デジタル）

CDなどのPCM信号や、レコード、カセットテープなどのアナログ信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

ご注意
- 「**GAME2**」入力セレクタには「**PCM**」のみ割り当てることができます。

■モノラル/多重音声信号

モノラル/多重音声信号で記録された、Dolby Digital 、AACなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■2チャンネル信号

2チャンネルで記録された、Dolby Digitalなどのデジタル信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■Dolby D/Dolby D Plus/TrueHD

Dolby Digital、Dolby Digital PlusおよびDolby TrueHD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

■DTS/DTS-ES/DTS-HD

DTS形式やDTS-HD High Resolution形式のデジタル音声信号（DVD、LD、CDなど）を再生するときに、使用するリスニングモードを指定できます。ブルーレイやハイビジョンDVD（HDMIで入力）などの、DTS-HD Master Audioソース用の既定のリスニングモードを指定します。

■その他の音声フォーマット

AAC、DVD-Audioなど、**HDMI IN**端子から入力される多重チャンネルPCMソース用の、既定のリスニングモードを指定します。スーパーオーディオCDのDSD信号を再生するときのリスニングモードを設定します。

6.その他

ボリューム設定

■ボリューム表示

- **絶対値**：
  最小·0.5…99.5·**最大**の範囲で表示します。
- **相対値（THX）**：
  −∞ dB（デシベル）·−81.5dB·······＋18.0dBの範囲で表示します。

ボリュームの表示方法を絶対値と相対値に切り換えることができます。
絶対値の音量82が相対値の0dBに相当します。

ご注意
絶対値の音量を82に設定すると、表示部に「82.0Ref」が表示され、THX表示が点滅します。

■ミュート時音量レベル

- 10dB単位で**−∞dB**、−50dB〜−10dBの範囲で設定できます。

ミューティング時の音量を、聴いている音よりどれだけ下げるか、設定しておくことができます（➔ P.53）。

■最大ボリューム値

- **オフ**、50〜99（絶対値表示）
- **オフ**、−32dB〜+17dB（相対値表示）

音量が大きくなり過ぎないように、音量の最大値を設定することができます。
この設定を無効にするには、「**オフ**」を選びます。

■電源オン時ボリューム値

- **最終値**、**最小**、1〜99または**最大**（絶対値表示）
- **最終値**、−∞dB、−81dB〜+18dB（相対値表示）

本機の電源を入れたときの音量を、一定に設定しておくことができます。
本機をスタンバイ状態にする前の音量を、そのまま残したい場合は「**最終値**」を選びます。
「**電源オン時ボリューム値**」には、「**最大ボリューム値**」で設定した値より高く設定することはできません。

■ヘッドホン音量レベル

- −12dB〜0dB〜+12dB

スピーカーで聴くときとヘッドホンで聴くときの音量に差がある場合、ヘッドホンの音量を微調整しておくことができます。

OSD設定

■オンスクリーンディスプレイ

- **オン**
- **オフ**

本機を操作したときに、操作内容を画面に表示するかどうかを設定します。
「**オン**」に設定しても、再生機器をHDMI入力端子に接続しているときは、操作内容は表示されない場合があります。

■言語(Language)

- **日本語**、**English**（英語）、**Deutsch**（ドイツ語）、**Français**（フランス語）、**Español**（スペイン語）、**Italiano**（イタリア語）、**Nederlands**（オランダ語）、**Svenska**（スウェーデン語）

操作内容の表示言語を選択して設定できます。

■スクリーンセーバー

- 3min、5min、10min
- **オフ**

この設定では、スクリーンセーバーの起動時間を設定します。スクリーンセーバー起動中に本機の操作を行った場合、スクリーンセーバーへ移行する直前の画面が表示されます。

7.ハードウェア設定

HDMI

■HDMIコントロール(RIHD)

- **オフ**
- **オン**

ヒント
- 本体の**RIHD**ボタンでも操作できます。

本機とHDMI接続したCEC対応テレビや、RIHD対応機器と連動動作するかどうかを設定します。
ご使用のテレビによっては、テレビ側でリンク設定などを行う必要があります。
詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

ご注意
- 「**オン**」に設定してメニューを閉じると、本機の表示部に、接続したRIHD対応機器名称と、「RIHD On」を表示します。
  表示例：“Search（サーチ）…”→“**（機器名称）**”→“RIHD On”
  接続した機器の名称が取得できないときは、「Player（プレーヤー）＊」または「Recorder（レコーダー）＊」などを表示します。
  （＊は機器を複数台接続したときの台数を表します。）
- RIHD対応機器が本機とHDMI接続されたとき、本機の表示部に、接続機器の名称が表示されます。例えば、テレビ番組を見ているとき、本機のリモコンを使用してブルーレイディスク/DVD操作を行ったなら、本機の表示部にブルーレイディスク/DVDプレーヤーの名称が表示されます。
- 接続機器が対応していない場合や、対応しているかどうか分からない場合は「**オフ**」に設定してください。
- 「**オン**」に設定して、おかしな動作をする場合は「**オフ**」にしてください。

- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定した場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります。）
- RIHD コントロールは**HDMI OUT SUB**端子では動作しません。**HDMI OUT MAIN**端子に接続してください。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定した場合、接続機器はRI接続しないでください。機器が故障する場合があります。

■HDMIスルー

- **オフ**
- **BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME1、GAME2、PC、AUX、TV/CD、PHONO**：
  HDMIスルー機能を有効にする入力ソースを選択します。
- **最終値**：
  本機をスタンバイ状態にする前に選択していた入力ソースにHDMIスルー機能を有効にします。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」に設定したときに、この設定は「**自動**」に固定されます。

HDMIスルー機能は、本機がスタンバイ状態においても、HDMI入力端子から入力された映像信号を、HDMI接続したテレビや他機器に出力します。

詳しくは接続した機器の取扱説明書をご覧ください。

スタンバイモードでHDMIスルー機能が有効になると、**HDMI**表示がうす暗く点灯します。使用状況によっては点灯しない場合があります（➔ P.60）。

ご注意

- 「**HDMI入力**」に割り当てられている入力ソースのみに有効です（➔ P.61）。
- HDMIスルー機能の使用中は、本機がスタンバイ状態でも電力消費が増大しますが、CECに対応したテレビを使っていて、以下の場合は電力消費を低減できます：
  - テレビがスタンバイ状態になっている。
  - テレビ番組を視聴している。
- 「**自動**」に設定されている場合、接続した機器によっては正しい入力ソースを選択しない場合もあります。
- 「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オフ**」にした場合、この設定は連動して「**オフ**」に設定されます。

■テレビオーディオ出力

- **オフ**
- **オン**

HDMI端子から音声出力を「する/しない」の設定ができます。本機のHDMI 出力端子とテレビのHDMI入力端子を接続していて、本機の電源がオンの状態でテレビのスピーカーから音声を聴きたいときなどに設定します。通常は「**オフ**」にしておいてください。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」の場合、自動的に「**自動**」となり「**オン**」、「**オフ**」の設定は出来ません（➔ P.78）。

ご注意

- 「**テレビオーディオ出力**」が「**オン**」で、テレビから音声が出ている場合は、スピーカーから音声が出ません。その場合、**DISPLAY**ボタンを押すと、表示部に「**TV Speaker**」が表示されます。
- Digital Processong Crossover Networkを使用している場合、この設定は使用できません。
- お使いのテレビや入力信号によっては、設定が「**オン**」でもテレビから音声が出ないことがあります。
- 「**テレビオーディオ出力**」または、「**HDMIコントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」になっていて、ご利用のテレビのスピーカーを通してお聴きになっているときに（➔ P.20）、本機の**MASTER VOLUME**つまみを操作すると、本機の左右フロントスピーカーから音声が出力されます。音声を出力させたくないときは、本機またはテレビの設定を変えるか、本機の音量を下げてください。
- 「**オン**」に設定してHDMI以外の入力を選んでいるときは、リスニングモードを変更できません。

■オーディオリターンチャンネル

- **オフ**
- **自動**：
  テレビチューナーの音声信号を本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送ることができます。

オーディオリターンチャンネル（ARC）は、HDMIで接続したテレビの音声信号を、本機の**HDMI OUT MAIN**端子に送る機能です。この機能を使用するには、お使いのテレビがARC機能に対応している必要があります。

HDMIケーブルでテレビと本機を接続するだけで、本機でテレビの音を楽しんだり、本機に接続したAV機器の映像や音をテレビに出力することができます。

ARC機能を使用するには、まず入力切換で「**TV/CD**」を選択します。次に「**HDMIコントロール(RIHD)**」を「**オン**」に設定し、「**オーディオリターンチャンネル**」設定を「**自動**」に設定してください。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。お買い上げ時の設定：「- - - -」

ご注意

- 「**オーディオリターンチャンネル**」設定を「**自動**」に設定した場合、「**TV/CD**」入力セレクタの「**音声入力**」は「**ARC**」に切り換わります（➔ P.76）。
- 「**オーディオリターンチャンネル**」設定は、「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」、「**HDMIスルー**」、「**オーディオリターンチャンネル**」、の設定を変更したあとは、すべての接続機器の電源を一度オフにして、電源を入れ直してください。また、接続機器の取扱説明書も必ずお読みください。

■ジャンル連動

- **オフ**
- **自動**

HDMI接続しているテレビのジャンル情報に応じて、リスニングモードを自動的に切り換えることができます。

「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を初めて「**オン**」に設定したときに、この設定は自動的に「**自動**」に設定されます。

ご注意

- 「**ジャンル連動**」設定は、「**HDMIコントロール(RIHD)**」設定を「**オン**」に設定しているときしか設定できません。
- リスニングモードは手動で切り換えることができますが、ジャンル情報が変わると、自動的に対応するリスニングモードに切り換わります。

- 本機能の対応テレビは、東芝製のレグザリンク対応テレビの一部、日立製Woooリンク対応テレビの一部です。詳しくはオンキヨーホームページでご確認ください。
- ヘッドホンを接続している場合、設定できません。

■ リップシンク

▸ **オフ**
▸ **オン**

接続したモニターからの情報により、映像と音声のズレを本機で自動的に補正するかどうかを設定します。

ご注意
- リップシンク機能はHDMI Lip Sync対応のテレビに接続している場合にのみ動作します。

■ InstaPrevue

この設定では、ホームメニューの「InstaPrevue」で表示される、HDMI入力映像のプレビュー表示を設定します。

子画面の表示方法

▸ **すべて表示**：
HDMI IN 1/2/3/4、**AUX INPUT**のプレビュー画面を一括して表示します。
▸ **一つ表示**：
HDMI IN 1/2/3/4、**AUX INPUT**のプレビュー画面を個別に表示します。

子画面で表示するプレビュー画面の数を設定します。

子画面の表示位置

（「**子画面の表示方法**」を「**すべて表示**」に設定している場合）
▸ **上**、**下**、**左**、**右**

（「**子画面の表示方法**」を「**一つ表示**」に設定している場合）
▸ **左上**、**右上**、**左下**、**右下**

子画面で表示するプレビュー画面の位置を設定します。

ご注意
- 映像の信号方式によっては、子画面に正しく表示されないことがあります。

自動スタンバイ

■ 自動スタンバイ

▸ **オフ**
▸ **オン**

「**オン**」に設定した場合、映像/音声入力がない状態で本機を30分間操作しないでいると、自動的にスタンバイ状態へ移行します。
スタンバイ状態へ移行する30秒前に、本機表示部とメニュー画面に「Auto Standby」と表示されます。

ご注意
- この設定を「**オン**」にした場合、ソースによっては、再生中にスタンバイ状態に移行することがあります。
- 別室（ゾーン）への出力をオンにしている場合、自動スタンバイは、作動しません。

ネットワーク

ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「**設定保存**」を実施する必要があります。

本機をホームネットワーク（LAN）に接続して使えるようにするためにネットワーク設定をする必要があります。
ネットワーク設定を変更する場合は、変更後に「**設定保存**」を実施する必要があります。
DHCPでホームネットワーク（LAN）を構築している場合は、「**DHCP**」を「**有効**」にすれば、ホームネットワーク（LAN）で使用できるようになります。（初期設定では、この状態になっています。）
各機器に固定IPアドレスを割り当てている場合は、「**IPアドレス**」で本機にIPアドレスを割り当て、ゲートウェイアドレスやサブネットマスクなどお使いのホームネットワーク（LAN）に関する情報を入力する必要があります。

■ MACアドレス

本機のMACアドレスを確認できます。この値は機器固有のもののため、変更することはできません。

■ DHCP

▸ **有効**
▸ **無効**

この設定で本機のIPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーを自動で設定するかどうかを設定します。

ご注意
- 「**無効**」を選んだ場合、「**IPアドレス**」、「**サブネットマスク**」、「**ゲートウェイ**」、「**DNSサーバー**」を手動で設定してください。

■ IPアドレス

▸ Class A：
「**10.0.0.0**」～「**10.255.255.255**」
▸ Class B：
「**172.16.0.0**」～「**172.31.255.255**」
▸ Class C：
「**192.168.0.0**」～「**192.168.255.255**」

ISPから提供されたIPアドレスを入力してください。
ほとんどのルータはClass Cを使用します。

■ サブネットマスク

ホームネットワーク（LAN）のサブネットマスクを表示または設定します。

■ ゲートウェイ

ホームネットワーク（LAN）のゲートウェイアドレスを表示または設定します。

■ DNSサーバー

ホームネットワーク（LAN）のDNSサーバー（プライマリ）を表示または設定します。

■ プロキシURL

プロキシサーバーのURLを入力します。URLが不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■ プロキシポート

この設定は上記「**プロキシURL**」設定が入力されているときだけ機能します。プロキシサーバーのポート番号を入力

します。ポート番号が不明な場合は、ご使用のISPにお問い合わせください。

■ **ネットワークスタンバイ**

- **オン**
- **オフ**

ネットワークを通じて本機をコントロールできるかどうかを設定します。

ご注意

- 「**オン**」に設定している場合、スタンバイ状態時にNET表示がうす暗く点灯します。この場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。使用状況によっては点灯しない場合があります（➔ P.60）。

■ **アップデート通知**

- **有効**
- **無効**

この設定を有効にすると、ネットワーク経由でファームウェアの更新がある場合に通知します。

ご注意

- アップデート通知画面で「**アップデートしません**」を選んだ場合、この設定は「**無効**」に切り換わります。
- ファームウェアの更新通知メッセージについて詳しくは、「「**最新のファームウェアがリリースされました**」というメッセージが表示される」をご覧ください（➔ P.25）。

初期設定

初回起動時に設定する「**初期設定**」を行います。詳しくは、「初期設定」をご覧ください（➔ P.26）。

8.リモコン設定

リモコンID

■ **リモコンID**

- 1、2、3のいずれか

オンキヨー製品が同じ部屋に複数ある場合、リモコンの操作コードが重複してしまうことがあります。
他のオンキヨー製品と区別をつけるために、リモコンIDを変更することができます。「1」、「2」、「3」から選べます。
お買い上げ時は、本機、リモコンともに「1」に設定されています。設定したら、次にリモコン側の設定をします。

ご注意

- リモコン、本機共に同じリモコンIDに設定する必要があります。

リモコン本体のIDを変更する

1 **RECEIVER（レシーバー）ボタンを押しながら、RECEIVERボタンが点灯するまでQ SETUP（セットアップ）ボタンを長押しする（約3秒間）**

2 **数字ボタンで、1、2、3のいずれかのIDを入力する**
RECEIVERボタンが2回点滅します。

リモコン登録

「リモコンコードを検索する」をご覧ください（➔ P.85）。

9.ロック設定

お好みで、セットアップメニューのロックで設定を保護することができます。

■ **セットアップ**

- **ロック**
- **解除**

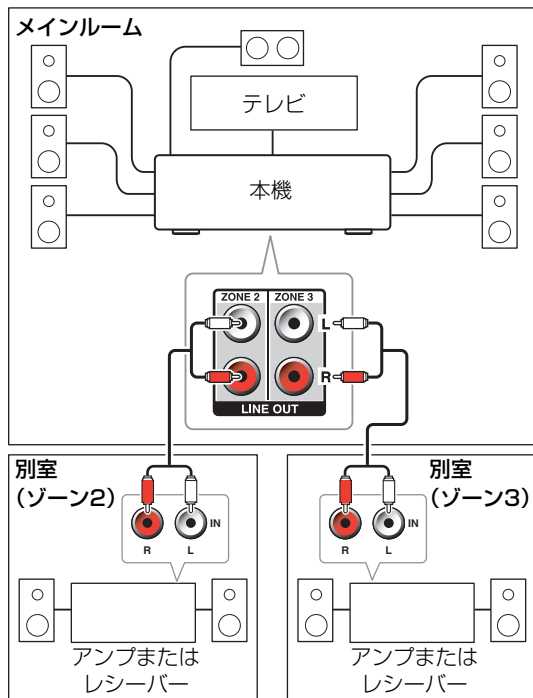
「**ロック**」を選択した場合、すべての設定が変更できなくなります。

別室（ゾーン）で音楽を鑑賞する

別室用のアンプを接続して異なるソースをお楽しみいただくことができます。

ゾーンの接続をする

アンプまたはレシーバーを接続する

メインルームで7.1チャンネル再生をしながら、別室で異なるソースを再生できます。

ヒント

- 音量は別室で使用するアンプまたはレシーバーで調整してください。

別室（ゾーン）で音楽を鑑賞する

ここでは、ゾーン2/ゾーン3のオン・オフの方法、入力ソースの設定の方法を説明しています。

リモコンで操作する

ご注意

- リモコンの**ZONE**ボタンは、ゾーン2を選んでいるときは赤点灯し、ゾーン3を選んでいるときは緑点灯します。

1 **ZONEボタンをくり返し押してから、⏻ RECEIVERボタンを押す**

ゾーン2/3がオンになり、**Z2**/**Z3**表示が点灯します。

2 **ZONEボタンをくり返し押してから、INPUT SELECTORボタンを押して入力を選ぶ**

ラジオのAM局またはFM局を選ぶときは、**TUNER**ボタンと**ZONE**ボタンをくり返し押してください。

3 **ゾーン2/3をオフにするには、ZONEボタンをくり返し押してから、⏻ RECEIVERボタンを押す**

ゾーン2/3がオフになり、**Z2**/**Z3**表示が消灯します。

ご注意

- **ZONE 2/ZONE 3 LINE OUT**端子はアナログ信号のみ出力します。デジタル信号の再生はできません。入力ソースが選択されているのに音声が出力されない場合は、アナログ入力に接続されているか確認してください。
- AM/FM放送をお聴きになる場合、メインルームとゾーン2/3で違う放送局を選べません。同じ放送局をそれぞれの部屋でお聴きいただけます。
- ゾーン2/3への出力がオンになっているときは、RI連動機能は働きません。
- 入力セレクタに「**NET**」、「**USB**」を選んでいるときは、メインルームとゾーン2/3で、直前に選択したセレクタが反映されます。
- ゾーン2/3を選択時は、待機時の消費電力が増加します。
- ゾーン2/3への出力中に、本機がスタンバイ状態になると、**Z2/Z3**表示がうす暗く点灯します。
- メインルームでPure Audioリスニングモードを選択しているときに、ゾーン2/3の出力をオンにすると、自動的にDirectに変更されます。
- ゾーン2/3では入力セレクタに「**GAME2**」は選べません。
- メインルームの入力セレクタに「**GAME2**」を選び、かつメインルームとゾーン2/3で同じソースを選んでいる場合、ゾーン2/3から音声は出力されません。
- ゾーン2/3を選択するために**ZONE**ボタンをくり返し押しても、その後に他の**REMOTE MODE**ボタンを押して切り換えた場合は、直前に選択したゾーンが選ばれます。

オンキヨー製ドックで iPod/iPhoneを再生する

オンキヨー製ドックを使う

ドックは別売りです。
ドックの最新情報については、弊社ホームページをご覧ください。
http://www.jp.onkyo.com
ご使用になる前に、必ずご使用のiPod/iPhoneをiTunes経由で最新のバージョンにアップデートしてください。
対応しているiPod/iPhoneのモデルについては、オンキヨー製ドックの取扱説明書をご覧ください。

RI ドック

RI ドックを使うと、簡単な操作で、iPod/iPhoneに保存した音楽をすばらしいサウンドで再生したり、iPod/iPhoneのスライドショーや画像をテレビ画面で楽しめます。また、画面表示（OSD）を見ながら、iPod/iPhoneのコンテンツをテレビ画面で確認・検索・選択でき、付属のリモコンで、ソファにゆったり座ったままiPod/iPhoneを操作することが可能です。本機のリモコンでも操作できます。

■操作をはじめる前に

1. 本機のリモコンを初めて使う場合は、該当するリモコンコードを登録してからご使用ください（➔ **P.86**）。
2. RI ドックは、RIケーブルで本機に接続してください（➔ **P.23**）。
3. RI ドックのRI MODE切換スイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に切り換えてください。
4. 本機の入力表示を「**DOCK**」にしてください（➔ **P.52**）。

■システム機能

iPod/iPhoneとの連動動作は、iPod/iPhoneの機種や世代により対応していないものがあります。

システムオン

本機の電源を入れると、自動的にRI ドック、iPod/iPhoneの電源が入ります。また、RI ドック、iPod/iPhoneの電源が入っている場合は、⏻**SOURCE**ボタンを押すと本機の電源が入ります。

オートパワーオン機能

本機がスタンバイ状態のときにiPod/iPhoneを再生すると、本機はiPod/iPhoneを接続した入力に切り換わり、iPod/iPhoneの再生が始まります。

ダイレクトチェンジ動作

本機が他の入力のとき、リモコンでiPod/iPhoneを再生すると、iPod/iPhoneを接続した入力に自動的に切り換わり、iPod/iPhoneの再生をします。

本機リモコン操作

本機のリモコンで、iPod/iPhoneの基本的な操作を行うことができます。

ご注意

- iPod/iPhoneに他のアクセサリーが接続されていた場合、本機は適切に入力を選べないことがあります。
- システムオン機能は、ドックが対応していない場合があります。

iPodアラーム機能

iPodのアラーム機能を利用して再生を開始すると、指定した時刻に本機の電源が入り、iPodが入力ソースに選ばれます。

ご注意

- 映像の再生中や音楽以外のiPod内蔵の効果音（ビープ音）をアラーム音として設定している場合は、連動操作は機能しません。
- 音楽（楽曲）をアラーム音として設定できない機種はこの機能を使用できません。

■操作に関するご注意

- 本機のボリュームつまみで、再生音量を調整してください。
- iPod/iPhoneがRI ドックにセットされている間は、音量操作は効果がありません。
- ドックにセットされたiPod/iPhoneの音量調整を行ったときは、ヘッドホンを再び接続する前に、音量が高くないか確かめてください。

iPod/iPhoneを操作する

iPod/iPhoneドックのリモコンコードを登録した**REMOTE MODE**ボタンを押すことで、iPod/iPhoneドックにセットされたiPod/iPhoneを操作することができます。
リモコンコードの入力方法については、「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ P.86）。
詳しくは、ドックの取扱説明書をご覧ください。

RIドック

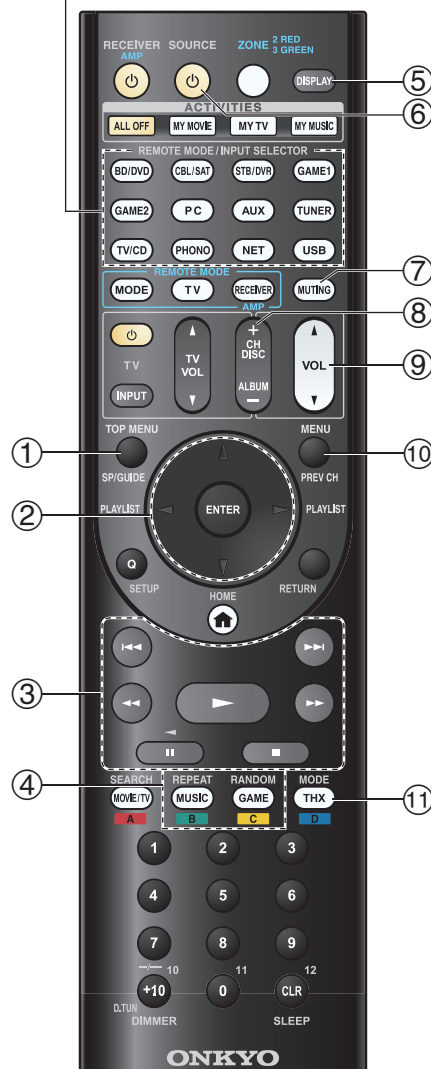
- RIドックのRI MODEスイッチを「HDD」または「HDD/DOCK」に設定してください。
- ⏻**SOURCE**ボタンは、（RI連動なし）リモコンコードでは機能しない場合があります。この場合は、RI接続を行い、（RI専用）リモコンコード**81993**を入力します。

■RI連動を使う場合

この場合は、RI接続を行い、リモコンコード**81993**（RI専用）を入力します。

- 本機の入力表示を「**DOCK**」に設定してください（➔ P.52）。

■RI連動を使わない場合

まず、リモコンコード**82990**を入力してください（➔ P.86）。

■RIドックの操作

使用できるボタン			
①	**TOP MENU**[*1]	⑤	**DISPLAY**[*2]
②	**▲/▼/◄/►、ENTER**	⑥	**⏻SOURCE**
	PLAYLIST ◄/►	⑦	**MUTING**
③	**►、❚❚、■、◄◄、►►、❙◄◄、►►❙**	⑧	**ALBUM +/–**
		⑨	**VOL ▲/▼**
④	**REPEAT**	⑩	**MENU**
	RANDOM	⑪	**MODE**

- iPod/iPhoneの機種・世代またはRIドックによっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。
- iPod/iPhoneおよびRIドックの操作の詳細については、RIドックに付属の取扱説明書をご覧ください。

*1 DS-A1 RIドックの場合、**TOP MENU**ボタンはModeボタンとして機能します。

*2 **DISPLAY**ボタンを押すと、バックライトが数秒間点灯します。

本機のリモコンで他の製品を操作する

本機のリモコンを使って、他社製の機器も含め、お手持ちのAV機器を操作できます。ここでは、DVDプレーヤー、テレビ、CDプレーヤーなど、操作したい機器のリモコンコードの入力方法について説明します。

- 他機のリモコンから指定した操作を学習させる（➔ P.93）
- マクロ機能を使って連続した操作を学習させる（➔ P.94）

すでに登録されているコードについて

REMOTE MODEボタンには、あらかじめ下記機器のコードが登録されていますので、これらの機器が操作できます。該当する機器の操作についてはリモコンコードを登録する必要はありません。
これらの機器の操作方法については、該当ページをご覧ください。

BD/DVDボタン：オンキヨー製DVDプレーヤー（➔ P.87）
TV/CDボタン：オンキヨー製CDプレーヤー（➔ P.87）

リモコンコードを検索する

OSDセットアップメニューから、最適なリモコンコードを検索することができます。

本機とテレビをHDMI接続（HDMI OUT MAIN）すると、テレビ画面を見ながら下記の設定ができます。

1 **RECEIVERボタンを押して、HOMEボタンを押す**

2 **◄/► ボタンで「セットアップ」を選び、ENTERボタンを押す**

3 **▲/▼ボタンで「リモコン設定」を選び、ENTERボタンを押す**

4 **▲/▼ボタンで「リモコン登録」を選びENTERボタンを押す**

5 **▲/▼ボタンでリモートモードを選び、ENTERボタンを押す**
カテゴリーの選択画面が表示されます。

6 **▲/▼ボタンでカテゴリーを選び、ENTERボタンを押す**
ブランド名の入力画面が表示されます。

7 **▲/▼/◄/► ボタンで文字を選び、ENTERボタンを押す**
ブランド名の入力を、１文字目から３文字目までくり返してください。

３文字目を入力したあと「Search」を選び、**ENTER**ボタンを押します。
検索後、ブランド名のリストが表示されます。

ブランド名が表示されなかった場合は ► ボタンを押して「Not Listed」を選び、ENTERボタンを押す
ブランド名入力画面が表示されます。

8 **▲/▼ボタンでブランド名を選び、ENTERボタンを押す**
検索が終わると、リモコンモードと登録手順が表示されます。試してみてください。

9 **機器を操作できる場合は、▲/▼ボタンで「OK」を選び、ENTERボタンを押す**
「**リモコン登録**」メニューが表示されます。

機器を操作できない場合は、▲/▼ボタンで「次のコードを試す」を選び、ENTERボタンを押す
次のコードが表示されます。

リモコンコードを登録する

操作したい機器ごとにコードを入力する必要があります。

1 **リモコンコード表で、該当するリモコンコードを探す（➔ P.90）**
コードはカテゴリー別に分類されています（DVDプレーヤー、テレビなど）。

2 **コードを登録したいREMOTE MODEボタンを押しながら、DISPLAYボタンを3秒以上押す**
REMOTE MODEボタンが点灯します。

ご注意

- **RECEIVER**ボタンとマルチゾーンボタンには、リモコンコードを入力できません。
- **TV**ボタンには、テレビのリモコンコードしか入力できません。
- **RECEIVER**ボタン、**TV**ボタン、マルチゾーンボタンを除き、**REMOTE MODE**ボタンはどのカテゴリーのリモコンモードでも登録できます。ただし、**REMOTE MODE**ボタンは、入力切換ボタンも兼ねています（➔ P.28）。**REMOTE MODE**ボタンにコードを登録するときは、操作したい機器を接続している端子と同じモードにコードを登録してください。たとえば、CDプレーヤーをCD入力端子に接続しているときは、**TV/CD**ボタンにそのCDプレーヤーのコードを登録してください。

3 **30秒以内に、数字ボタンで、5桁のリモコンコードを入力する**
REMOTE MODEボタンが2回点滅し、登録が完了します。
正しく登録できなかったときは、**REMOTE MODE**ボタンがゆっくりと1回点滅します。

ご注意

- リモコンコード表は制作時点のものであり、変更される可能性もあります。

カラーボタンの割り当てを変更する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンに、カラーボタンの割り当てを変更できます。

1 **設定を行いたいREMOTE MODEボタンとA（赤）ボタンをREMOTE MODEボタンが点灯するまで同時に押す（約3秒間）**
リモコンコードのカテゴリーに属するコードに対してのみ割り当てを変更できます。（DVDプレーヤー、テレビ、ケーブルテレビチューナーなど）

2 **30秒以内にカラーボタンを割り当てたい順番に押す**
押したカラーボタンは、それぞれ左から右に順に割り当てられます。**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅し、登録が完了します。正しく登録できなかったときは、**REMOTE MODE**ボタンがゆっくりと1回点滅します。

ヒント

- リセットする場合は、「REMOTE MODEボタンをリセットする」を参照してください（➔ P.87）。

ご注意

- カラーボタン以外の無効なボタンを押すと、登録がキャンセルされます。
- RECEIVERモード、またはゾーン2/3を選んでいる場合は、変更できません。

オンキヨー製品のRI専用リモコンコードを登録する

RI接続しているオンキヨー製機器を操作する場合は、リモコンをその機器ではなく、本機に向けて操作します。したがって、ラックなどに設置している見えない機器でも操作できます。

1 **本機とオンキヨー製機器がRIケーブルとオーディオ用ピンコードでアナログ（RCA）接続されていることを確認する**
詳しくは「オンキヨー製品と連動させる接続」をご覧ください（➔ P.23）。

2 **各REMOTE MODEボタンにRI専用リモコンコードを登録する**
- 42157：
  オンキヨー製カセットテープデッキのRI専用リモコンコード
- 81993：
  オンキヨー製ドックのRI専用リモコンコード

3 **REMOTE MODEボタンを押し、リモコンを本機に向けて機器を操作する**

ご注意

- 掲載しているリモコンコードは印刷時点のものです。機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

RI接続していないオンキヨー製機器を操作する場合

オンキヨー製機器に直接リモコンを向けて操作したい場合や、RI接続していないオンキヨー製機器を操作したい場合は、以下のリモコンコードを使ってください。

- **30627**：
  オンキヨー製DVDプレーヤー
- **71817**：
  オンキヨー製CDプレーヤー
- **70868**：
  オンキヨー製MDレコーダー
- **71323**：
  オンキヨー製CDレコーダー
- **82990**：
  オンキヨー製ドック

REMOTE MODEボタンをリセットする

特定の**REMOTE MODE**ボタンを初期設定（お買い上げ時の状態）のリモコンコードにリセットできます。

1 リセットしたいREMOTE MODEボタンを押しながら、REMOTE MODEボタンが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す

2 30秒以内にREMOTE MODEボタンをもう一度押す
REMOTE MODEボタンが2回点滅すると、ボタンのリセットは完了です。
各**REMOTE MODE**ボタンには、あらかじめリモコンコードが設定されています。ボタンをリセットすると、あらかじめ設定されていたコードが再度設定されます。

ご注意
- 学習機能で学習した操作もリセットされます。

リモコンをリセットする

リモコンをリセットして、初期設定（お買い上げ時の状態）に戻すことができます。

1 RECEIVERボタンを押しながら、RECEIVERボタンが点灯するまで、HOMEボタンを3秒以上押す

2 30秒以内にRECEIVERボタンをもう一度押す
RECEIVERボタンが2回点滅すると、リモコンのリセットは完了です。

その他の機器を操作する

ご使用の機器のリモコンコードがあらかじめ登録された**REMOTE MODE**ボタンを押すと、以下のように操作できます。
他の機器のリモコンコードを入力する方法については「リモコンコードを登録する」をご覧ください（➔ **P.86**）。

テレビを操作する

TVボタンには、あらかじめRIHD[*1]対応テレビ（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHDでリモコンコマンドを受信できるテレビを、本機にHDMI接続してください。RIHDでテレビを正常に操作できない場合は、お手持ちのテレビのリモコンコードを**TV**ボタンに設定し、テレビを操作してください。

- **11807/13100/13500**：
  RIHD対応テレビ

MHL対応モバイル機器を操作する

MHLのコードを本機のリモコンに登録すると、MHL対応モバイル機器を本機のリモコンで操作することができます。MHL対応機器は**AUX INPUT MHL**端子に接続してください。リモコンコードは**AUX**ボタンにプリセットすることをお勧めします。

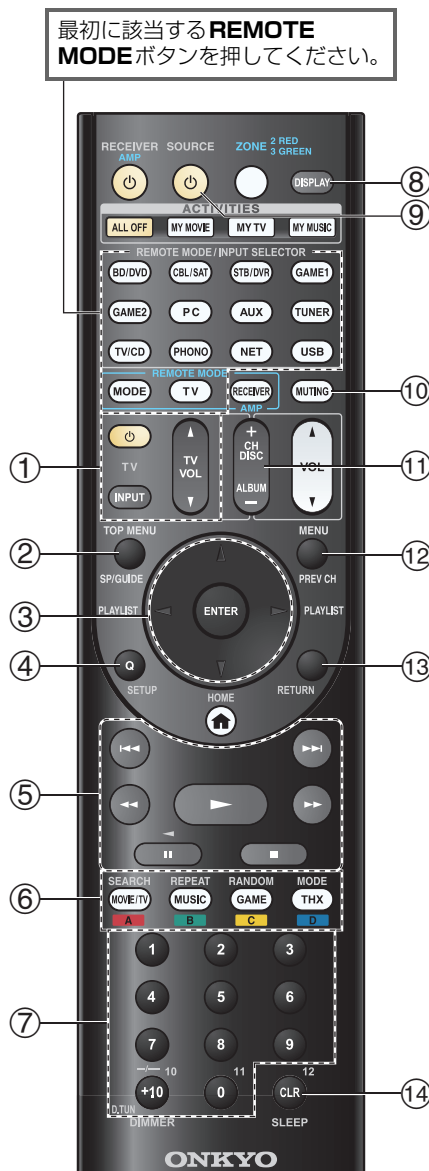
- **33501**：
  MHL対応モバイル機器

ヒント
- ご使用のモバイル機器によっては、動作が不安定だったり正しく動作しない場合があります。

ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、HD DVDプレーヤー、DVDレコーダーを操作する

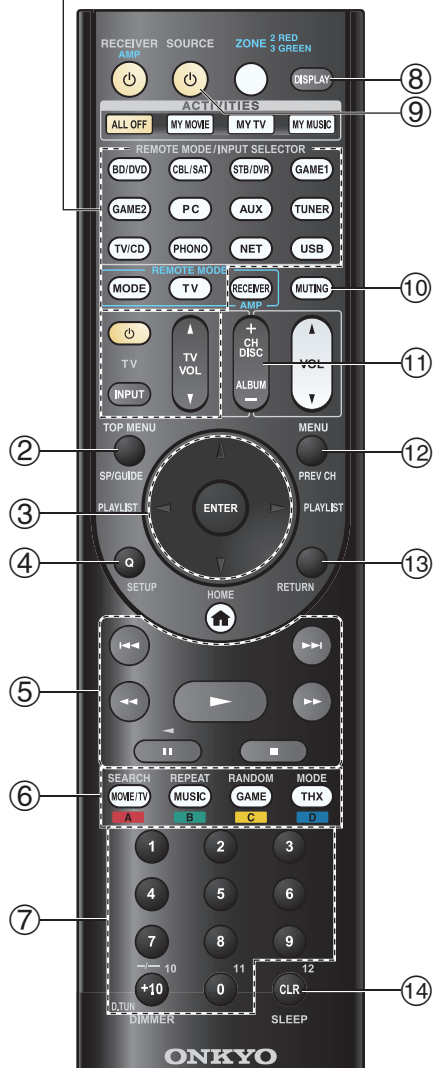
BD/DVDボタンには、あらかじめ RIHD*1対応機器（一部モデルに限る）を連動操作するリモコンコードが登録されています。RIHD でリモコンコマンドを受信できる機器を、本機にHDMI接続してください。

▶**32910/33101/33501/31612**：
RIHD 対応ブルーレイディスク/DVDプレーヤー

*1 本機が提供する RIHD 機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。
RIHD 対応機器以外での動作は保証いたしません。

■テレビの操作

使用できるボタン			
①	⏻、**INPUT**、**VOL ▲/▼**	⑦	数字**1**～**9**、**0**
②	**GUIDE**		数字**+10***1
③	**▲/▼/◄/►**、**ENTER**	⑧	**DISPLAY**
④	**SETUP**	⑩	**MUTING**
⑤	**►**、**❚❚**、**■**、**◄◄**、**►►**、**❙◄◄**、**►►❙***1	⑪	**CH +/–**
		⑫	**PREV CH**
⑥	**A**（赤）*1	⑬	**RETURN**
	B（緑）*1	⑭	**CLR**
	C（黄）*1		
	D（青）*1		

■ブルーレイディスクプレーヤー/HD DVDプレーヤーの操作

使用できるボタン			
②	**TOP MENU**	⑧	**DISPLAY**
③	**▲/▼/◄/►**、**ENTER**	⑨	⏻**SOURCE**
④	**SETUP**	⑩	**MUTING**
⑤	**►**、**❚❚**、**■**、**◄◄**、**►►**、**❙◄◄**、**►►❙**	⑪	**CH +/–**
			DISC +/–
⑥	**A**（赤）	⑫	**MENU**
	B（緑）	⑬	**RETURN**
	C（黄）	⑭	**CLR**
	D（青）		
⑦	数字**1**～**9**、**0**		
	数字**+10***1		

■DVDプレーヤー/DVDレコーダーの操作

使用できるボタン			
②	TOP MENU	⑧	DISPLAY
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑨	⏻SOURCE
④	SETUP	⑩	MUTING
⑤	►、II、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I	⑪	CH +/– DISC +/–
⑥	A（赤）*1	⑫	MENU
	B（緑）	⑬	RETURN
	C（黄）*1	⑭	CLR
	D（青）*1		
⑦	数字1～9、0、+10*1		

■ビデオデッキテレビとの複合機などの操作

使用できるボタン			
②	GUIDE	⑨	⏻SOURCE
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑩	MUTING
④	SETUP	⑪	CH +/–
⑤	►、II、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I	⑫	PREV CH
		⑬	RETURN
⑦	数字1～9、0、+10	⑭	CLR
⑧	DISPLAY		

■衛星放送チューナー/ケーブルテレビチューナーの操作

使用できるボタン			
②	GUIDE	⑦	数字1～9、0、+10
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑧	DISPLAY
④	SETUP	⑨	⏻SOURCE
⑤	►、II、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I	⑩	MUTING
		⑪	CH +/–
⑥	A（赤）	⑫	PREV CH
	B（緑）	⑬	RETURN
	C（黄）	⑭	CLR
	D（青）		

■CDプレーヤー/CDレコーダー/MDレコーダーの操作

使用できるボタン			
③	▲/▼/◄/►、ENTER	⑦	数字1～9、0、+10
④	SETUP	⑧	DISPLAY
⑤	►、II、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I	⑨	⏻SOURCE
		⑩	MUTING
⑥	SEARCH	⑪	DISC +/–
	REPEAT	⑭	CLR
	RANDOM		
	MODE		

■カセットテープデッキの操作

使用できるボタン	
⑤	►、◄（リバース再生）、■、◄◄、►►、I◄◄、►►I
⑨	⏻SOURCE
⑩	MUTING

ご注意

- iPod/iPhoneの操作については「iPod/iPhoneを操作する」をご覧ください（➔ P.84）。
- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

*1 RIHD機能には対応していません。本機が提供するRIHD機能は、HDMI規格で定められているCEC（Consumer Electronics Control）システム制御機能を使用して、CECに対応した機器と連動する機能です。

リモコンコード表

複数のコード番号があるときは、１つずつ登録し、機器に合った方を選んでください。

- 形式、年式によって使用できないものがあります。
- 機種によっては操作できないもの、または限られた機能しか操作できないものがあります。

■衛星放送チューナー /ケーブルテレビチューナー / 地上デジタルチューナー

ブランド名	コード番号
Arris	02187
DXアンテナ	01500
富士通ゼネラル	01497
日立	01284
ヒューマックス	00660, 02142, 02447, 03051, 03053, 01377, 01176, 01427, 01675, 01808, 01882, 01915, 02144, 02408, 02616
J:COM	03051, 03053
ビクター /JVC	00775
ケンウッド	00853
マスプロ	00173
NEC	01496
パナソニック	01488, 00847, 01304, 01404, 01982, 03099
フィリップス	00817, 01582, 02294, 02767, 00099, 00853, 00173, 01114, 00887, 00133, 02211
パイオニア	00853, 01308, 01500, 01877
サムスン	01877, 01060, 01666, 02015, 02774, 01377, 00853, 01175, 01206, 01458, 01662, 02986
Scientific Atlanta	01877, 00858, 01982, 02345
ソニー	01460, 00847, 00853, 01558, 02299
住友電工	01500
ティアック	01251
東芝	01284, 01509
ビデオトロン	01877

■IPテレビ

ブランド名	コード番号
Scientific Atlanta	00858, 02345

■IPテレビ/PVR一体型

ブランド名	コード番号
フィリップス	02294
Scientific Atlanta	00858

■CDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	70157
デノン	70626, 70766
日立	70032
インテグラ	70101, 71817
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70036, 70157, 70626
マランツ	70029, 70157, 70626
オンキヨー	71817
パナソニック	70029, 70303
フィリップス	70157, 70626
パイオニア	70032, 70101
サンスイ	70157
ソニー	70000, 70490
テクニクス	70029, 70303
ヤマハ	70032, 70036, 70490

■CDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	70626, 70766
ビクター /JVC	70072
ケンウッド	70626
マランツ	70626
オンキヨー	71323
フィリップス	70626
ソニー	70000

■MDレコーダー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	70868
ソニー	70000, 70490
ヤマハ	70490

■カセットデッキ

ブランド名	コード番号
アイワ	40029
デノン	40076
ビクター /JVC	40244
ケンウッド	40070
マランツ	40029
オンキヨー	42157
フィリップス	40029
パイオニア	40027
サンスイ	40029
ソニー	40243
ヤマハ	40097

■アクセサリ

ブランド名	コード番号
Apple	81115
Jamo	82228
Logitech	82182
オンキヨー	81993, 82351, 82990
Polk Audio	82228

■ビデオアクセサリ

ブランド名	コード番号
Apple	02615
フィリップス	02294
Scientific Atlanta	00858, 02345

■レシーバー

ブランド名	コード番号
オンキヨー	52503

■テレビ

ブランド名	コード番号
バイ・デザイン	12140, 12209
DXアンテナ	11817, 13817
富士通ゼネラル	10809
フナイ	11817, 10171, 10668, 10714, 11037, 11394, 11666, 13817
日立	10150, 10178, 10037, 10634, 11037, 10508, 10499, 10578, 11576, 11585, 11643, 11667, 11691, 12433
ヒューマックス	11295
Hyundai	11037, 10698
ビクター /JVC	11428, 10508, 10650, 10653, 11601, 12271
LG	10178, 10556, 10037, 10714, 10715, 10698, 11423, 11768, 11840, 12182, 12358, 12424, 12834
マランツ	11454, 10556, 10037
三菱	11171, 10037, 10150, 10178, 10512, 10556, 11037, 11250
ナショナル	10208, 10508
NEC	10178, 10499, 10508, 10653
オリオン	10037, 10556, 10714, 11037, 12001
パナソニック	11480, 10037, 10650, 10508, 10208, 11636, 12170
フィリップス	10178, 10171, 11454, 10556, 10037, 10512, 10605, 10690, 11394, 11506, 11867, 12372
パイオニア	10037, 10698, 10512, 11457, 11636, 12171
サムスン	10178, 10556, 10037, 10618, 10650, 10208, 12051
サンヨー	11037, 10508, 10208, 11142, 11585, 11667, 11974
シャープ	11165, 10650, 10818, 11423, 11659
ソニー	10810, 11505, 11167, 11651, 11825
ティアック	10178, 10171, 10037, 10714, 10668, 11037, 10698, 10512, 11248, 11363, 11709, 11755
テクニクス	10556, 10650
Teco	10178, 10653
東芝	10195, 11037, 10618, 10650, 10508, 11169, 11508, 11524, 11652, 12203
ユニデン	12122
ウェスティングハウス	11755
ヤマハ	10650, 11576

■ビデオデッキ

ブランド名	コード番号
ヒューマックス	20739
パナソニック	20614, 20616
フィリップス	20739
ソニー	20636

■DVDプレーヤー

ブランド名	コード番号
アイワ	30533
デノン	30490, 30634, 31634, 32258, 32748
フナイ	30675
日立	30573, 30713, 31664
ヒューマックス	30646
インテグラ	30503, 30571, 30627, 31612, 31634, 32147
ビクター /JVC	30503, 30539, 30623, 30867, 31597, 31602, 32855
ケンウッド	30490, 30534
LG	30741, 31602
ラックスマン	30573
マランツ	30539, 32414, 32432, 33444
三菱	30713
NEC	30741, 31602
オンキヨー	30503, 30627, 31612, 32147, 30571, 31634
オリオン	30713
パナソニック	30503, 30490, 31579, 31641, 32523, 32710, 32859
フィリップス	30503, 30539, 30646, 30675, 30713, 31340, 31354, 32056, 32084, 32434, 32689
パイオニア	30571, 30142, 30631, 31571, 32442, 32860
サムスン	30490, 30573, 30199, 30820, 31635, 32069, 32329, 32489, 33195
サンヨー	30713
シャープ	30630, 30675, 30713, 32250, 32474, 32652, 32869
ソニー	30533, 30864, 31033, 31070, 31431, 31516, 31633, 32180
ティアック	30571, 30741, 30675, 31394
テクニクス	30490
東芝	30503, 31639, 32277, 32551, 32705, 33157
ヤマハ	30490, 30539, 30646, 30817, 31354, 32298, 32299

■ ブルーレイディスクプレーヤー

ブランド名	コード番号
デノン	32258, 32748
LG	30741, 31602
マランツ	32414, 32432, 33444
パナソニック	31641, 32523, 32859
フィリップス	32084, 32434, 32689
パイオニア	30142, 32442
サムスン	30199, 33195
フナイ	30675
シャープ	32250, 32474, 32652
ソニー	31516, 32180
東芝	32551, 32705, 33157
ヤマハ	32298, 32299

■ DVDレコーダー

ブランド名	コード番号
デノン	30490
フナイ	30675
日立	31664
ヒューマックス	30646
ビクター /JVC	31597
LG	30741
パナソニック	30490, 31579, 32523, 32710, 32859
フィリップス	30646, 31340
パイオニア	30631, 32860
サムスン	30490, 31635
シャープ	30630, 30675, 32869
ソニー	31033, 31070, 31431, 31516, 31633, 32180
東芝	31639, 32277, 32551
ヤマハ	30646

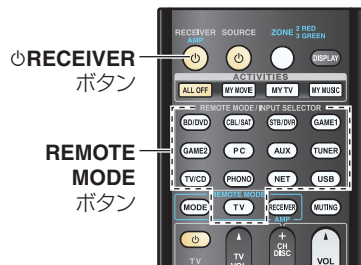
■ テレビ/DVD一体型、テレビ/VCR一体型

ブランド名	コード番号
アイワ	21137
日立	11037, 11667, 30713
ビクター /JVC	12271
LG	10178, 11423, 20037
三菱	10556, 20081
パナソニック	12170
フィリップス	10037, 10556, 11454, 30539, 11394
シャープ	10818
ソニー	11505
ティアック	10171, 10178, 10698
テクニクス	10556
東芝	11524

ご注意

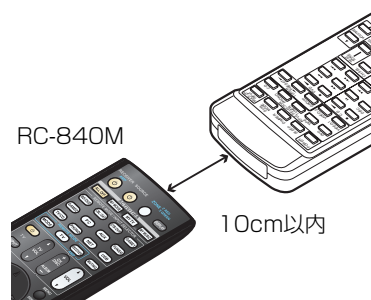
- 製品によっては動作しないボタンがあります。また、製品を操作できない場合もあります。

他機のリモコンから操作を学習させる

他機のリモコンの操作を１つずつ転送し、本機のリモコンに学習させることができます。
たとえば、他機のCDプレーヤーのリモコンから再生機能を転送し、本機リモコンのCDモードの再生ボタンに学習させることができます。
リモコンコードを登録した後で、不足している操作や追加したい操作を1つずつ学習させると便利です（➔ P.86）。

1 **学習させたいREMOTE MODE（リモート モード）ボタンを押しながら、⏻RECEIVER（レシーバー）ボタンをREMOTE MODEボタンが点灯するまで（約3秒）押す**

2 **本機のリモコン（RC-840M）の学習させたい操作ボタンを押す**

3 **学習させる他機のリモコンボタンを押す**

他機のリモコンと本機のリモコン（RC-840M）を10cm以内に置き、他機のリモコンボタンを本機のリモコンに向かって押し続けます。

正しく学習できると**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅します。

4 **別の操作ボタンを学習する場合は、手順2、3をくり返す**

学習を終了する場合は、**REMOTE MODE**ボタンを押す。**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅します。

ご注意

- ⏻**RECEIVER**ボタン、**ALL OFF**（オール オフ）ボタン、**MY MOVIE**（マイ ムービー）ボタン、**MY TV**ボタン、**MY MUSIC**（ミュージック）ボタン、**REMOTE MODE**ボタン、**MODE**ボタンは新しい操作を学習できません。
- 本機のリモコンは、基本的に70～90個の操作を学習できます。他機のリモコンによっては、ひとつのボタンで多くのメモリーを使用する場合があります。その場合、学習できる操作は70～90個より少なくなります。
- 本機のリモコンは、オンキヨー製CDプレーヤー、チューナー、テープデッキ、DVDプレーヤーのコードをすでに記憶しています。これらのボタンに他のコードを記憶させることもできますが、リセットすると元のコードに戻ります（➔ P.87）。
- コードが登録されているボタンに、新しいコードを上書きして記憶する時も同じ手順で操作します。
- リモコンによっては、意図した通りに働かず、まったく学習できない場合があります。
- 本機のリモコンはほとんどのリモコンと同様に赤外線を利用しています。しかし、リモコンによっては、転送システムの違いによってコードを転送できないものがあります。
- 電池切れなどの理由でリモコンコードが消えてしまった場合のために、他機のリモコンは大切に保管しておいてください。

■学習した操作を消去するには

1. 消去したい操作を学習した**REMOTE MODE**ボタンを押しながら、**REMOTE MODE**ボタンが点灯するまで⏻**TV**ボタンを（約3秒）押します。
2. モード内の学習した操作をすべて消去したいときは、その**REMOTE MODE**ボタンを押し、学習したボタンごとに消去するときは、そのボタンを押します。**REMOTE MODE**ボタンが2回点滅して学習した操作が消去されます。

標準マクロを使う

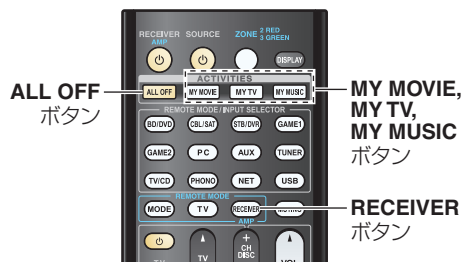
マクロ機能とは

連続した操作を1つのボタンに学習させることができます。たとえば、リモコンを使って本機に接続したCDプレーヤーを再生するには以下のようなボタン操作が必要となります。

1. **RECEIVER**ボタンを押し、リモコンをRECEIVERモードにします。
2. ⏻**RECEIVER**ボタンを押し、本機の電源を入れます。
3. **TV/CD**ボタンを押し、本機の入力をTV/CDに切り換えます。
4. ►ボタンを押し、CDプレーヤーを再生します。

これらの操作を下記の手順でマクロ学習させると、1つのボタンで操作することができます。

マクロを学習させる

MY MOVIEボタン、**MY TV**ボタン、**MY MUSIC**ボタンにそれぞれマクロを学習させることができます。1つのマクロに対して32個までの操作を学習させることができます。

1 **RECEIVERボタンを押しながら、MY MOVIEボタン（またはMY TVボタンかMY MUSICボタン）が点灯するまでMY MOVIEボタン（またはMY TVボタンかMY MUSICボタン）を（約3秒）押す**

2 **記憶させたい操作ボタンを操作順に連続して押す**

例：CDを再生する

1. ⏻**RECEIVER**ボタンを押す
2. **TV/CD**ボタンを押す
3. ►ボタンを押す

3 **手順1で押したボタン（MY MOVIE、MY TVまたはMY MUSIC）を押す**

ACTIVITIESボタンが2回点滅し、学習が完了します。

32個目の操作を学習すると自動的に学習を完了します。

ご注意

- マクロの学習操作中は、**MODE**ボタンの機能は無効です。
- マクロを学習させた後、そこに含まれるボタンに他の操作を上書き学習させると、誤動作の原因になります。再度マクロ学習を行ってください。
- 32個以上の操作を学習させることはできません。
- どのボタンに何の操作を学習させたかをメモしておくことをおすすめします。

マクロを実行する

1 **操作したいボタン（MY MOVIEボタンかMY TVボタンまたはMY MUSICボタン）を押す**

マクロの操作は登録された順番に転送されます。転送が完了するまで、リモコンをAVレシーバーに向けてください。

マクロは選んでいるリモートモードに関係なく、いつでも実行できます。

マクロを消去する

1 **HOMEボタンを押しながら、ALL OFFボタンが点灯するまでALL OFFボタンを約3秒押す**

2 **もう一度ALL OFFボタンを押して消去する**

ALL OFFボタンが2回点滅します。

ご注意

- マクロを消去すると簡単マクロモードに切り換わります。
- 標準マクロモードでの操作中は、簡単マクロモードの簡単マクロ操作によるソース機器の切り換えはできません。

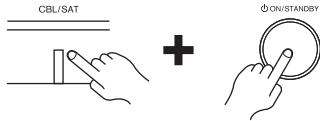
困ったときは

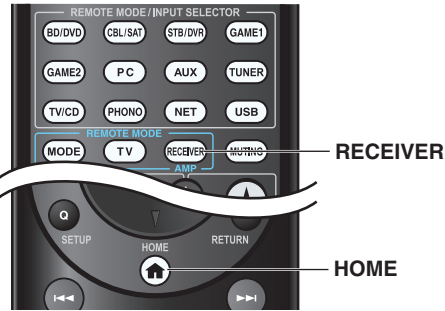
まず下記の内容を点検してみてください（文章の最後にある数字は参照ページ数です）。接続した他機に原因がある場合もありますので、他機の取扱説明書も参照しながらあわせてご確認ください。
オンキヨーホームページからも、製品の取り扱い方法やFAQ（よくあるご質問）をお調べいただくことができます。
http://www.jp.onkyo.com/support/

ヒント

修理を依頼される前に

本機が動作しなくなったり、操作ができなくなったときは、本機をリセットして、すべての設定をお買い上げ時の状態に戻すことで、トラブルが解消されることがあります。
修理を依頼される前に、下記の手順で本機をリセットしてみてください。
電源を入れた状態でCBL/SATボタンを押したまま、
⏻ON/STANDBY（オン スタンバイ）ボタンを押す

表示部に「Clear（クリア）」が表示されて、スタンバイ状態に戻ります。

初期設定に戻すと、ユーザー設定が消去されます。

リモコンを出荷時の初期設定に戻すには

RECEIVER（レシーバー）ボタンを押しながら、**RECEIVER**ボタンが点灯するまで**HOME**（ホーム）ボタンを3秒以上押します。30秒以内に**RECEIVER**ボタンをもう一度押してください。

操作画面は、本機とHDMI接続しているテレビのみに表示されます。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体表示部を見ながら操作してください。

電源

■電源が入らない

電源プラグがコンセントから抜けていないか確認してください。

一度電源プラグをコンセントから抜き、5秒以上待ってから、再度コンセントに差し込んでください。

■本機の電源が切れる場合

自動スタンバイが作動すると、自動的にスタンバイ状態になります。 80

■電源が切れ、再度電源を入れてもまた切れる

保護回路が動作しています。すぐにコンセントから電源コードを抜いてください。すべてのスピーカーコードと入力ソースの接続を確認して異常がなければ、電源コードを抜いた状態で1時間待ちます。
そのあと、電源コードを差し込んで、本機の電源を入れてください。
それでもなお電源が切れる場合は、電源コードを抜いて、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。
ご注意：表示部に「CHECK SP WIRE」が表示された場合は、スピーカーコードがショートしている可能性があります。 16

⚠ 警告

煙が出ている、変なにおいがする、異様な音がするなど、少しでも異常を感じたら、すぐに電源プラグをコンセントから抜き、お買い上げ店またはオンキヨー修理窓口にご連絡ください。

音声

■音声が出力されない/小さい

適切なデジタル入力ソースが選ばれていることを確認してください。 62

接続ケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。 19

接続した機器の入力端子/出力端子に間違いがないか確認してください。 20-23

スピーカーコードの ⊕ / ⊖ は正しく接続されているか、むき出しの芯線部分がスピーカー端子の金属部分と接触していないか確認してください。 16

入力が正しく選択できているか確認してください。 28

スピーカーコードがショートしていないことを確認してください。 16

ボリューム位置を確認してください。本機は基本的にMin、0.5…99.5、Max（100）まで調整できます。一般のご家庭で60前後までボリュームを上げていても、正常な範囲です。

表示部の**MUTING**表示が点滅している場合、リモコンの**MUTING**ボタンを押してミューティングを解除してください。 53

ヘッドフォンを**PHONES**端子に接続しているときは、スピーカーから音は出ません。 53

HDMI IN端子に接続したDVDプレーヤーから音が出ない場合は、DVDプレーヤーの出力設定を確認し、対応している音声フォーマットを選んでください。

接続した機器でのデジタル音声出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定がOFFになっていることがあります。

一部のDVD-Videoディスクでは、メニューから音声出力形式を選ぶ必要があります。

MCカートリッジタイプのレコードプレーヤーをお使いの場合は、昇圧トランスまたはMCヘッドアンプとフォノイコライザが必要です。

接続ケーブルが、折れ曲がったり、ねじれたり、破損したりしていないことを確認してください。

リスニングモードによっては、音声が出力されないスピーカーがあります。 42

自動スピーカー設定をもう一度行うか、スピーカーの「有/無」と「クロスオーバー周波数」、「距離」、「音量」設定を手動で行ってください。 63～65

測定用マイクを接続したままになっていないことを確認してください。

入力信号フォーマットが「**PCM**」または「**DTS**」に設定されている場合は、「**オフ**」に設定してください。 76

■フロントスピーカーからしか音が出ない

StereoまたはMonoのリスニングモードを選んでいる場合は、フロントスピーカーとサブウーファーからしか音が出ません。

「**出力スピーカー**」設定で「**左 / 右**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではフロントスピーカーからしか音が出ません。 68

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■センタースピーカーからしか音が出ない

テレビやAM放送などモノラル音源を再生するときに、リスニングモードをDolby Pro Logic IIまたはDolby Pro Logic IIxにすると、センタースピーカーに音が集中します。

「**出力スピーカー**」設定で「**センター**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではセンタースピーカーからしか音が出ません。 68

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■サラウンドスピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereoやMono、T-D（Theater-Dimensional）のときは、サラウンドスピーカーから音が出ません。

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■センタースピーカーから音が出ない

リスニングモードがStereo、Monoのときは、センタースピーカーから音が出ません。

「**出力スピーカー**」設定で「**左 / 右**」を選んでいる場合、Monoリスニングモードではセンタースピーカーから音が出ません。 68

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■フロントハイスピーカー、フロントワイドスピーカーやサラウンドバックスピーカーから音が出ない

入力信号やリスニングモードによっては、音が出にくい場合があります。ほかのリスニングモードを選んでみてください。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■サブウーファーから音が出ない

入力信号にサブウーファー音声要素（LFE）が入っていない場合、サブウーファーから音が出ないことがあります。

スピーカーの設定が正しく行われていることを確認してください。 64

■希望する信号フォーマットで聴くことができない（Dolby Digital、DTSやAACのフォーマットにならない）

Dolby Digital、DTSやAACの音声を聴くためには、デジタル接続が必要です。

デジタル入力端子の設定の確認を行ってください。初期設定と違う接続をした場合には、設定し直す必要があります。	62
接続した機器でのデジタル出力の設定を確認してください。DVD対応のゲーム機など、機器によっては初期設定でデジタル出力がOFFになっていることがあります。	

■Pure Audioリスニングモードが選べない

ゾーン2/ゾーン3がオンの場合、Pure Audioリスニングモードは選べません。	

■希望するリスニングモードが選べない

スピーカーの接続状況によっては選択できないリスニングモードがあります。「リスニングモード」でご確認ください。	45

■6.1/7.1再生ができない

サラウンドバックスピーカー、フロントワイドスピーカー、フロントハイスピーカーが接続されていない場合、6.1/7.1再生はできません。	
接続されているスピーカーの数によっては、全てのリスニングモードを選ぶことはできません。	42～50

■音量に関する設定が希望通りにならない

付属の測定用マイクで自動スピーカー設定をした場合や、「**スピーカー音量レベル**」、「**最大ボリューム値**」の設定を変更した場合は、最大音量値が変わる場合があります。	65、78

■ノイズが聴こえる

コード留めを使ってオーディオ用ピンケーブル、電源コード、スピーカーコードなどを束ねると音質が劣化するおそれがあります。コードを束ねないようにしてください。	
オーディオケーブルが雑音を拾っている可能性があります。ケーブルの位置を変えてみてください。	

■レイトナイト機能が働かない

再生ソースがDolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHDのいずれかになっているか確認してください。	57
「**TrueHD Loudness Management**」を「**オフ**」に設定している場合、Dolby TrueHD再生時のレイトナイト機能は効果がありません。	69

■DTS信号について

DTS信号を再生しているときは、本機の**dts**表示が点灯します。プレーヤー側での一時停止やスキップ操作時に発生するノイズを防ぐため、再生が終了しても**dts**表示が点灯したままになります。このため、DTS信号から急にPCM信号に切り換わるタイプのソフトは、PCMがすぐに再生されない場合があります。このときはプレーヤー側で再生を約3秒以上中断し、再び再生を行うと正常に再生されます。	
一部のCDまたはLDプレーヤーでは、本機とデジタル接続をしても正しくDTS再生ができない場合があります。出力されているDTS信号に何らかの処理（出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など）が行われていると、本機が正しいDTS信号とみなすことができず、ノイズを発生することがあります。	
DTS対応ディスクを再生しているときにプレーヤー側で一時停止やスキップなどの操作をすると、ごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。	

■HDMIに入力した音声の冒頭部分が聴こえない

HDMI信号は、ほかの音声信号に比べて認識するのに時間がかかるため、音声がすぐに出力されない場合があります。	

■ホールハウスモードの間、音が出ない。

アナログ音声入力が選ばれているか確認してください。	52

映像

■映像が出ない/乱れる

すべての接続ケーブルのプラグがしっかり差し込まれていることを確認してください。	19
各映像機器が正しく接続されていることを確認してください。	20、21
テレビを本機のHDMI出力端子に接続しているときは「**モニター出力設定**」を出力端子に合わせて「**主**」または「**サブ**」に設定してください。再生ソースがビデオ（コンポジット）、コンポーネント/D4ビデオの場合、HDMI 出力端子から出力してテレビで映すには「**HDMI入力**」設定を「- - - - -」にしてください。	20、61
映像機器をコンポーネント/D4ビデオ入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を割り当て、**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT/D4 VIDEO OUT**端子またはHDMI出力端子にテレビを接続してください。	21、62
映像機器をコンポジットビデオ入力端子に接続している場合は、**MONITOR OUT V**端子またはHDMI出力端子にテレビを接続してください。	21
映像機器をHDMI入力端子に接続している場合は、入力切換にその入力を設定し、HDMI出力端子にテレビを接続してください。	20、61
リスニングモードがPure AudioになっているとHDMI入力端子から入力された映像以外の映像は出ません。	

テレビなど、モニター側での入力画面の切り換えを確認してください。	
コンポジットビデオ入力端子から入力された映像が出ない場合は、選んでいる入力切換にコンポーネント/D4ビデオ入力端子が設定されていないか確認してください。設定されていると、その入力切換ではコンポジットビデオ入力端子から入力された映像は出力されません。コンポジットビデオ入力端子接続のみお使いの場合は、コンポーネント/D4ビデオ入力端子の設定を「- - - - -」にしてください。	62
コンポジットビデオ入力端子に接続した機器の映像を、**COMPONENT VIDEO MONITOR OUT/D4 VIDEO OUT**端子に接続したテレビなどのモニターへ変換して出力することはできません。	

■HDMI入力端子に接続した機器の映像が出ない

HDMI-DVIアダプターを使っている場合は、正常な動作は保証されません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。	110
HDMI入力端子から入力した映像が出ないとき、本機の表示部に「Resolution Error」と表示されていませんか？この場合テレビが、プレーヤーから入力した映像の解像度に対応していません。プレーヤー側で設定を変更してください。	

■設定画面表示が出ない/操作内容が画面に表示されない

ご使用のテレビなど、モニター側の設定を確認してください。	
「**OSD設定**」で「**オンスクリーンディスプレイ**」を「**オン**」にしてください。	78
設定画面は**HDMI OUT MAIN**端子に接続しているテレビまたはモニターのみに表示されます。	

AM/FM放送に関して

■放送に雑音が入る/FMステレオ放送の時、サーというノイズが多い

FM放送で「FM STEREO」表示が完全に点灯しない

アンテナの接続をもう一度確認してください。	24
アンテナをスピーカーコードや電源コードから離してください。	
テレビやコンピューターから離してください。	
近くに自動車が走っていたり飛行機が飛んでいると雑音が入ることがあります。	
電波がコンクリートの壁等で遮断されていると放送が受信しにくくなります。	
モノラル受信に変更してみてください。	37
AM受信時リモコンを操作すると雑音が入る場合があります。	
それでも受信状態が悪い時は市販の屋外アンテナをお薦めします。	

リモコン

■リモコン操作ができない

リモコンで本機を操作する場合は、必ず**RECEIVER**ボタンを押してください。	
電池の極性を間違えて挿入していないか確認してください。	7
新しい電池を入れてください。種類が異なる電池、新しい電池と古い電池を一緒に使用しないでください。	7
リモコンと本機が離れ過ぎていないこと、リモコンと本機のリモコン受光部の間に障害物がないことを確認してください。	7
本体の受光部が直射日光やインバータータイプの蛍光灯の光に当たらないようにしてください。必要に応じて位置を変えてください。	
本体を色付きのガラス扉が付いたラックやキャビネットに設置していると、扉が閉じているとリモコンが正常に機能しないことがあります。	
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	13、87
リモコンを使って他社製のAV機器を操作する場合は、一部のボタンが正しく動作しないことがあります。	
適切なリモコンコードが入力されていることを確認してください。	86
本体とリモコンに同じリモートIDを設定してください。	81

■RI専用リモコンコードを使ったオンキヨー製他機器の操作ができない

オンキヨー製他機器とRIケーブルが正しく接続されているか確認してください。RIケーブルを接続している場合、オーディオ用ピンケーブルも接続してください（RIケーブルだけでは正しく連動しません）。	23
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	13、87
入力表示が正しく設定されているか確認してください（例：**TV/CD**端子にカセットテープデッキを接続した場合や、**GAME 1**端子にRIドックを接続した場合）。	52
もう一度、RI専用リモコンコードを入力し直してください。	86
RI専用リモコンコードを入力したときは、リモコンを本機のリモコン受光部に向けてください。	86

■オンキヨー製機器（RI連動なし）や他メーカー機器の操作ができない

他機器との接続が正しいか確認してください。	
もう一度リモコンコードを入力してください。複数のコードがある場合は、他のコードも試してください。	86

リモコンのモード切り換えが正しく選択されているか確認してください。	13、87～92
リモコンをそれぞれの機器の受光部に向けて操作してください。	
製品によっては動作しない場合もあります。	

■他機のリモコンの操作を学習できない

他機のリモコンの操作の学習が正しく行われていることを確認してください。	93
リモコンによっては、転送システムの違いなどにより、意図した通りに働かず、まったく学習できない場合があります。	

RI ドック

■音が出ない

iPod/iPhoneが再生していることをご確認してください。	
iPod/iPhoneがドックに正しく接続されているか確認してください。	
本機の電源が入っているか、適切な入力が選ばれているか、音量が小さくなっていないか確認してください。	
接続コードやケーブルのプラグは奥まで差し込んでください。	
一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。	

■映像が出ない

iPod/iPhoneのテレビ出力設定が有効に設定されているか確認してください。	
本機またはテレビで適切な入力が選ばれているか確認してください。	
iPod/iPhoneの機種・世代によっては、映像は出力されません。	

■iPod/iPhoneが本機のリモコンで操作できない

iPod/iPhoneがドックにしっかり接続されているか確認してください。iPod/iPhoneをケースなどに入れている場合は、完全に接続できないことがありますので、必ずケースをはずして接続してください。	
iPod/iPhoneの表示部にAppleロゴが表示されている間は操作できません。	
適切なリモートモードが選ばれていることを確認してください。	
本機のリモコンで操作する場合、リモコンは本機に向けて操作してください。	
リモコン操作をする前に、iPod/iPhone本体で再生させてセレクタを認識させる必要のある場合があります。	
一度iPod/iPhoneをリセットしてみてください。	
iPod/iPhoneの機種・世代によっては、特定のボタンが意図したとおりに機能しない場合もあります。	

■本機の入力が勝手に切り換わる

iPod/iPhoneの再生を一時停止しておいてください。iPod/iPhone再生検出機能により、再生曲が切り換わったときなどに、本機の入力が切り換わってしまいます。	

■iPod/iPhoneが正しく動作しない

一度iPod/iPhoneをドックから抜き、再度接続してみてください。	

ゾーン2/ゾーン3

■音が出ない

ゾーン2/ゾーン3はアナログ入力の場合のみ音が出ます。再生機器がアナログ入力されていることを確認してください。	

NET/USB機能

■ネットワークサーバーが使用できない

NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。	
ネットワークサーバーが起動しているか確認してください。	
ネットワークサーバーがホームネットワークに正しく接続されているか確認してください。	
ネットワークサーバーが正しく設定されているか確認してください。	
ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。	
本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。	80

■ネットワークサーバーで音楽ファイルを再生しているときに音が途切れる

ネットワークサーバーが動作に必要な条件を満たしているか確認してください。	111、113
パソコンをネットワークサーバーにしている場合、サーバーソフトウェア（Windows Media Player 11など）以外のアプリケーションソフトを終了させてみてください。	
パソコンで大きな容量のファイルをダウンロードしたりコピーしている場合は再生音が途切れる場合があります。	

■インターネットラジオが聴けない

特定のラジオ局だけが聴けない場合は、登録したURLが正しいか、またラジオ局から配信されているフォーマットが本機の対応しているものか確認してください。	
NET表示が点滅している場合、本機がホームネットワークに正しく接続できていません。	
モデムとルータが正しく接続され、電源が入っているか確認してください。	

他の機器からインターネットに接続できるか確認してください。できない場合、ネットワークに接続されているすべての機器の電源をオフにし、しばらくしてからオンにしてみてください。	
ルータのLAN側ポートと本機が正しく接続されているか確認してください。	
本機の「**ネットワーク**」設定で正しいIPアドレスが割り当てられているか確認してください。	80
ISPによってはプロキシサーバーを設定する必要があります。	
お使いのISPがサポートしているルータやモデムを使用しているか確認してください。	

■インターネットブラウザで本機の情報を表示できない

インターネットブラウザに本機のIPアドレスが正しく入力されているか確認してください。	
IPアドレスの割り当てにDHCPを使用している場合、本機のIPアドレスが変わっている可能性があります。	
本機とパソコンの両方が正しくネットワークに接続されているか確認してください。	

■USBストレージが表示されない

USBメモリーやUSBケーブルが本機の**USB**端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。	
USBストレージをいったん本機から外し、再度接続してみてください。	
本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。	
セキュリティ機能付きのUSBメモリーの動作は保証できません。	

その他

■待機時消費電力について

次の場合は、待機時消費電力が最大12.0Wになる場合があります。 -「**ネットワーク**」設定の「**ネットワークスタンバイ**」設定が「**オン**」の時 -「**HDMI コントロール(RIHD)**」の設定が「**オン**」の時（ただし、テレビの状態により通常の待機時消費電力モードになります） -「**HDMIスルー**」設定を「**オフ**」以外に設定している時	78、79、80
AUX（フロント）入力端子に接続しているMHL（Mobile（モバイル） High（ハイ）-definition（ディフィニション） Link（リンク））対応の携帯端末を充電している場合、スタンバイ状態での消費電力が増加します。	

■ヘッドホンを接続すると音が変わる

Direct（ダイレクト）、Pure Audio（ピュア オーディオ）、Mono（モノ）以外のリスニングモードを選択している場合は、ヘッドホンを接続すると自動的にStereo（ステレオ）になります。	53

■表示部に表示が出ない

リスニングモードがPure Audioになっていると表示が消えます。	

■多重音声の言語を切り換えたい

「**多重音声**」の「**入力チャンネル**」設定で「**主**」または「**副**」を選択します。	68

■RI連動機能が働かない

RIケーブルの接続だけではシステムとして働きません。オーディオ用ピンケーブルも正しく接続してください。	23
ゾーン2/ゾーン3を選んでいる場合、連動機能は働きません。	23

■RI接続している機器でシステムオン、オートパワーオン、ダイレクトチェンジの機能が働かない

ゾーン2/ゾーン3への出力をオンにしている場合、連動機能は働きません。	23

■自動スピーカー設定中に「騒音が大きすぎます。」というメッセージが出る

お使いのスピーカーに異常があることも考えられます。スピーカーの出力などを点検してみてください。	

■スピーカーの距離設定が希望通りにならない

設定する数値がホームシアターに適した数値に矯正されることがあります。	

■本体表示部が暗い

Dimmer（ディマー）機能が働いていませんか？**DIMMER**ボタンを押して、表示部の明るさを変えてください。	51

■ コンポジットビデオ入力に関する設定

設定する入力切換ボタンを押しながら、表示部に「Video ATT：On」が表示されるまで**SETUP**ボタンを押します。設定を再開するには、上記の手順で表示部に「Video ATT：Off」が表示されるまでボタンを押してください。

- Video Attenuation

  この設定ができる入力切換ボタンは**BD/DVD**、**CBL/SAT**、**STB/DVR**、**GAME 1**、**AUX**、**USB**です。

  ゲーム機などを本機の映像入力端子に接続してテレビやプロジェクターに出力しているとき、映像が鮮明でない場合は以下の設定を変更することで画質が改善されることがあります。

  Video ATT：Off：（お買い上げ時の設定）

  Video ATT：On：信号は以下のように減衰されます。

  - HDMI出力の場合、２ｄＢ単位で信号を減衰
  - **MONITOR OUT V**出力の場合、６ｄＢ単位で信号を減衰

ご注意

- **USB**は、iPod/iPhoneを接続して、Extended Mode (映像)かStandard modeを選択している場合のみ、設定できます。

■ HDMI出力端子に接続しているテレビ/モニターの映像が安定しない場合、DeepColorの機能をオフに切り換えてみてください

DeepColor機能をオフにするには、**STB/DVR**ボタンと⏻**ON/STANDBY**ボタンを同時に押してください。

STB/DVRボタンを押しながら、表示部に「Deep Color:Off」が表示されるまで⏻**ON/STANDBY**ボタンをくり返し押してください。DeepColor機能をオンするには、上記の手順で「Deep Color: On」が表示されるまでボタンを押してください。

本機はマイクロコンピューターにより高度な機能を実現していますが、ごくまれに外部からの雑音や妨害ノイズ、また静電気の影響によって誤動作する場合があります。そのようなときは、電源プラグを抜いて、約５秒後にあらためて電源プラグを差し込んでください。

製品の故障により正常に録音・録画できなかったことによって生じた損害（CDレンタル料等）については保証対象になりません。

大事な録音をするときは、あらかじめ正しく録音･録画できることを確認の上、録音･録画を行ってください。

本機の電源コードをコンセントから抜くときは、本機をスタンバイ状態にしてから抜いてください。

映像機器をお楽しみいただく際のご注意

本機では、コンポジットビデオ端子やコンポーネントビデオ端子（またはD4ビデオ端子）に接続した機器の映像を変換して、HDMI出力端子で接続したテレビなどのモニターに出力することができます。

ただし、ビデオデッキなどの映像機器の信号に乱れが多い場合は、テレビで映像が乱れたり、映像を表示しなくなったりする場合があります。

次の方法をお試しください：

■ 本機と映像機器をコンポジットビデオ端子で接続したときは、本機とテレビも MONITOR OUT V 端子で接続する

■ 本機と映像機器をコンポーネントビデオ端子（またはD4ビデオ端子）で接続したときは、本機とテレビもCOMPONENT VIDEO MONITOR OUT(またはD4 VIDEO OUT端子）で接続する

本機と映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 1**端子（または**D4 VIDEO IN 1**）で接続している場合、「**1.入力/出力端子の割り当て**」の「**コンポーネント映像入力**」設定で映像機器を接続している入力の設定を「**RCA1(色差入力)**」または「**D4 入力1**」にする。

本機と映像機器を**COMPONENT VIDEO IN 2**端子（または**D4 VIDEO IN 2**）で接続している場合、「**1.入力/出力端子の割り当て**」の「**コンポーネント映像入力**」設定で映像機器を接続している入力の設定を「**RCA2(色差入力)**」または「**D4 入力2**」にする。

ヒント

- 映像変換機能を切るには「**ピクチャーモード**」を「**ダイレクト**」に設定してください（➔ P.74）。

ファームウェアの更新について

ファームウェアの更新には、次のような方法があります：ネットワーク経由で更新する、USB経由で更新する。
お客様の環境に応じて、いずれかの方法で更新してください。操作を始める前に、更新手順をよくお読みください。

■ネットワーク経由で更新する

インターネット接続が必要です。

■USB経由で更新する（➔ P.103）

USBメモリーなどのUSBストレージをご用意ください。32MB以上の容量が必要です。

ご注意

- アップデートの前に、ネットワークの接続を確認してください。
- アップデート中は絶対に本機に接続されているケーブルや機器に触らないでください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- USBカードリーダーに挿入したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。
- 本機は、ハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。
- 本機は、セキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

免責事項

本プログラムおよび付随するオンラインドキュメンテーションは、お客様の責任においてご使用いただくために提供されます。弊社は、法理に関わらず、また不法行為や契約から生じるかを問わず、本プログラムまたは付随するオンラインドキュメンテーションの使用に際して生じたいかなる損害および請求に対して責任を負うものではなく、賠償することもありません。
弊社は、いかなる場合においても、補償、弁済、損失利益または逸失利益、データの損失その他の理由により生じた損害を含む（ただしこれらに限定されない）、特別損害、間接的損害、付随的又は派生的損害について、お客様または第三者に対して一切の責任を負いません。

最新の更新情報につきましては、弊社ウェブサイトをご覧ください。

ネットワーク経由でのファームウェア更新手順

後面パネルのネットワーク接続を利用してファームウェアをアップデートできます。

* 実際の表示と異なる場合がありますが、操作や機能は変わりません。

ご注意

- 本機とテレビの電源が入っていることと、Ethernetケーブルが本機の後面パネルに接続されていることを確認してください。
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやEthernetケーブルを抜き差ししないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約60分程度かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「HDMI コントロール(RIHD)」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ P.78）。
- RS232コネクターとネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- 別室（ゾーン）をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。

更新手順

1 リモコンのRECEIVER（レシーバー）ボタンを押して、HOME（ホーム）ボタンを押す

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体のカーソル、エンターボタンで操作することもできます。

2 「ファームウェアアップデート」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す

本メニューがグレー表示されて選択できない場合は、しばらくお待ちください。

3 「ネットワーク経由のアップデート」を選び、ENTERボタンを押す

アップデートが可能なファームウェアが存在しない場合は、選択項目が表示されない為、選択できません。

4 「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す

本機はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。

5 アップデートが完了すると「Completed!（コンプリーテッド）」というメッセージが本機の表示部に表示される

6 **前面パネルの ⏻ON/STANDBY(オン/スタンバイ) ボタンを押し、本機の電源を切る**

このときリモコンの ⏻**RECEIVER**(レシーバー) ボタンは使用しないでください。
本機の電源が再度自動的に入ります。
これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：

エラー時は、本機の表示部で「**Error!! *-****(エラー)」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）
以下の説明を参照し、確認してください。

■ エラーコード（ネットワーク経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	LANケーブルが認識できません。 LANケーブルを正しく接続してください。 接続方法については、「ネットワーク機器の接続」をご覧ください（➔ P.111）。
-11、-13、*-21、*-28	インターネットに接続できません。 下記の項目を確認してください。 • IPアドレス、サブネットマスク、ゲートウェイアドレス、DNSサーバーが正しく設定されているか確認してください。 • ルータの電源が入っているか確認してください。 • 本機とルータがLANケーブルでつながっているか確認してください。 • ルータの設定を確認してください。設定については、ルータの取扱説明書をご覧ください。 • ネットワーク接続環境によっては、プロキシサーバーを設定する必要があります。設定については、ご利用の回線業者やプロバイダの資料をご確認ください。 それでもインターネットにつながらない時は、DNSサーバーまたはプロキシサーバーが停止している可能性があります。サーバーの稼働状況をプロバイダにご確認ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。 何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：
アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。
ケース3：
ネットワーク環境がない場合は、巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターへご連絡ください。

USB経由でのファームウェア更新手順

USB端子を利用してファームウェアをアップデートできます。

ご注意
- アップデート中は絶対に本機の接続を外したり電源を落としたりしないでください。
- アップデート中は絶対にHDMIケーブルやUSBストレージを抜き差ししないでください。
- アップデート中はPCから本機にアクセスしようとしないでください。
- アップデート完了まで約60分程度かかります。
- アップデート完了後も、お客様が行った諸設定は保持されます。

ファームウェアの更新を始める前に

- 「**HDMI コントロール(RIHD)**」設定を「**オフ**」に設定してください（➔ **P.78**）。
- RS232コネクターとネットワークに接続されたコントロール機器の電源をオフにしてください。
- 別室（ゾーン）をオフにしてください。
- 再生中のインターネットラジオ、iPod/iPhone、USB、または、サーバーなどを止めてください。
- USBストレージ内にデータがある場合は消去してください。

更新手順

1 **お使いのパソコンにUSBストレージを接続し、USBストレージ内にデータがある場合は消去する**

2 **弊社ホームページからパソコンにファームウェア・ファイルをダウンロードする**

ファームウェアには、以下のようなファイル名がついています。

ONKAVR****_************.zip

パソコン上でこのファイルを解凍してください。下記の5つのファイルができます。

ONKAVR****_************.of1
ONKAVR****_************.of2
ONKAVR****_************.of3
ONKAVR****_************.of4
ONKAVR****_************.of5

3 **解凍したファイルをUSBストレージにコピーする**

解凍する前のファイルはコピーしないでください。

4 **上記のUSBストレージを本機のUSB端子に接続する**

AVレシーバーに2つのUSB端子がある場合、どちらか一つを使用してください。

5 **本機とテレビの電源が入っていることを確認する**

本機がスタンバイ状態のときは、⏻**ON/STANDBY**（オン/スタンバイ）ボタンを押して本機の表示部を点灯させます。

6 **入力ソースをUSBにする**

表示部に「Now Initializing...」と表示されたのちUSBストレージ名が表示されます。
USBストレージを認識するのに20～30秒かかります。

7 **リモコンのRECEIVER（レシーバー）ボタンを押してから、HOME（ホーム）ボタンを押す**

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。以降の操作は、本体のカーソル、エンターボタンで操作することもできます。

8 **「ファームウェアアップデート」を選び、ENTER（エンター）ボタンを押す**

9 **「USB経由のアップデート」を選び、ENTERボタンを押す**

アップデートが可能なファームウェアが存在しない場合は、選択項目が表示されない為、選択できません。

10 **「アップデート」を選び、ENTERボタンを押す**

本機はアップデートを開始します。
アップデートが進むと、書き換えるプログラムによっては途中でテレビ画面が消える場合があります。その場合、アップデートの進行状況は本体表示部で確認できます。書き込みが完了して再度電源を入れるまで、テレビ画面には何も表示されません。
アップデート中は電源を切ったり、USBストレージを外したりしないでください。

11 **アップデートが完了すると「Completed!（コンプリーテッド）」というメッセージが本機の表示部に表示される表示がでたら、USBストレージを抜く**

12 **前面パネルの⏻ON/STANDBY（オン/スタンバイ）ボタンを押して本機の電源を切る**

このときリモコンの⏻**RECEIVER**ボタンは使用しないでください。
本機の電源が再度自動的に入ります。
これでアップデートは完了です。本機は最新のファームウェアに更新されました。

トラブルシューティング

ケース1：

エラー時は、本機の表示部で「Error!!（エラー） *-**」と表示されます。（アスタリスクは表示される英数字を表しています。）
エラーコードを参照し、確認してください。

■エラーコード（USB経由のアップデート中）

エラーコード	エラー内容および対処方法
-10、-20	USBストレージが認識できません。USBメモリーやUSBケーブルが、本機のUSB端子にしっかりと差し込まれているか確認してください。USBストレージで外部電源を供給できる製品は、外部電源をご使用ください。
*-14	USBストレージのルートフォルダにファームウェアファイルが存在しない、お使いの機種と異なるファームウェアファイルが使用されている、などが考えられます。サポートページの案内に従って、もう一度ファームウェアファイルのダウンロードからやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。
その他	もう一度最初からやり直してください。何度か同じエラーが出るようでしたら、エラーコードを巻末に記載のオンキヨーオーディオコールセンターまでご連絡ください。

ケース2：

アップデート中にエラーが発生した場合、一度電源プラグを抜き、再度コンセントに差し込み、もう一度アップデートを行ってください。

接続のヒント・映像信号の流れ

本機はさまざまな接続形式に対応しており、各種AV機器を接続できます。どの接続形式を選ぶかは、お使いの機器によって異なります。以下を参考に接続をしてください。

設定画面は、本機とHDMI接続（HDMI OUT MAIN）しているテレビのみに表示されます。本機とテレビを他の映像出力端子で接続している場合は、本体表示部を見ながら設定してください。

映像接続のしくみ

映像関連機器は、ビデオ（コンポジット）、PC IN（アナログRGB）、コンポーネント/D4ビデオ、HDMIの４種類の映像入出力端子に接続できます。一番画質のよい接続形式はHDMIになります。

本機内の映像入力信号の流れは図のとおりです。コンポジット映像入力端子、PC IN（アナログRGB）とコンポーネント/D4映像入力端子から入力された映像信号は、変換されてHDMI出力端子から出力されます。

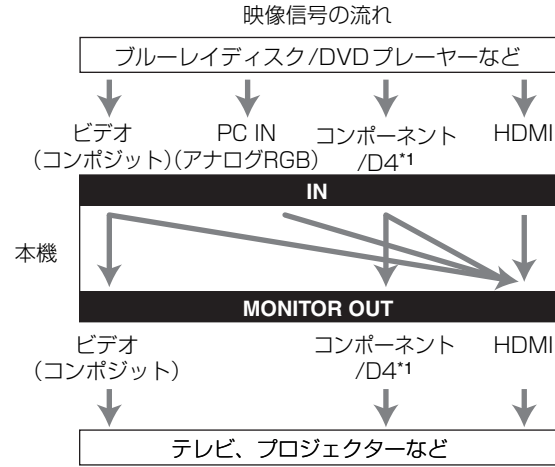
コンポジット映像入力端子とコンポーネント/D4映像入力端子から入力された映像信号は、変換されずに、それぞれに対応する端子からも出力されます。

HDMI入力端子、またはコンポーネント/D4映像入力端子に機器を接続したときは、各入力を割り当てる設定を行ってください（➔ P.61）。

ヒント

- THXは、より良い映像をお楽しみいただくために、同じ入出力の信号は、変換せずにご使用いただくことをおすすめします。（例えば、コンポーネント入力はコンポーネント出力からの信号に設定してください。）
- 映像変換機能を切るには「**ピクチャーモード**」を「**ダイレクト**」に設定してください（➔ P.74）。

■モニター出力設定（Monitor Out）を「主」または「サブ」に設定した場合（➔ P.61）

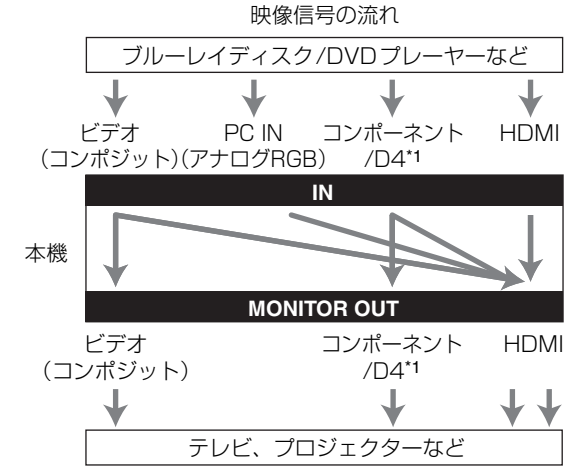
「**モニター出力設定**」を「**主**」または「**サブ**」に設定した場合、入力した映像信号の流れは下図のようになります。

*1 映像機器の映像出力から、モニターの映像入力までD端子で接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

本機の**HDMI OUT MAIN**端子にテレビを接続している場合は「**主**」に、**HDMI OUT SUB**端子にテレビを接続している場合は「**サブ**」に設定してください。

コンポジット映像入力端子、PC IN（アナログRGB）、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。

コンポジット映像入力端子、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

■モニター出力設定（Monitor Out）を「両方」に設定した場合（➔ P.61）

「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定した場合、入力した映像信号の流れは下図のようになります。

*1 映像機器の映像出力から、モニターの映像入力までD端子で接続している場合のみ、アスペクト比などの制御信号を送れます。モニターによっては、制御信号を受け取れないことがあります。その場合は、モニター側で調整してください。

本機の**HDMI OUT MAIN**端子と**HDMI OUT SUB**端子にそれぞれテレビを接続している場合は「**両方**」に設定してください。

コンポジット映像入力端子、PC IN（アナログRGB）、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された映像信号は変換されてHDMI出力端子から出力されます。

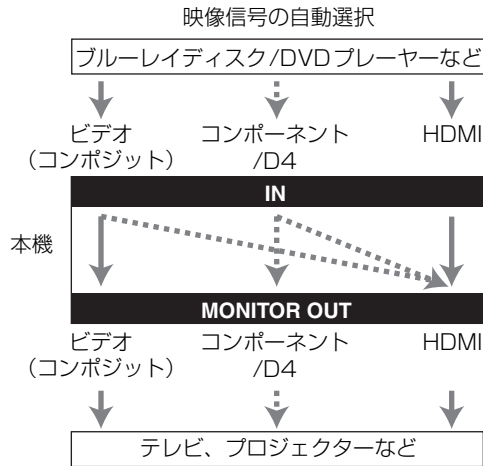
コンポジット映像入力端子、コンポーネント/D4映像入力端子に入力された各映像信号は、そのままそれぞれの出力端子からも出力されます。

ご注意

- 映像信号は両方のHDMI出力端子から、両方のテレビで対応している解像度で出力されます。「**解像度**」の設定は変更できません。

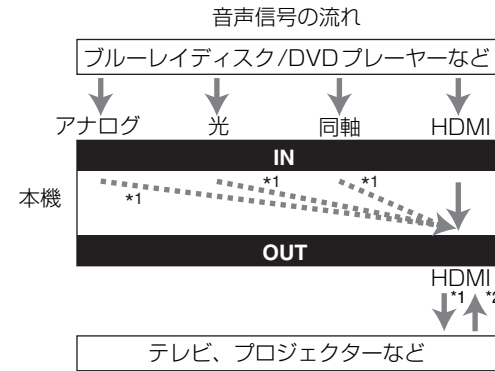
■映像信号の自動選択について

１つの入力系統に、複数の映像信号が入力されている場合は、HDMI、コンポーネント/D4ビデオ、ビデオ（コンポジット）の順で優先出力されます。
ただし、コンポーネント/D4ビデオの場合、信号が入力されてなくても、割り当てを行っていれば、優先されます。また、入力を割り当ててない場合は、信号が入力されていないことになります。
図のように、HDMI入力端子とコンポジット映像入力端子から映像信号が入力された場合、変換されたコンポジット映像入力端子からの映像信号は出力されず、HDMI入力端子からの映像信号が自動的に選ばれて、HDMI出力端子から出力されます。

映像信号の自動選択

音声接続のしくみ

音声関連機器は、アナログ、デジタル（光、同軸）、HDMIの音声入出力端子に接続できます。
本機は、デジタル入力信号を変換して、アナログ出力することはできません（またその逆も行いません）。

１つの入力系統に複数の音声信号が入力されている場合は、HDMI、デジタル（光、同軸）、アナログの順で優先出力されます。

音声信号の流れ

*1「**テレビオーディオ出力**」の設定によって異なります（➔ P.79）。
*2 ARC機能対応テレビで、「**オーディオリターンチャンネル**」を「**自動**」に設定すると（➔ P.79）、テレビの音声が本機に入力されます。「**TV/CD**」入力切換を選び、ARC機能対応テレビである必要があります。

ヒント

- HDMI入力からの音声を出力している場合は、表示部の**HDMI**表示が点灯します。OPTICAL（オプティカル）入力またはCOAXIAL（コアキシャル）入力からの音声を出力している場合は、表示部の**DIGITAL**表示が点灯します。アナログ入力からの音声を出力している、またはHDMI、デジタル信号の入力が割り当てられていない場合、**ANALOG**表示が点灯します。

映像解像度表

入力信号の種類や解像度に対して、本機が出力する映像信号の種類や解像度を調べるときは、下記映像解像度表をご覧ください。

✔：出力できます

入力 ＼ 出力		HDMI							コンポーネント/D4					コンポジット
		4k[*2]	1080p/24	1080p	1080i	720p	480p	480i	1080p	1080i	720p	480p	480i	480i
HDMI	1080p/24	✔	✔[*4]											
	1080p	✔	✔	✔[*4]										
	1080i	✔	✔	✔	✔[*4]	✔								
	720p	✔	✔	✔	✔	✔[*4]								
	480p	✔	✔	✔	✔	✔	✔[*4]							
	480i	✔	✔	✔	✔	✔	✔	✔[*4]						
コンポーネント/D4	1080p	✔	✔	✔[*4*5]					✔					
	1080i	✔	✔	✔[*5]	✔[*4*5]	✔				✔				
	720p	✔	✔	✔[*5]	✔[*5]	✔[*4*5]					✔			
	480p	✔	✔	✔[*5]	✔[*5]	✔[*5]	✔[*4*5]					✔		
	480i	✔	✔	✔[*5]	✔[*5]	✔[*5]	✔[*4*5]	✔[*5]					✔	
コンポジット	480i	✔	✔	✔[*5]	✔[*5]	✔[*5]	✔[*4*5]	✔[*5]						✔
PC IN (アナログ RGB) [*1*3]		✔	✔	✔[*5]	✔[*5]	✔[*5]	✔[*5]							

[*1] 対応解像度：[640 × 480 60 Hz]、[800 × 600 60 Hz]、[1024 × 768 60 Hz]、[1280 × 1024 60 Hz]
[*2] 対応解像度：[3840×2160 24/25/30 Hz]、[4096 × 2160 24 Hz]
[*3] **PC IN**端子に接続したパソコンの映像を**HDMI OUT SUB**（アウト サブ）端子から出力する場合、お使いのテレビによっては映像が正しく表示されない場合があります。
[*4] **HDMI OUT SUB**端子の対応解像度（「**モニター出力設定**」を「**サブ**」に設定している場合）
[*5] **HDMI OUT SUB**端子の対応解像度（「**モニター出力設定**」を「**両方**」に設定している場合）

RIHDと互換性のあるテレビやプレーヤー / レコーダーをご使用になるには

RIHDはオンキヨー製品の連動機能の名称です。本機ではHDMI規格で定められているCEC（Consumer（コンシューマー）Electronics（エレクトロニクス） Control（コントロール））を使用した連動を行うことができます。CECに対応したいろいろな機器と連動することができますが、RIHD対応機器と推奨製品以外での動作は保証いたしません。

RIHD連動機能を使用するには、オーディオリターンチャンネル（ARC）を使用するか（➔ P.79）、光デジタルケーブルでの接続が必要です。

RIHDと互換性のある機器について

下記の製品がRIHDと互換性があります（2012年1月現在）。最新の情報は、オンキヨーホームページでご確認ください。

■テレビ【順不同】

- パナソニック製のビエラリンク対応テレビ
- 東芝製のレグザリンク対応テレビ
- 日立製のWoooリンク対応テレビ
- ソニー製のブラビアリンク対応テレビ*1
- シャープ製のテレビ

*1　当社が独自の調査で動作確認した結果です。

■プレーヤー、レコーダー【順不同】

- オンキヨー製、インテグラ製のRIHD対応プレーヤー
- パナソニック製のビエラリンク対応プレーヤー、レコーダー（パナソニック製のビエラリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- 東芝製のレグザリンク対応プレーヤー、レコーダー（東芝製のレグザリンク対応テレビと合わせてお使いの場合のみ）
- シャープ製のプレーヤー、レコーダー（シャープ製のテレビと合わせてお使いの場合のみ）

*　上記以外の機器でもHDMI規格のCECに対応していれば連動する可能性がありますが、動作は保証されません。

ご注意

- 連動機能が適切に働くように、HDMI端子には以下の台数より多くのRIHD対応機器を接続しないでください。
- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー：最大3台
- ブルーレイディスク/DVDレコーダー：最大3台
- ケーブルテレビチューナー、地上デジタルチューナー、衛星放送チューナー：最大4台
- 本機にHDMIを介して他のAVレシーバーを接続しないでください。
- RIHD対応機器が上記より多く接続されている場合には、連動機能は保証いたしません。

RIHD接続をするとできる操作

■RIHDと互換性のあるテレビの場合

本機をRIHDと互換性のあるテレビに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- テレビの電源をスタンバイ状態にすると本機もスタンバイ状態に切り換わります。
- テレビのメニュー画面で、音声を本機に接続したスピーカーから音を出すか、あるいはテレビのスピーカーから音を出すかを設定できます。
- テレビのアンテナや外部入力の映像・音声も本機に接続したスピーカーから音を出すことができます。（HDMIケーブル以外に光デジタルケーブル等の接続が必要です。）
- テレビのリモコンで本機の入力を選択できます（東芝製のテレビのみ）。
- テレビのリモコンで本機の音量調整やその他の操作ができます。

■RIHDと互換性のあるプレーヤー/レコーダーの場合

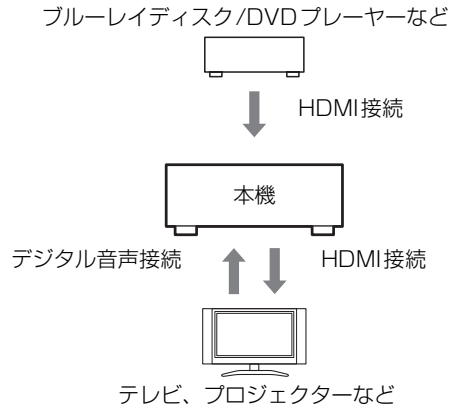
本機をRIHDと互換性のあるプレーヤー/レコーダーに接続してお使いになると、下記のリンク操作ができます。

- プレーヤー/レコーダーの再生を開始すると、本機の入力がその機器の接続されているHDMI入力に切り換わります。
- 本機に付属のリモコンでプレーヤー/レコーダーの操作ができます。

*　お使いの機器によっては、すべての機能が働くわけではありません。

■接続と設定のしかた

1 接続と設定を確認する

1. 本機の**HDMI OUT MAIN**端子にテレビのHDMI入力を接続する。

2. テレビからの音声出力を、光デジタルケーブルで本機の**OPTICAL IN 2**端子に接続する。

ご注意

- オーディオリターンチャンネル（ARC）に対応したテレビを使用して、オーディオリターンチャンネル（ARC）機能を利用するときは、この接続は必要ありません（➔ P.79）。

3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）のHDMI出力を本機の**HDMI IN 1**端子に接続する。

ご注意

- ブルーレイディスク/DVDプレーヤー（レコーダー）を他の端子に接続する場合はHDMI入力の割り当てをする必要があります（➔ P.61）。このとき、**HDMI IN**端子に接続された機器を「TV/CD」入力に割り当てないでください。適切なRIHD連動操作の保証ができなくなります。

2 「HDMI」メニューの各項目を下記の設定にする

- HDMI コントロール(RIHD)：**オン**
- **オーディオリターンチャンネル（ARC）**：**自動**

各設定の詳細説明は（➔ P.78、79）をご覧ください。

ヒント

- 本体の**RIHD**ボタンを押して、RIHDをオンにすることもできます。最初にオンにしたときは自動的に他の設定も上記のようになります。

3 設定の確認をする

1. すべての接続機器の電源を入れます。
2. テレビの電源を切り、リンク動作によって接続機器の電源が自動で切れることを確認します。
3. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーの電源を入れます。
4. ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを再生して、以下のことを確認します。
   - 本機の電源が自動で入り、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー/レコーダーを接続している入力が選択される。
   - テレビの電源が自動で入り、本機を接続している入力が選択される。
5. お使いのテレビの取扱説明書をご覧になりながら、テレビのメニュー画面から「テレビのスピーカーの使用」を選び、テレビのスピーカーから音が出て本機に接続したスピーカーから音が出ないことを確認します。
6. テレビのメニュー画面から、「本機に接続したスピーカーの使用」を選び、本機に接続したスピーカーから音が出てテレビのスピーカーから音が出ないことを確認します。

ご注意

- 初めてお使いになるときや、各機器の設定を変えたとき、各機器の主電源をオフにしたとき、コンセントから電源コードを抜いたり、停電したりしたときも上記の操作を行ってください。

4 リモコンで操作する

操作できるボタンについては「その他の機器を操作する」をご覧ください（➔ P.87）。

ご注意

- DVDオーディオ、スーパーオーディオCDの音声はテレビのスピーカーから音声が出ないことがあります。DVDプレーヤーの音声出力設定を2ch PCMに設定すれば、テレビのスピーカーから音を出すことができるようになります。（プレーヤーによっては、できないことがあります。）
- テレビのスピーカーから音を出す操作をしても、本機の音量調整や入力の切り換え操作をすると、本機に接続したスピーカーから音が出るようになります。テレビから音を出したいときは、もう一度テレビの操作をやり直してください。
- RIやRI EX対応機器と接続してご使用の場合で動作がうまく行かないときは、RIケーブルを外して操作してみてください。
- テレビの入力を、本機が接続されたHDMI端子以外を選ぶと、本機の入力は「TV/CD」に切り換わります。
- 本機は、必要と判断したとき、連動して自動的にパワーオンします。RIHD対応テレビやプレーヤー・レコーダーと接続してお使いの場合でも、必要ないときは本機はパワーオンしません。テレビ側の設定で、音声をテレビから出力するように設定していると、連動してパワーオンしないことがあります。
- 組み合わせる機器により、本機との連動動作が働かない場合があります。この場合は、本機を直接操作してください。
- 本機のリモコンで、RIHDを利用してプレーヤー/レコーダーの操作ができないときは、その機器がRIHDやCECのリモコン操作に対応していないことが考えられます。リモコンにその機器のメーカーのリモコンコードを登録してご使用ください。

HDMIについて

放送のデジタル化に対応することを目的としたHDMI（High-Definition Multimedia Interface）は、テレビ、プロジェクター、ブルーレイディスク/DVDプレーヤー、デジタルチューナーなどの映像機器の接続に対応した新しいデジタルインターフェイス規格です。これまで、映像機器を接続するには、さまざまな映像・音声コードが個別に必要でした。HDMIでは、1本のコードで、制御信号、デジタル映像、最大8チャンネルのデジタル音声（2チャンネルPCM、マルチチャンネルデジタル音声、マルチチャンネルPCM）を伝送できます。

HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）*1規格と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（テレビやモニターによってはこの機能が働かず、映像が出ない場合もあります。）

本機はHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しているため、HDCPに対応した映像機器のみ映像を表示できます。

本機のHDMIインターフェイスは以下の規格に基づいています： オーディオリターンチャンネル、3D、x.v.Color、DeepColor、Lip Sync、DTS-HD Master Audio、DTS-HD High Resolution Audio、Dolby TrueHD、Dolby Digital Plus、DSD、マルチチャンネルPCM

対応音声フォーマット

- 2チャンネルリニアPCM（32～192kHz、16/20/24bit）
- マルチチャンネルリニアPCM（最大7.1チャンネル、32～192kHz、16/20/24bit）
- ビットストリーム（DSD、Dolby Digital、Dolby Digital Plus、Dolby TrueHD、DTS、DTS-HD High Resolution Audio、DTS-HD Master Audio）

お使いのブルーレイディスク/DVDプレーヤーも上記の音声フォーマットのHDMI出力に対応している必要があります。

著作権の保護について

本機は、デジタル映像信号の著作権保護技術であるHDCP（High-bandwidth Digital Contents Protection）*2に対応しています。本機と接続する機器もHDCPに対応している必要があります。

*1 DVI（Digital Visual Interface）：DDWG*3が、1999年に策定したデジタルディスプレイ・インターフェース規格。

*2 HDCP（High-bandwidth Digital Content Protection）：Intelが開発したHDMI/DVI用の映像向けの暗号化処理方式。映像コンテンツ保護を目的にしており、暗号化された信号を受信するには、HDCP準拠のHDMI/DVIレシーバーが必要です。

*3 DDWG（Digital Display Working Group）：Intel、Silicon Image、Compaq Computer、富士通、Hewlett-Packardなどが中心となって運営する、ディスプレイのデジタルインターフェースの標準化を推進する団体。

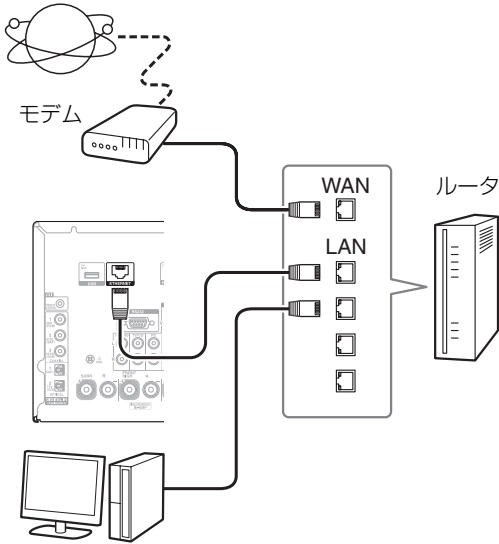
ご注意

- HDMIのビデオストリーム（映像信号）は、DVI（Digital Visual Interface）と互換性があるため、HDMI-DVI変換アダプターを使って、DVI入力を備えたテレビやモニターを接続できます。（DVI接続では映像信号しか伝送されないため、別途音声接続を行う必要があります。）しかし、このようなアダプターを利用した場合の正常な動作は保証されていません。また、PCから出力される映像信号についても保証されません。
- HDMIの音声信号（サンプリングレート、ビット長など）は、接続した機器によって制限を受ける場合があります。HDMI接続した機器の映像の品質がよくない場合や音声が出ない場合は、機器側の設定を確認してください。詳細については、接続機器の取扱説明書をご覧ください。

ネットワーク /USBについて

ネットワーク機器の接続

ネットワーク機器がそろったら、以下のように接続して、ホームネットワーク（LAN）を構築します。

インターネットラジオ

パソコンまたはネットワークサーバー

ヒント

- 各ネットワーク機器やインターネットへの接続には、個々の機器の設定が必要になります。
  これらの設定については、各機器の取扱説明書やメーカー /ISP（インターネットサービスプロバイダ）にご確認ください。

ホームネットワーク（LAN）について

複数の機器をケーブルなどで接続し、お互いに通信できるようにしたものをネットワークといいます。
家庭ではパソコンやゲーム機をインターネットに接続したり、複数のパソコンで相互にデータをやりとりしたりするために、ネットワークを作る（一般的に構築するといわれます）ケースが多いようです。
このように家庭内など比較的狭い範囲に構築されるネットワークはLAN（Local Area Network）と呼ばれます。
この取扱説明書では、このLANのことをもう少し身近に感じられるようにホームネットワーク（家庭のネットワーク）と書いています。
本機はパソコンなどのネットワークサーバーと接続することでネットワークサーバー内（パソコン内）の音楽ファイルを再生したり、インターネットと接続することでインターネットラジオを聴いたりすることができます。
このとき、本機とパソコンやインターネットを直接接続するわけではありません。
パソコンやインターネットと接続するためにいくつかの機器（ネットワーク機器）が必要になります。

ホームネットワーク（LAN）構築に必要な機器

本機のNET機能を使用するためのホームネットワーク（LAN）に必要な機器は以下の通りです。

■ ルータ

本機とパソコンや、本機とインターネットの間に入って情報（データ）の流れをコントロールするのが、このルータという機器です。
ネットワークでは情報（データ）の流れをトラフィック（日本語では「交通」の意）といいます。ルータは各機器の中でトラフィックコントロールつまり情報の交通整理をする役割を担っています。

- 本機では **100Base-TXスイッチ内蔵のブロードバンドルータ**の使用を推奨します。
- また、**DHCP機能搭載**のルータであれば、ネットワークの設定を簡単にすることができます。
- ISP（インターネットサービスプロバイダ）と契約している場合（後述モデムの項参照）には、契約する**ISP業者が推奨するルータ**をご使用ください。

これらのルータについてはお買い求めの販売店または契約されているISPにご相談ください。

■ イーサネットケーブル（CAT-5）

ネットワークを構成する機器同士を実際につなぎ合わせるのが、このイーサネットケーブルです。イーサネットケーブルにはストレートケーブルとクロスケーブルがあります。

- 本機ではCAT-5に適合したイーサネットストレートケーブルを使用します。

イーサネットケーブルについてはお買い求めの販売店にご相談ください。

■ネットワークサーバー（パソコンなど/ネットワークサーバー使用時）

音楽ファイルを入れておいて、再生時に本機に曲を提供する機器です。

- 本機で使用する際に必要な条件は、ネットワークサーバーとして使用する機器によって異なります。
- 本機で音楽ファイルを快適に再生するための条件は、使用するネットワークサーバー（パソコンの性能）に依存します。それぞれの機器使用については、各取扱説明書をご覧ください。

■モデム（インターネットラジオ使用時）

ホームネットワーク（LAN）とインターネットを接続する機器です。
モデムにはインターネットと接続する形式によってさまざまな種類があります。
また、インターネットに接続するにはISP（インターネットサービスプロバイダ）というインターネットへの接続サービスを提供する会社と契約する必要があります。
インターネット接続には、契約する**ISP業者が推奨するモデム**をご使用ください。

1台でルータとモデムの機能を併せ持つ機器もあります。

以上のネットワーク機器のうち、NET機能「ネットワークサーバー」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、ネットワークサーバーが必要になります。
NET機能「インターネットラジオ」を使用するには、ルータ、イーサネットケーブル、モデム（およびISPとの契約）が必要になります。

サーバーについて

■ネットワークサーバー内の音楽ファイルを再生する

本機は以下のネットワークサーバーに対応しています：

- Windows Media Player 11
- Windows Media Player 12
- Windows Media Connect 2.0
- DLNA準拠サーバー

Windows Vista®（ビスタ）ではWindows Media Player 11が標準でインストールされています。
Windows Media® Player 11 for Windows XPはマイクロソフト株式会社のウェブサイトから無料でダウンロードできます。
ネットワークサーバーは本機と同じネットワークに接続していなければなりません。
1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。

ご注意

- メディアサーバー種類によっては、本機から認識できなかったり、サーバーに保存された音楽ファイルを再生できない場合があります。

■リモート再生する

リモート再生とは、ホームネットワーク内のDLNA準拠のコントローラー機器やPCを操作することによりそれぞれの機器に保存された音楽ファイルを本機で再生する機能です。

- Windows Media Player 12
- DLNA 1.5準拠のネットワークサーバー、コントローラー機器

※設定方法は使用するネットワークサーバーやコントローラー機器によって異なります。お使いの機器の取扱説明書をご覧ください。

Windows 7では、Windows Media Player 12が標準でインストールされています。詳しくは、マイクロソフト社のホームページをご覧ください。

USBデバイスについて

- 本機ではUSB Mass（マス） Storage（ストレージ） Class（クラス）規格に対応しているUSBストレージを使用できます。
- USBストレージのフォーマットは、FAT16、FAT32に対応しています。
- USBストレージがパーティションで区切られている場合、本機では複数のUSBストレージとして認識されます。
- 1フォルダにつき20000曲まで、フォルダは16階層まで対応しています。
- 本機はハブおよびハブ機能付きUSB機器に対応していません。これらの機器を本機に接続しないでください。

ご注意

- 接続したメディアが対応していない場合、本機の表示部に「**No Storage**」というメッセージが表示されます。
- 著作権保護された音声ファイルは本機では再生できません。
- USB対応オーディオプレーヤーと本機を接続した場合、オーディオプレーヤーの画面と本機の画面が異なる場合があります。またオーディオープレーヤーに依存する管理機能（音楽ファイルの分類、ソート、付加情報など）は本機では使用できません。
- 本機の**USB**端子にパソコンを接続しないでください。本機の**USB**端子にはパソコンから音声を入力できません。
- USBカードリーダーに挿したメディアは、この機能で使えないことがあります。
- USBストレージやその内容によっては、読み込みに時間がかかる場合があります。
- USBストレージによっては、正しく内容を読み込めなかったり、電源が正しく供給されなかったりする場合があります。
- USBストレージの使用に際して、データの損失や変更、ストレージの故障などが発生しても弊社は一切責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。USBストレージに保存されているデータは、本機でのご使用の前にバックアップを取っておくことをおすすめします。
- 本機の**USB**端子から電源供給を受けるタイプのハードディスクの動作は保証できません。
- USBストレージにACアダプターが付属している場合は、ACアダプターをつないで家庭用電源でお使いください。

- 電池で動作するオーディオプレーヤーを使う場合は、電池の残量が充分にあることを確認してください。
- 本機はセキュリティ機能付きUSBメモリーに対応していません。

対応音声フォーマット

- 本機で再生できる音楽ファイルのフォーマットは次の通りです。
- 下記のフォーマットであっても再生できる音楽ファイルは、ネットワークサーバーに依存します。たとえば、Windows Media® Player 11をお使いの場合、パソコンに入っているすべての音楽ファイルが再生できるわけではなく、Windows Media® Player 11のライブラリに登録されている音楽ファイルのみが再生できます。
- VBR（可変ビットレート）で記録されたファイルを再生した場合、再生時間が正しく表示されないことがあります。

ご注意

- リモート再生では、本機は次のフォーマットには対応していません：FLAC、Ogg Vorbis、DSD、Dolby TrueHD

■MP3（.mp3または.MP3）

- 対応フォーマット：MPEG-1/MPEG-2 Audio Layer-3
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■WMA（.wmaまたは.WMA）

- 著作権保護されたファイルは、再生できないことがあります。
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：5～320 kbpsおよびVBR
- WMA Pro/Voice非対応

■WMA Lossless（.wmaまたは.WMA）

- 対応サンプリングレート：44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■WAV（.wavまたは.WAV）

WAVファイルは非圧縮のPCMデジタルオーディオを含みます。

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■AAC（.aac/.m4a/.mp4/.3gp/.3g2/.AAC/.M4A/.MP4/.3GPまたは.3G2）

- 対応フォーマット：MPEG-2/MPEG-4 Audio
- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 対応ビットレート：8～320 kbpsおよびVBR

■FLAC（.flacまたは.FLAC）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

■Ogg Vorbis（.oggまたは.OGG）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz
- 対応ビットレート：48～500 kbpsおよびVBR
- 互換性のないファイルは再生できません。

■LPCM（Linear PCM）

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：8 bit、16 bit、24 bit

* ネットワーク経由での再生のみに対応しています。

■Apple Lossless (.m4a/.mp4/.M4A/.MP4)

- 対応サンプリングレート：8 kHz、11.025 kHz、12 kHz、16 kHz、22.05 kHz、24 kHz、32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz
- 量子化ビット：16 bit、24 bit

■DSD (.dsf or .DSF)

- 対応サンプリングレート：2.8224 MHz

■Dolby TrueHD (.vr/.mlp/.VR/.MLP)

- 対応サンプリングレート：48 kHz、64 kHz、88.2 kHz、96 kHz、176.4 kHz、192 kHz

DLNAについて

DLNAとは、Digital Living Network Allianceの略称で、ホームネットワーク（LAN）によってパソコンやゲーム機、デジタル家電を相互に接続し、音楽や画像、動画などのデータをやりとりするための標準化を進めている団体の名称です。本機は、DLNAガイドラインV1.5に準拠しています。

ライセンスと商標について

x.v.Colorは、ソニー株式会社の商標です。

米国特許：5,956,674; 5,974,380; 5,978,762; 6,487,535; 6,226,616; 7,212,872; 7,003,467; 7,272,567; 7,668,723; 7,392,195; 7,930,184; 7,333,929; 7,548,853; 7,283,634およびその他の国における特許（出願中含む）に基づき製造されています。DTSとそのシンボルはDTS社の登録商標です。また、DTS-HD、DTS-HD Master AudioおよびDTSロゴはDTS社の商標です。製品にはソフトウエアを含みます。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、Pro Logic、Surround EXおよびダブルD記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Music Optimizer™は、オンキヨー株式会社の商標です。

HDMI
HIGH-DEFINITION MULTIMEDIA INTERFACE

HDMI、HDMIロゴおよび
High-Definition Multimedia Interfaceは、
HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

InstaPrevueおよびInstaPrevueロゴは、
Silicon Image, Inc. の商標または登録商標です。

THX
SELECT 2 PLUS

THXおよびSelect2は、THX社の商標または登録商標です。Surround EXはドルビーラボラトリーズの登録商標です。

THX Select2 Plus

THX Select2 Plusの認証を取得したホーム・シアター・コンポーネントは、いずれも一連の厳しい品質/性能試験に合格しています。
このような製品にのみ付与されている
THX Select2 Plusのロゴは、ご購入いただいたホーム・シアター製品が、長期間にわたって卓越した性能を発揮することを保証するものです。
THX Select2 Plusの要件には、パワーアンプ性能、プリアンプ性能、デジタル/アナログ空間での動作などをはじめとする、何百ものパラメータが定義されています。またTHX Select2 Plusレシーバーは、劇場用映画のサウンドトラックを正確にホーム・シアターで再現するための特許技術である、THX技術（THXモード）を備えています。

Made for
iPod iPhone

iPhone、iPod、iPod classic、iPod nano、
iPod shuffle、iPod touchは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。
「Made for iPod」、「Made for iPhone」とは、それぞれiPod、iPhone専用に接続するよう設計され、アップルが定める性能基準を満たしているとデベロッパによって認定された電子アクセサリであることを示します。
アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。
この製品とiPod、iPhoneを使用する際、ワイヤレス機能に影響する場合があります。

Audyssey Laboratories™からの実施権に基づき製造されています。米国および他の国々の特許申請中。
Audyssey MultEQ® XT32、
Audyssey Dynamic EQ®、
Audyssey Dynamic Volume®およびAudyssey DSX®はAudyssey Laboratoriesの登録商標です。

DLNA、DLNA CERTIFIEDは、Digital Living Network Allianceの商標または登録商標です。

Microsoft、Windows、Windows Mobile、
Windows Media、ActiveSync、DirectXおよび
Internet Explorerは米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。
Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

Qdeo、QuietVideoはMarvell社の商標です。

HQV® (Hollywood Quality Video) は
Qualcomm Incorporatedの商標です。

Theater-Dimensional

Theater-Dimensionalは、オンキヨー株式会社の商標です。

AACロゴは、ドルビーラボラトリーズの商標です。

Re-Equalization、Re-EQロゴはTHX社の商標です。

VLSC

VLSCは、オンキヨー株式会社の登録商標です。

MHL、MHLロゴおよびMobile High-Definition Linkは、MHL LLCの商標または登録商標です。

主な仕様

アンプ（音声）部

定格出力 全チャンネル
145W（6Ω、全高調波歪率0.08%以下、1ch駆動時、20Hz～20kHz、JEITA）

実用最大出力 全チャンネル
230W（6Ω、1kHz、1ch駆動時、JEITA）

ダイナミックパワー *
* IEC-60268-short-term maximum output power.
300W（3Ω、Front）
250W（4Ω、Front）
150W（8Ω、Front）

総合ひずみ率 0.08%（20Hz～20kHzハーフパワー）

ダンピングファクター
60（Front、1kHz、8Ω）

入力感度/インピーダンス
LINE：200mV/47kΩ
PHONO MM：2.5mV/47kΩ

RCA定格出力電圧/インピーダンス
PRE OUT：200mV/470Ω

RCA最大出力電圧/インピーダンス
PRE OUT：4.6V/470Ω

PHONO最大許容入力
70mV（MM 1kHz 0.5% Direct）

周波数特性 5Hz～100kHz/+1dB、－3dB（Direct mode）

トーンコントロール最大変化量
Bass：±10dB（50Hz時）
Treble：±10dB（20kHz時）

SN比 110dB（LINE、IHF-A）
80dB（PHONO MM、IHF-A）

スピーカー適応インピーダンス
4Ω～16Ω

映像部

入力感度・出力電圧/インピーダンス
1.0Vp-p/75Ω（コンポーネントY）
0.7Vp-p/75Ω（コンポーネントPb/Cb、Pr/Cr）
1.0Vp-p/75Ω（コンポジット）

コンポーネント映像周波数特性
5Hz～100MHz/+0dB、－3dB

AM/FMチューナー部

FM受信範囲 76.0MHz～90.0MHz

AM受信範囲 522kHz～1629kHz

プリセットチャンネル数
40

総合

電源・電圧 AC100V・50/60Hz

消費電力 620W

無音時消費電力 90W

待機時電力 0.1W

最大外形寸法 435（幅）×198.5（高さ）×435.5（奥行）mm

質量 18.3kg

■HDMI

入力 IN 1、IN 2、IN 3、IN 4、IN 5、IN 6、IN 7、AUX INPUT

出力 OUT MAIN、OUT SUB

映像解像度 1080p

音声形式 Dolby TrueHD、DTS-HD Master Audio、DVD-Audio、DSD

対応 3D、オーディオリターンチャンネル、DeepColor、x.v.Color、LipSync、CEC (RIHD)

■映像入力

D4 IN 1、IN 2

コンポーネント IN 1、IN 2

コンポジット BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME 1、AUX

アナログRGB PC IN

■映像出力

D4 OUT

コンポーネント MONITOR OUT

コンポジット MONITOR OUT

■音声入力

デジタル OPTICAL：2（後面）、1（前面）
COAXIAL：3

アナログ BD/DVD、CBL/SAT、STB/DVR、GAME 1、PC、TV/CD、PHONO、AUX

■音声出力

アナログ ZONE2 LINE OUT、ZONE3 LINE OUT

マルチチャンネルプリ
9

サブウーファープリ 2

スピーカー 左右フロント、センター、左右サラウンド、左右フロントワイド、左右サラウンドバック、左右フロントハイ

ヘッドフォン 1（6.3φ）

■その他

セットアップマイク 1

RS232 1

イーサネット 1

USB 1（前面）、1（後面）

RI 1

※仕様および外観は予告なく変更することがあります。

ONKYO

オンキヨー ご相談窓口・修理窓口のご案内

※販売店の長期保証制度にご加入いただいた製品の保証期間内の修理は、お買い求めの販売店へご依頼いただくようお願いします。

■「送付」による修理をご希望の場合は

下記のオーディオリペアセンターへご送付ください。

〒682-0925 鳥取県倉吉市秋喜243番地
オンキヨー 鳥取オーディオリペアセンター 修理受付窓口宛 050-3161-9555
（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■ お近くの修理拠点へ「持込み」をご希望の場合は

下記のURLにて全国の修理拠点のご案内がございます。お持込みの際には営業日を確認のうえでご訪問いただくようお願いします。

（詳しくは）http://www.jp.onkyo.com/support/servicebase.htm
（ONKYOホームページの「サポート」→「オーディオ製品のサポート」→「修理のお手続き」で閲覧可能）

■「出張修理」をご希望の場合、その他ご不明な点は

下記のオンキヨー オーディオコールセンターへご相談ください。

オーディオコールセンター 050-3161-9555（IP電話）
（受付時間：10:00〜18:00 土・日・祝日及び弊社で定める休業日を除きます）

※出張修理の際は、修理費用以外に出張費用が別途かかります。また、地域によっては、出張修理のできないエリアがございます。あらかじめご了承ください。

2012年1月現在 住所、電話番号、受付時間などは変更になることがございます。

修理について

■保証書

この製品には保証書を別途添付していますので、お買い上げの際にお受け取りください。
所定事項の記入および記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。
保証期間は、お買い上げ日より１年間です。

■調子が悪いときは

意外な操作ミスが故障と思われています。
この取扱説明書をもう一度よくお読みいただき、お調べください。本機以外の原因も考えられます。ご使用の他のオーディオ製品もあわせてお調べください。それでもなお異常のあるときは、電源プラグを抜いて修理を依頼してください。

修理を依頼されるときは、下の事項をお買い上げの販売店、または本書「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」記載のオンキヨー修理窓口までお知らせください。

- ▶ お名前
- ▶ お電話番号
- ▶ ご住所
- ▶ 製品名 TX-NR818
- ▶ できるだけ詳しい故障状況

■オンキヨー修理窓口について

詳細は本書「オンキヨーご相談窓口・修理窓口のご案内」をご覧ください。

■保証期間中の修理は

万一、故障や異常が生じたときは、商品と保証書をご持参ご提示のうえ、お買い上げの販売店またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。詳細は保証書をご覧ください。

■保証期間経過後の修理は

お買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料修理致します。

■補修用性能部品の保有期間について

本機の補修用性能部品は、製造打ち切り後８年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。保有期間経過後でも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますのでお買い上げ店、またはオンキヨー修理窓口へご相談ください。

ご購入されたときにご記入ください。
修理を依頼されるときなどに、お役に立ちます。

ご購入年月日：＿＿＿＿年＿＿月＿＿日

ご購入店名：＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

Tel.　　（　　　）

メモ：